第2節　吉田構内（吉田遺跡）の調査

1．総合研究棟（国際総合科学部）改修工事に伴う予備発掘調査・本発掘調査

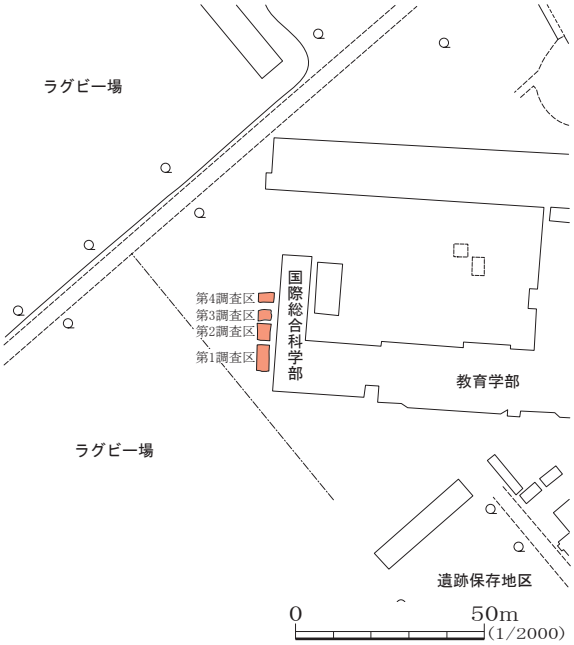


図 4　調査区位置図

写真 34　調査地点遠景（北上空から）

写真 35　調査地点近景（北西から）

［予備発掘調査］

調査地区　吉田構内H-18・19区

調査面積　50㎡

調査期間　平成27年7月30日～8月7日

調査担当　横山成己　山田圭子

［本発掘調査］

調査地区　吉田構内H-18・19区

調査面積　14.6㎡

調査期間　平成27年8月19日～8月28日

調査担当　横山成己　山田圭子

調査結果

（1）予備発掘調査の経緯（図4、写真34）

平成27年度に国際総合科学部が新設されたことを受け、学部本館の改修工事が計画された。新学部本館には教育学部校舎の一部が充てられたが、校舎建築時に実施された発掘調査では、弥生時代後期の竪穴住居跡4（可能性のあるものを含めると5）棟をはじめとする遺構が密に検出されている[註1]ことから、改修工事には慎重な対応を必要とした。工事計画が具体化していく過程で、外付けのエレベーターシャフトが設けられることが判明したことから、平成27年度第1回埋蔵文化財資料館専門委員会（平成27年6月16日開催）において、埋蔵文化財保護対応が審議された。審議の結果、エレベーターシャフト建設可能範囲全域に対しトレンチ調査を実施し、遺構の破壊が最小限である場所を選定した上で、本発掘調査を実施することが承認された。

【註】

1）河村吉行（1983）「教育学部構内H－19区の発掘調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅰ』，山口

（2）予備発掘調査の経過（写真35）

平成27年7月29日に準備工および調査区内除草

を行い、現地調査前写真を撮影した（写真35）。調査区に関しては、既設建物西壁面から1m離した位置に、東西幅2m、南北長20.8mのトレンチ設定を予定していたが、樹木の伐採を最小限にとどめるため、樹木周囲は掘削を避けることとなった。

翌30日に重機掘削を実施した。トレンチ北側（第4調査区側）から掘削を進めたが、既設建物の余掘りが想定より大きく、攪乱範囲が建物壁より約2.5mの規模（調査区東壁より1.5m）に達することが明らかとなった。この状況でのトレンチ調査では、開発予定域における遺構の分布の把握は困難であることから、施設環境部と緊急協議を行い、余掘り推定範囲での調査を減じ、代替処置として試掘坑を4箇所に設置（第1～4調査区）し、エレベーターシャフト開発域西限まで遺構の検出を行うこととした。31日以降、第1調査区から旧耕土の人力掘削および遺構の検出を実施した。調査の結果、第1調査区では土壙3基、ピット6基、北東-南西方向に走る溝1条、杭跡6箇所を検出し、第2調査区では杭跡2箇所を、第3調査区では土壙1基、ピット5基、杭跡5箇所を、第4調査区では溝1条を検出した。

8月7日（金）までに全調査区の記録作業まで終了し、予備発掘調査を終了した。

（3）本発掘調査の経緯

平成27年度第3回埋蔵文化財資料館専門委員会（平成27年8月18日開催）において、当開発工事計画に対する予備発掘調査成果が審議された。審議の結果、最も遺構が希薄であった第2調査区を中心にEVシャフトを増築することが決定されたため、本発掘調査を実施する運びとなった。

（4）本発掘調査の経過

平成27年8月19日に第1・3・4調査区の埋め戻しおよび樹木の抜根作業を行い、翌20日に第2調査区拡張のための重機掘削を行った。

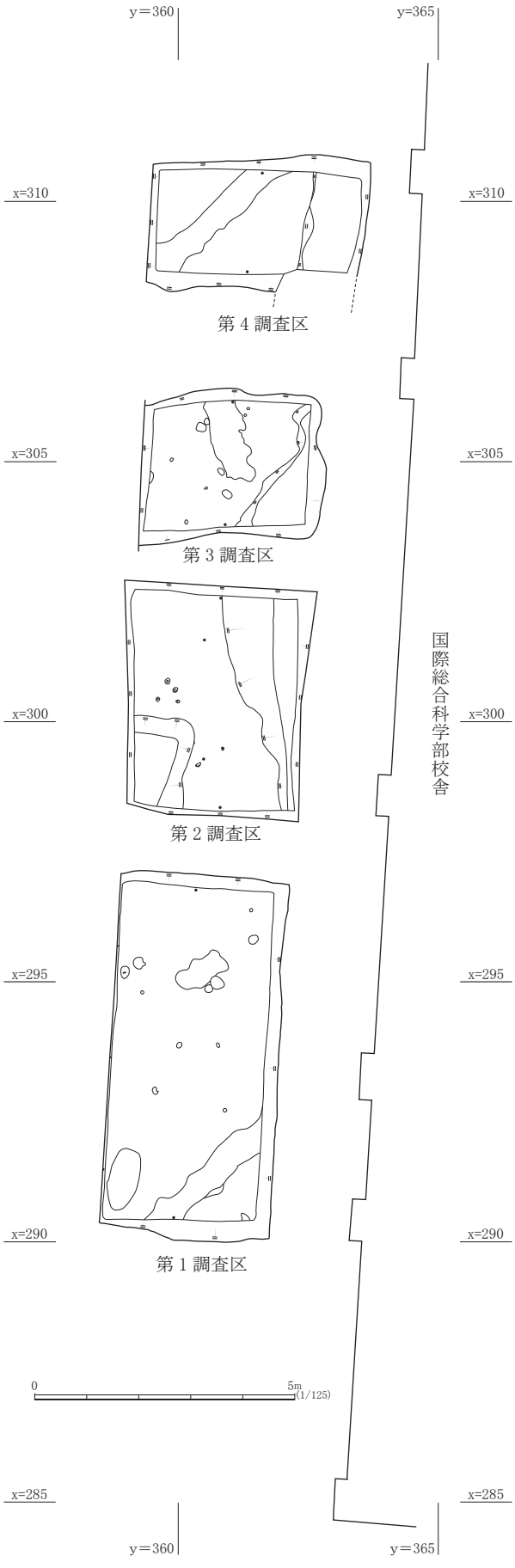


図 5　調査区位置詳細図

21日に遺構検出、24日に断面精査および記録写真の撮影を行い、25～26日は台風15号接近のため現場を封鎖し、台風通過後に復旧作業を行った。27日に各種実測作業、28日に地山の断ち割り調査を行い、翌28日に埋め戻しを終え、調査を終了した。

（5）基本層序（図6～9、写真37・39・41・43）

調査地は、造成土下に旧耕土および旧床土が遺存しており、その直下が明黄褐色(2.5Y7/4)シルトの地山となる。遺構検出面は地山上面となるが、その深度はコンクリートや砕石、植樹のための盛土を除くと、現地表下0.5～0.6mである。

（6）遺構

【第1調査区】（図6、写真36・37）

最も南側の調査区で、南北長7m×東西幅3.25mで設定した。土壙3基、ピット6基、溝1条、杭跡6箇所を検出した。現国際総合科学部本館における発掘調査成果（H－19区）および遺構埋土の土質の違いから、土壙（SK1～3）およびピット（Pit1～6）は弥生時代の遺構であり、溝は近世以降の水田耕作に伴うものと推測される。後世の水田構築に伴い地山が大きく削平を受けていることから、明確な住居跡は確認できなかったものの、土壙（SK1・2）の主軸（北東-南西方向）はH－19区にて検出された方形竪穴住居跡と同方向であることから、住居内土壙の可能性が考えられる。一方でSK1は0.7m×0.55mの平面楕円形を呈しており、幼児墓である可能性も排除できない。また、調査区が狭小であるため、並びが明確に確認できなかったが、ピットのいくつかは住居の主柱穴である可能性がある。溝（SD1）は幅0.5m、検出長約3mで、北東－南西方向に直線的に走っている。

なお当調査においては、遺構は掘削せず埋め戻し保存を行う方針であったが、Pit1にて検出時に土器1点が露出したため取り上げを行った（図10の1）。

【第2調査区】（図7、写真38・39・45）

第1調査区の北側に隣接する調査区で、予備発掘調査時は南北長2.5m×東西幅3.25mで設定し、本発掘調査時にエレベーターシャフト設置工事幅に合わせ南北長を4.5mに拡張した。

調査区の東側は校舎建築時の余掘りにより大きく攪乱を受けており、南西隅も攪乱を受けていた。検出された遺構は杭跡6箇所のみである。

本発掘調査では、調査の最終盤で調査区中央を東西方向に地山（明黄褐色(2.5Y7/4)シルト）の断ち割りを行った（写真45）。これは、既往の調査において、構内の沖積低地に見られる同層に縄文時代後晩期の土器片が含まれる場合があるとの指摘を受けたからであったが、当調査では土器を確認するに至らなかった。

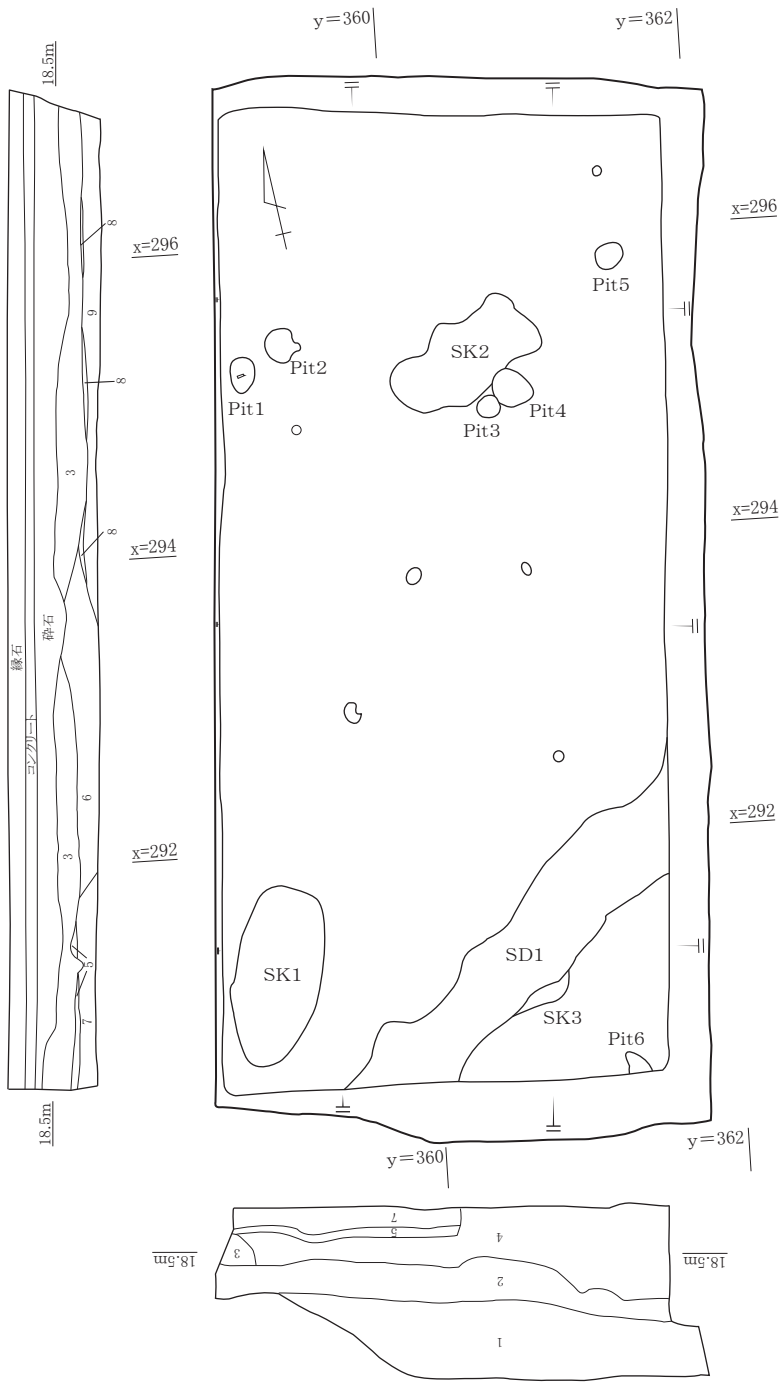
【第3調査区】（図8、写真40・41）

第2調査区の北側に隣接する調査区で、南北長2.7m×東西幅3.25mで設定した。

第2調査区同様、調査区の東から南東側は校舎建築時の余掘りにより大きく攪乱を受けていたが、土壙1基、ピット5基、杭跡5箇所を検出した。このうち、調査区の中央北側で検出した土壙（SK4）は長軸を北北西－南南東に向けており、全長1.6m以上、最大幅0.7mを測る。

【第4調査区】（図9、写真42・43）

最も北側の調査区で、南北長2.5m×東西幅4.15mで設定した。検出した遺構は溝1条（SD2）のみで、SD1と同様に幅0.5mで北東－南西方向に直線的に走っており、水田耕作に伴うものと推測される。



1 橙色（7.5YR7/6）粗砂…造成土（真砂土）
2 灰黄色（2.5Y6/2）粘質土…造成土
3 にぶい黄褐色（10YR5/4）粘質土…造成土
4 灰オリーブ色（5Y5/2）粘質土に
明黄褐色（10YR5/4）・にぶい黄褐色（10YR5/4）
粘質土のブロックが混ざる…造成土
5 黄灰色（2.5Y5/1）粘質土…旧耕土
6 黄灰褐色（10Y5/2）粘質土…旧床土
7 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土…旧床土
8 黄灰色（2.5Y5/1）粘質土…旧耕土
9 褐灰色（10YR5/1）粘質土…旧耕土

0 2m (1/50)

図6 第1調査区平面図・断面図

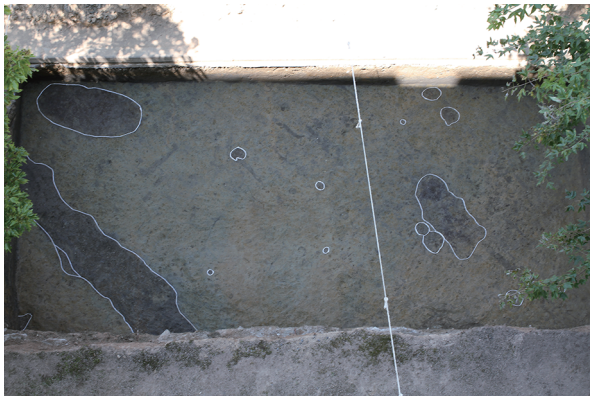


写真 36 第 1 調査区遺構検出状況（東から）

写真 37 第 1 調査区西壁土層断面（北東から）

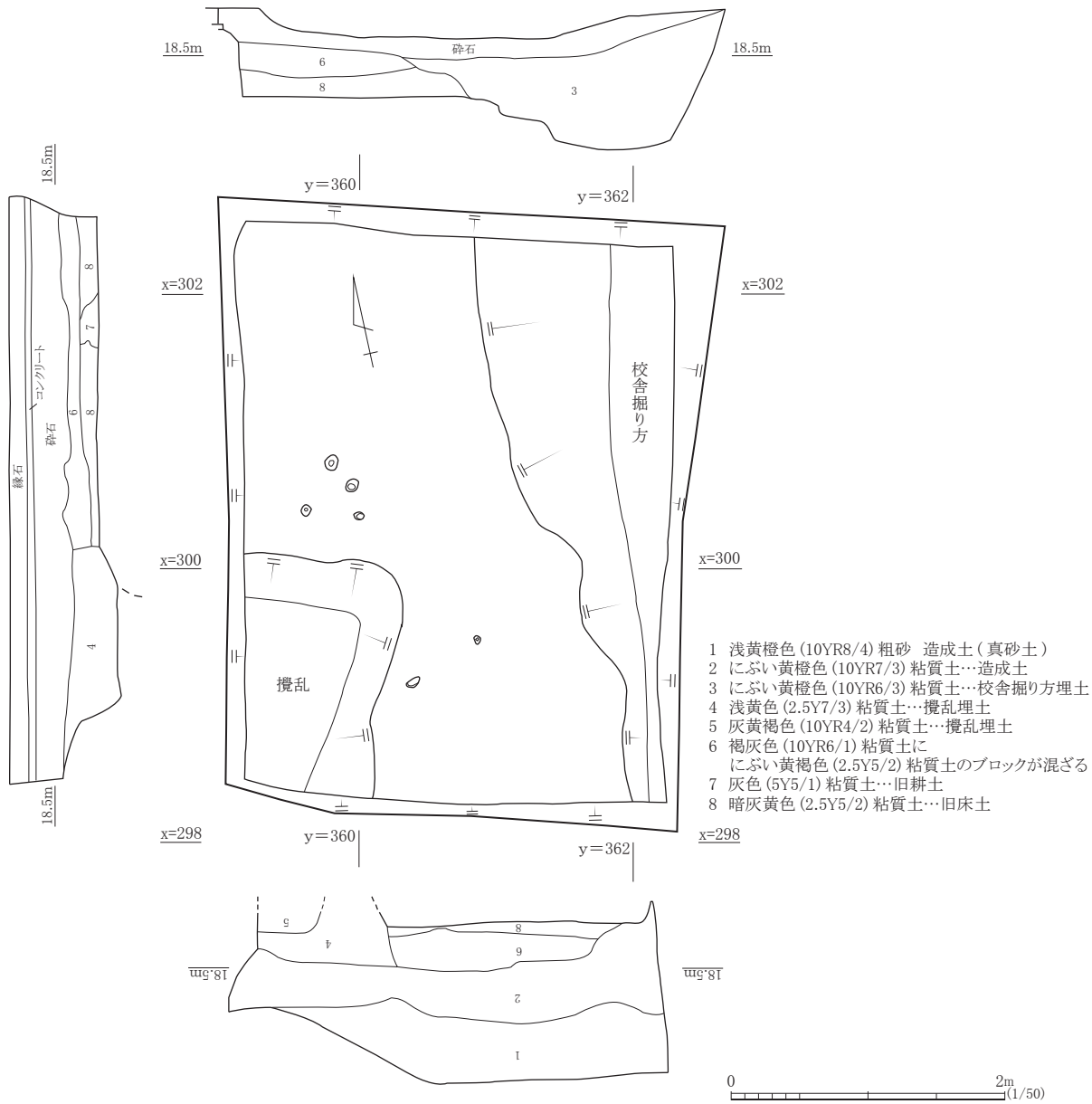
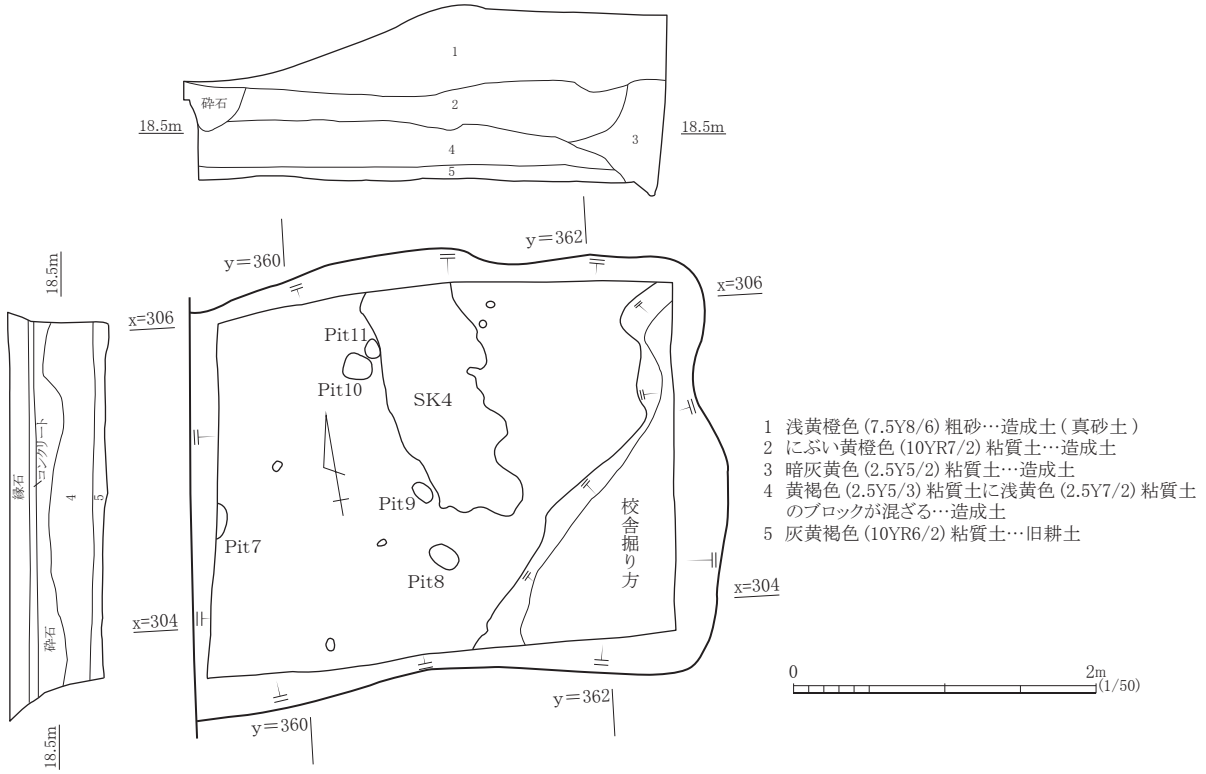


図7　第 2 調査区平面図・断面図

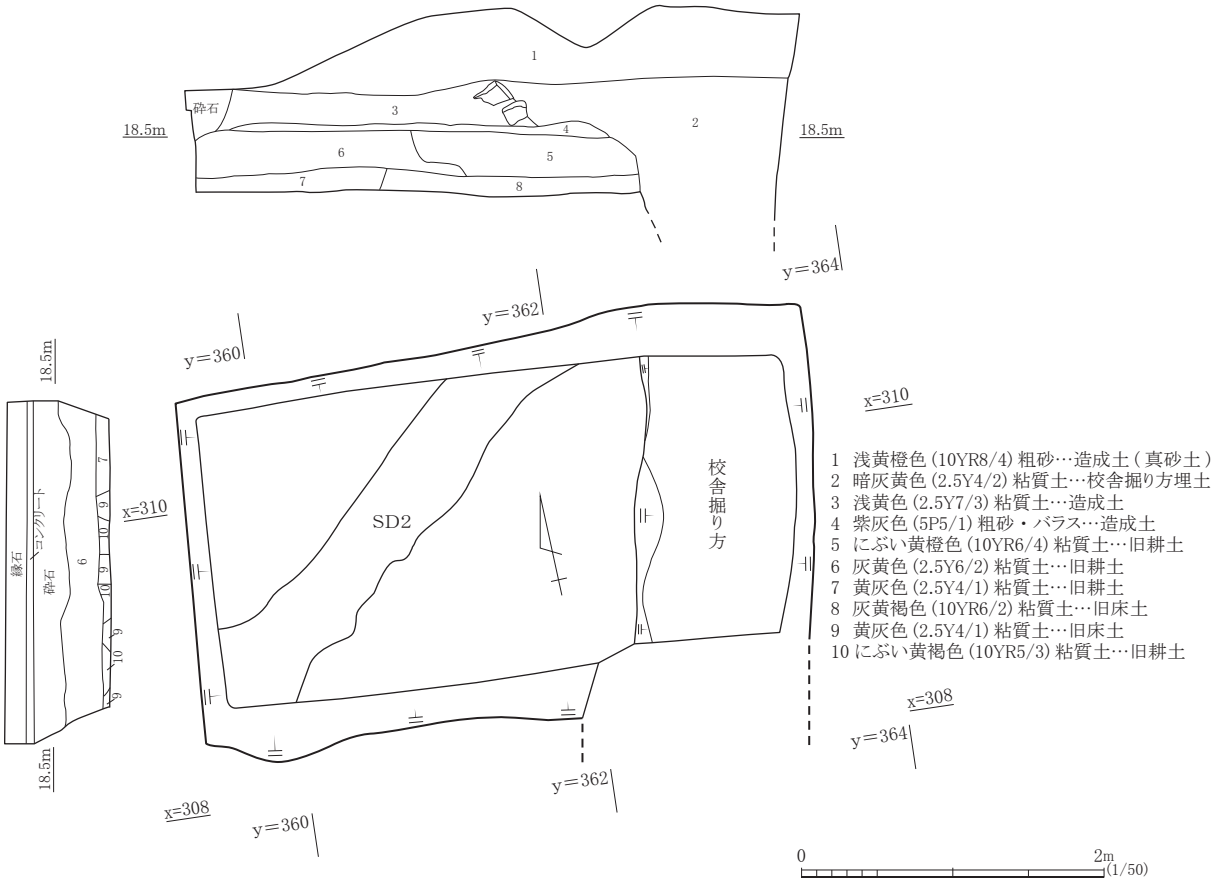
写真 38　第 2 調査区遺構検出状況（東から）

写真 39　第 2 調査区西・北壁土層断面（南東から）



1 浅黄橙色（7.5Y8/6）粗砂…造成土（真砂土）
2 にぶい黄橙色（10YR7/2）粘質土…造成土
3 暗灰黄色（2.5Y5/2）粘質土…造成土
4 黄褐色（2.5Y5/3）粘質土に浅黄色（2.5Y7/2）粘質土のブロックが混ざる…造成土
5 灰黄褐色（10YR6/2）粘質土…旧耕土

図8 第3調査区平面図・断面図



1 浅黄橙色（10YR8/4）粗砂…造成土（真砂土）
2 暗灰黄色（2.5Y4/2）粘質土…校舎掘り方埋土
3 浅黄色（2.5Y7/3）粘質土…造成土
4 紫灰色（5P5/1）粗砂・バラス…造成土
5 にぶい黄橙色（10YR6/4）粘質土…旧耕土
6 灰黄色（2.5Y6/2）粘質土…旧耕土
7 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土…旧耕土
8 灰黄褐色（10YR6/2）粘質土…旧床土
9 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土…旧床土
10 にぶい黄褐色（10YR5/3）粘質土…旧耕土

図9 第4調査区平面図・断面図

写真 40　第3調査区遺構検出状況（東から）

写真 41　第3調査区北壁土層断面（南東から）

写真 42　第4調査区遺構検出状況（東から）

写真 43　第4調査区北壁土層断面（南東から）

写真 44　作業風景（北東から）

写真 45　第2調査区地山断ち割り状況（北西から）

（6）遺物（図10、写真46、表4）

調査では遺構掘削を行わなかったため、出土した遺物は極少量であり、図示可能なものは掲載した6点のみである。

1は第1調査区Pit1から出土した弥生土器底部付近の小片である。内面に横ハケ状の調整痕が見られる。**2**～**5**は各調査区の旧耕土および旧床土から出土した。**2**は須恵器高台付坏底部片。底部外端のやや内側に断面方形の小ぶりな高台が付く。当調査地の南東約80mに位置する遺跡保存公園では、古墳時代後期から奈良時代にかけて機能した南東から北西に走る自然河川が確認されていることから、遺物の由来地を推定できる。**3**は端部外面を蒲鉾形に肥厚させる陶器鉢口縁部片。藁灰釉。**4**は磁器染付椀の口縁部片。**5**は粗陶器の大甕口縁部片。**6**は陶器椀の高台底部片。藁灰釉。

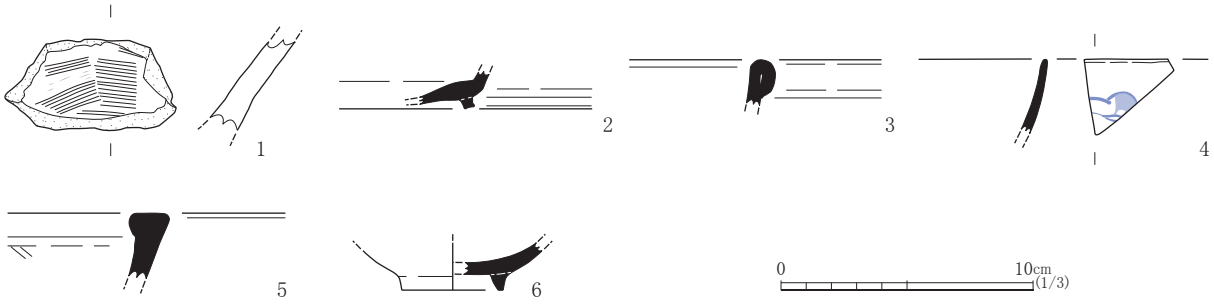


図 10　出土土器実測図

写真 46　出土遺物（土器）

表 4 出土遺物（土器）観察表

法量（ ）は復元値

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量（cm） ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
1	第1調査区 Pit1	弥生土器　甕または壺	底部	③残高2.5	①断面　浅黄橙色（10YR8/3） ②にぶい黄橙色（10YR7/3）	0.5～5mm φの長石・0.5～1mm φのくさり礫含む	
2	第1調査区 旧耕土	須恵器　高台付坏	底部	③残高1.45	①②断面　青灰色（5B5/1）	精緻（砂粒をほぼ含まない）	
3	第1調査区 旧耕土 ～ 旧床土	陶器　鉢	口縁部	③残高1.85	①灰白色（5Y7/1） ②灰白色（5Y8/1） 断面　にぶい橙色（7.5YR6/4）	精緻（砂粒をほぼ含まない）	藁灰釉
4	第1調査区 旧耕土 ～ 旧床土	染付磁器　椀	口縁部	③残高3.0	①②断面　灰白色（10Y8/1）	精緻（砂粒をほぼ含まない）	
5	第3調査区 旧床土	粗陶器　甕	口縁部	③残高2.65	①②灰黄色（2.5Y7/2） 断面　にぶい黄褐色（10YR5/4）	0.5～3mm φの長石含む	
6	第4調査区 旧床土	陶器　高台付椀	底部	②（4.0） ③残高1.9	（釉薬）①②明オリーブ灰色（2.5GY7/1）～灰白色（2.5GY8/1） （素地）①灰色（10Y6/1） 断面　灰白色（10Y7/1）	精緻（砂粒をほぼ含まない）	藁灰釉

（7）小結（図11・12、写真47）

国際総合科学部本館（旧教育学部Ｈ－19区）敷地における発掘調査では、測量の過失により調査区の正確な位置が不明となっていた。年報に付された調査区位置図（図11）を見ると、Ｌ字形の校舎増築予定地の下半部に対し調査を実施したと理解できるものの、遺構分布図に付記された座標を信頼すると調査区が西に隣接するグラウンドにまではみ出してしまう（図12のy＝360の位置を参照）ためであるが、調査写真には隣接するグラウンドが映り込んでいることから、この可能性は排除できる。

Ｈ－19区のほぼ中央に存在する北西への地形の落ち込み（水田の段差）に並行して走るＳＤ1に関しては、「段落ち下面で検出された8本の杭列との相関関係が認められるようであり最も新しく、近世以降のものと思われる」との記述がある[註1]。埋土は暗灰色砂質とされるが、このＳＤ1の延長部が当調査の第1調査区で検出されたＳＤ1である可能性が高い。第1調査区ＳＤ1の埋土は褐灰色(10YR4/1)粘質土であり相違が見られるものの、溝の幅、方向とも完全に一致している。このことから、両調査区のＳＤ1から両調査区の位置関係を復元したのが図12である。

このように調査区位置を推定すると、Ｈ－19区の南壁は既設校舎の南壁と、調査区南西部の西壁は既設校舎の西壁とほぼ一致することになるが、問題となるのが「試掘調査の段階で未検出であった1号住居跡（ＳＢ1）および8号（7号の誤り：ＳＫ7）土壙西部分については遺構との完結性を重視し調査区域を拡張して調査を行った」との記述である。この記述にもとづけば、元来Ｈ－19区の西壁は直線的で、ＳＢ1とＳＫ7の存在が確認されたことから西側に拡張したことになる。調査区位置図（図11）を見ると、元来の調査区西壁は既設校舎の西壁と一致するようであり、これが事実であれば拡張部が本調査の第1調査区と重複することとなる。しかし報告文や調査写真を見る限り、Ｈ－19区にて検出された遺構は完掘されていることから、調査区重複の可能性は否定される。

現状では図12の位置関係が最も妥当と判断せざるを得ず、Ｈ－19区の位置が動く可能性はＳＤ1を基準に北東方向ということになるであろう。

また、微高地に形成された集落域が、さらに北西方向に広がる可能性が高まったことは大きな成果と言える。吉田遺跡の西部に広がる沖積低地は大部分がグラウンドとして使用されていることから、地下の様相に不明確な点が多い。周辺地においては、小規模開発でも丁寧に地下の情報を取得し続けるべきであろう。

末筆になるが、当調査において、埋蔵文化財保護のため、エレベーター設置位置に関し最大の理解を示していただいた国際総合科学部関係者各位に感謝したい。

【註】

1）河村吉行（1983）「教育学部構内Ｈ－19区の発掘調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅰ』，山口

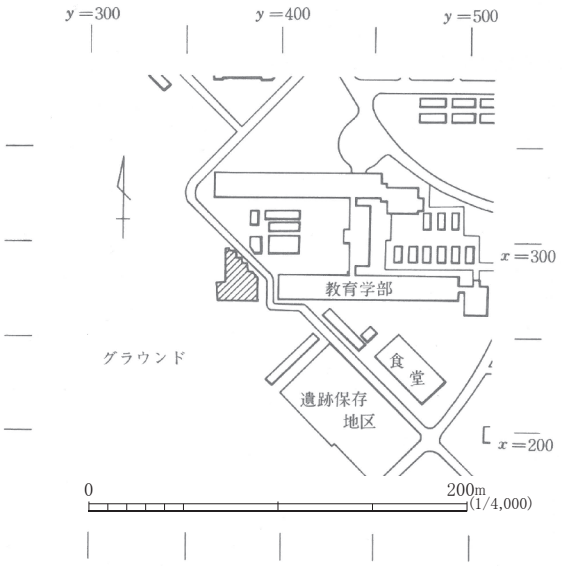


図 11　H－19 区位置図

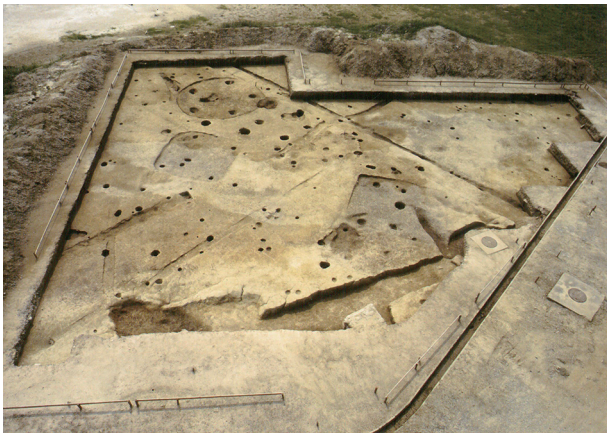


写真 47　H－19 区全景（東から）

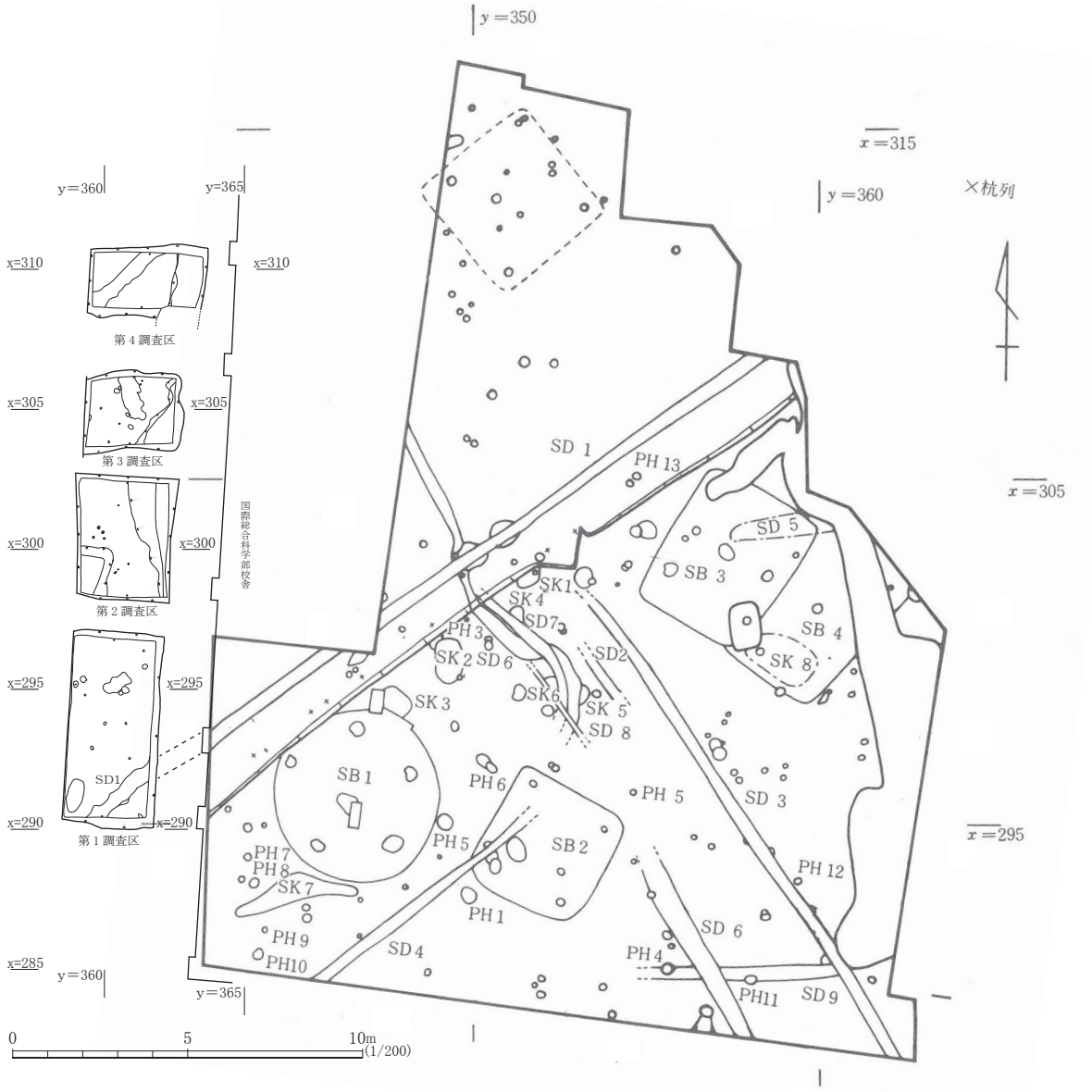


図 12　当調査区とH－19 区との位置関係

2．動物医療センター（リニアック室等）新営その他工事（設備関連）に伴う立会調査

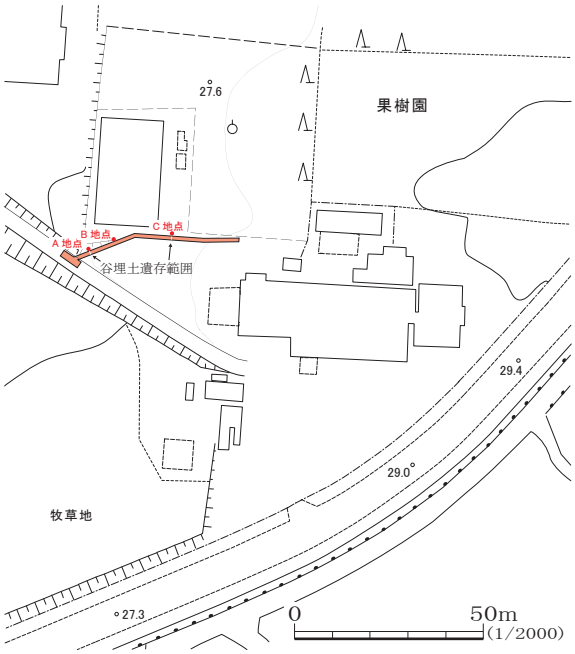


図 13　調査区位置図

写真 48　A地点土層断面（南から）

写真 49　B地点土層断面（南から）

写真 50　C地点土層断面（南東から）

調査地区　吉田構内R・S-19区

調査面積　44.5㎡

調査期間　平成27年3月31日～4月2日

調査担当　横山成己　山田圭子　乃美友香

調査結果

動物医療センターにリニアック室が増築されることを受け、建物が建設される動物医療センター西側空閑地に多数埋存している既設管の付け替え工事が計画された（図13）。

新たな管路の埋設深度は深く、動物医療センター（リニアック室等）新営その他工事に伴う本発掘調査の成果[註1]から、遺物包含層や谷埋土ばかりでなく地山も大きく掘削することが確実視されたが、建物の工事工程により設備関連の工期が逼迫していること、設備工事が法面のないオープンカットで実施されることなどから（写真48～50）、調査の安全性が確保できないことを理由に、館員による調査を断念し、重機掘削時に黒色土（遺物包含層および谷埋土）を選別して掘り上げてもらい、排出土中から遺物を回収せざるを得ないと判断した。

なお、当工事は平成26年度である3月31日に開始されたことから、本来26年度事業として報告すべきであるが、他の動物医療センター（リニアック室等）新営その他工事との混乱を避けるため、平成27年度事業として報告を行うことにした。

回収した遺物は60×37×8㎝の遺物収納コンテナ1箱分であったが、排出土が膨大であったため見落としも多いと思われる。以下に図示可能な遺物を報告する（図14・15、写真51～53、表5）。

1～**9**は須恵器坏蓋。**1**はボタン状つまみを有しており、扁平な天井部から直線的に口縁に移行し、端部を外方に下垂させる。**3**はかえりを有する口縁部片で焼成不良品。**8**は焼き歪みが大きいが、天井部から外反気味に口縁が開き、鳥嘴状に端部を下垂させる。**9**はここでは坏蓋としたが、器壁が厚く口縁端部も内端がわずかに肥厚するのみである。

10～**17**は須恵器高台付坏。**10**～**13**は7世紀後半

から8世紀前半の資料で、長めの高台が底部外端より内側につき、内端で接地する。16は断面方形の小ぶりな高台が底部外端に付き、体部は開かずに直線的に立ち上がる。9世紀前半代の資料と見られる。

18・19は無高台の須恵器坏。

20～30は須恵器坏の口縁～体部片。29は器壁が厚く、口縁内端部を断面三角形状に肥厚させていることから、他器種の可能性がある。30の体部外面には墨書が見られるが、判読不能である。

31は須恵器皿。底部から内湾して口縁が立ち上がり、端部は軽く外反させている。

32～34は須恵器高坏。32は脚裾部片で、端部を外開きに下垂させる。33は焼成不良品で、脚柱部に通常見られる沈線が施されていない。

35は閉塞粘土円盤が剥離した須恵器横瓶の腹部片と見られる。

36は須恵器壺の口縁部片。外反する頸部から直立気味に口縁を立ち上げ、口縁外面をわずかに肥厚させる。

37は器種不明の須恵器で、動物医療センター（リニアック室等）新営その他工事に伴う本発掘調査において谷埋土2下層から同様の土器が出土している（YD2014-1NO．242）。当須恵器は復元口径10.4㎝の細い円筒の外面に鍔状の突帯を廻らせたものもので、器面調整は回転ナデである。同一個体であろう。

38～41は土師器高台付坏底部片。38は断面長方形の高台が底部外端よりわずかに内側に付く。39～41は断面三角形の高台が底部外端に付くが、体部が直線的に立ち上がる40に比して39・41は開き気味に立ち上がることから椀の底部である可能性が高い。42は無高台の土師器坏底部片で、43は土師器坏口縁部片としたが皿の可能性がある。

44は土師器高坏としたが、形態的に見て須恵器高坏と変わらず、胎土も精選されている。須恵器の焼成不良品である可能性が高い。

45～50は土師器甕の口縁部片。内面に稜をもって屈曲気味に外反させるもの（45）、大きく外反させるもの（46・47・50）、軽く外反させるもの（48・49）が見られる。

51は土師器ミニチュア土器壺としたが、精選された粘土を用いており、つくりも丁寧である。何らかの土製品かもしれない。

工事掘削を地上より観察した限りでは、谷埋土の遺存範囲は図13に示したとおりであり、動物医療センター（リニアック室等）新営その他工事に伴う本発掘調査や動物医療センター改修Ⅲ期工事に伴う本発掘調査第2調査区[註2]、農学部解剖実習棟新営に伴う事前調査区[註3]の成果と矛盾しない。

当調査では、十分な埋蔵文化財保護対応が執れなかった。既往の調査により、古代官衙の存在を示す数多くの貴重資料が確認されている地域であることからも、慎重な工事計画の立案と、十分な埋蔵文化財保護体制の確立が求められる。

【註】

1）横山成己（2019）「動物医療センター（リニアック室等）新営その他工事に伴う本発掘調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成26年度－』，山口

2）横山成己（2012）「農学部附属動物医療センター改修Ⅲ期工事に伴う本発掘調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成20年度－』，山口

3）田畑直彦（2004）「平成14年度山口大学構内遺跡調査の概要」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報ⅩⅥ・ⅩⅦ』，山口

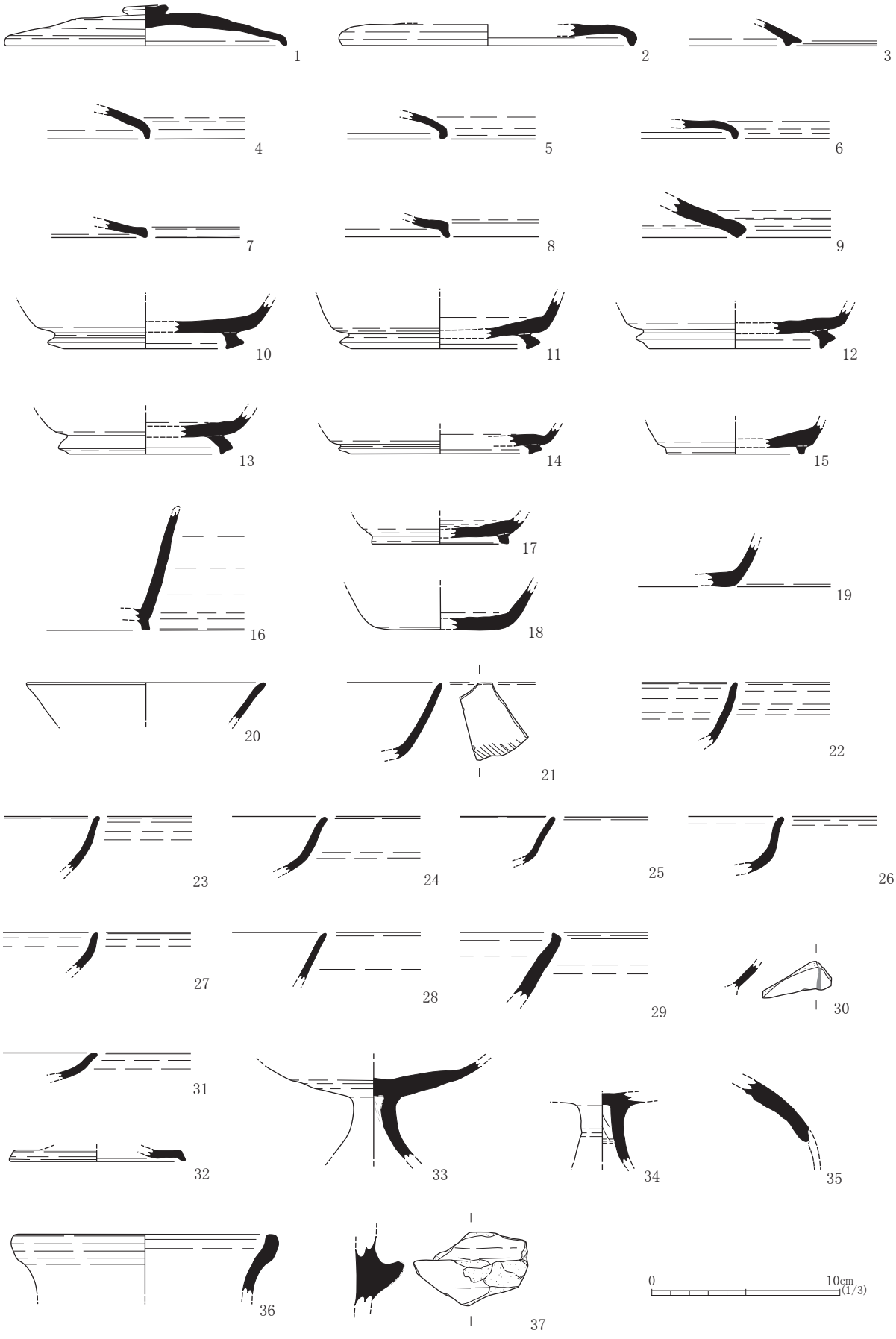


図 14　遺物包含層・谷埋土出土土器実測図①

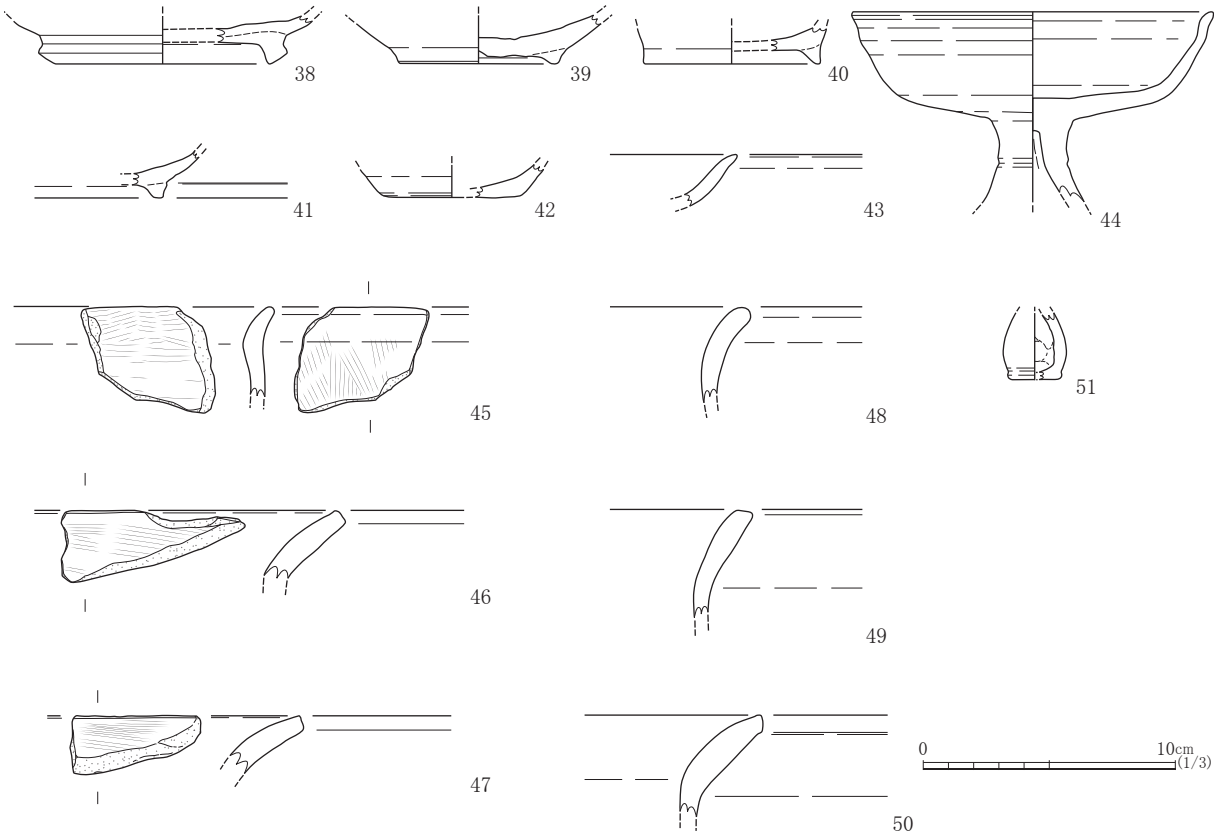


図 15　遺物包含層・谷埋土出土土器実測図②

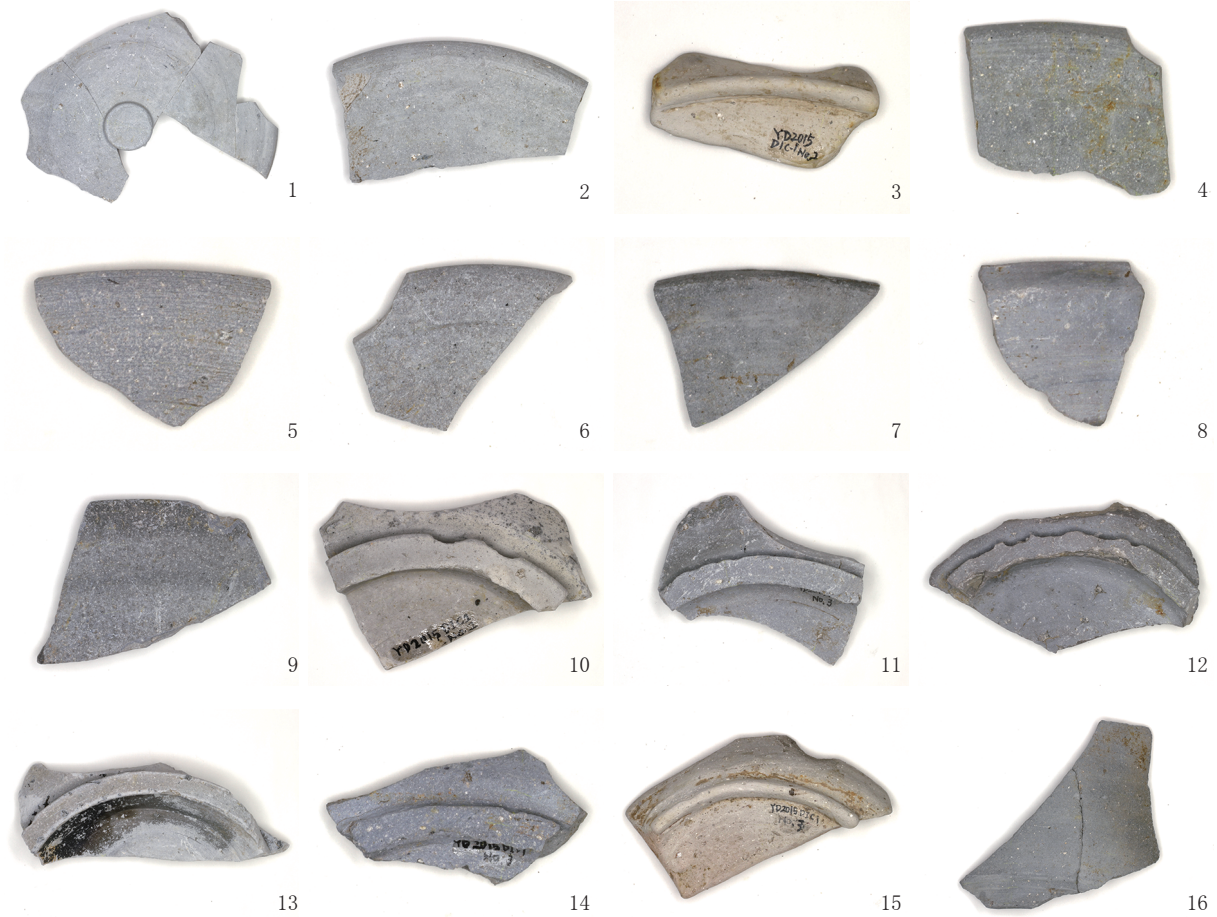


写真 51　出土遺物（土器）①

写真 52　出土遺物（土器）②

写真 53　出土遺物（土器)③

表5　出土遺物（土器）観察表

法量（ ）は復元値

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
1	包含層 谷埋土	須恵器　坏蓋	天井部 ～口縁部	①(14.8) ③2.15	①②断面　灰白色(N7/)	0.5～2mmφの長石含む	
2	包含層 谷埋土	須恵器　坏蓋	天井部 ～口縁部	①(15.4) ③残高1.15	①②灰白色(N7/) 断面　灰白色(N8/)	0.5～5mmφの長石含む	
3	包含層 谷埋土	須恵器　坏蓋	口縁部	③残高1.25	①灰色(N4/) ②断面　灰白色(5Y8/1)	0.5～1mmφの長石含む	燃焼不良
4	包含層 谷埋土	須恵器　坏蓋	口縁部	③残高1.7	①灰白色(N7/)～灰色(N6/) ②灰色(N6/) 断面　灰白色(N7/)	0.5～1mmφの長石含む	
5	包含層 谷埋土	須恵器　坏蓋	口縁部	③残高1.4	①明青灰色(5PB7/1) ②明青灰色(5PB7/1)～ 青灰色(5PB6/1) 断面　灰白色(N8/)	0.5mmφの長石含む	
6	包含層 谷埋土	須恵器　坏蓋	口縁部	③残高1.0	①灰白色(N7/) ②灰白色(N7/)～灰色(N6/) 断面　灰白色(N8/)	精緻(砂粒をほぼ含まない)	
7	包含層 谷埋土	須恵器　坏蓋	口縁部	③残高0.95	①②灰色(N6/) 断面灰白色(N7/)	0.5mmφの長石含む	
8	包含層 谷埋土	須恵器　坏蓋	口縁部	③残高0.8	①明青灰色(5PB7/1)～ 青灰色(5PB6/1) ②黄灰色(2.5Y5/1) 断面　灰白色(5Y7/1)	0.5mmφの長石含む	焼きひずみ
9	包含層 谷埋土	須恵器　坏蓋	口縁部	③残高2.1	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/) 断面　灰白色(10Y7/1)	0.5～2mmφの長石含む	ひずみ大
10	包含層 谷埋土	須恵器　高台付坏	体部 ～底部	②(8.6) ③残高2.5	①灰白色(N8/～N7/) ②灰色(N6/) 断面　灰白色(5Y7/1)	0.5～4mmφの長石含む	焼成やや不良
11	包含層 谷埋土	須恵器　高台付坏	体部 ～底部	②(7.2) ③残高2.7	①② 灰白色(N7/)～灰色(N6/) 断面　灰白色(N7/)	0.1～2mmφの長石含む	
12	包含層 谷埋土	須恵器　高台付坏	体部 ～底部	②(9.2) ③残高2.1	①灰色(N6/) ②灰色(N5/) 断面　灰白色(2.5Y7/1)	0.5～2mmφの長石含む	
13	包含層 谷埋土	須恵器　高台付坏	体部 ～底部	②(8.0) ③残高2.2	①灰白色(N7/)黒色(N2/) ②灰白色(N7/)～灰色(N6/) 断面　灰白色(N8/)	0.5～2mmφの長石含む	
14	包含層 谷埋土	須恵器　高台付坏	体部 ～底部	②(9.5) ③残高1.3	①②明青灰色(5PB7/1)～ 青灰色(5PB6/1) 断面　灰白色(N7/)	0.5～2mmφの長石含む	
15	包含層 谷埋土	須恵器　高台付坏	体部 ～底部	②(6.8) ③残高1.75	①灰白色(5Y8/1～5Y7/1) ②灰白色(7.5Y7/1) ～灰色(7.5Y6/1) 断面　にぶい橙色(5YR6/4)	0.5～2mmφの長石含む	焼成やや不良
16	包含層 谷埋土	須恵器　高台付坏	口縁 ～底部	③残高6.3	①青灰色(5PB6/1) ②青灰色(5PB6/1～5/1) 断面　青灰色(5PB6/1～	0.5～1mmφの長石含む	
17	包含層 谷埋土	須恵器　高台付坏	体部 ～底部	②(7.2) ③残高1.4	①②青灰色(5PB6/1) 断面　灰白色(N7/)	0.5～2mmφの長石含む	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
18	包含層 谷埋土	須恵器　坏	体部 ～底部	②(7.9) ③残高2.3	①②灰色(N6/) 断面　灰色(N6/)	0.5～2mmφの長石含む	
19	包含層 谷埋土	須恵器　坏	体部 ～底部	③残高2.35	①灰色(N6/) ②断面　灰白色(5Y7/1)	1mmφの長石含む	
20	包含層 谷埋土	須恵器　坏	口縁部	①(12.6) ③残高2.0	①②灰白色(N8/～N7/) 断面　灰白色(N8/～N7/)	0.5mmφの長石含む	
21	包含層 谷埋土	須恵器　坏	口縁 ～体部	③残高4.1	①灰白色(N7/)～ 暗灰色(N3/) ②灰色(N6/) 断面　灰白色(N8/)	0.5～3mmφの長石含む	
22	包含層 谷埋土	須恵器　坏	口縁 ～体部	③残高3.25	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/) 断面　灰白色(N8/)	0.5～1mmφの長石含む	
23	包含層 谷埋土	須恵器　坏	口縁 ～体部	③残高2.9	①灰白色(N7/)～灰色(N6/) ②灰白色(N7/) 断面　灰白色(N8/)	0.5～2mmφの長石含む	
24	包含層 谷埋土	須恵器　杯	口縁 ～体部	③残高2.9	①②灰白色(N7/) 断面　灰白色(N7/)	0.5～1mmのφ長石含む	
25	包含層 谷埋土	須恵器　杯	口縁 ～体部	③残高2.5	①②断面 灰白色(N7/)～灰色(N6/)	0.5mmφの長石含む	
26	包含層 谷埋土	須恵器　杯	口縁 ～体部	③残高3.0	①灰色(N4/) ②灰色(5Y4/1) 断面　灰白色(N8/)	0.3mmφの砂粒含む	
27	包含層 谷埋土	須恵器　杯	口縁部	③残高2.0	①灰白色(N7/) ②灰白色(N7/)～灰色(N6/) 断面　灰色(N6/)	0.5～1mmφの長石含む	
28	包含層 谷埋土	須恵器　杯	口縁部	③残高2.5	①灰色(N5/) ②断面　灰白色(N7/)	0.5～2mmφの長石含む	
29	包含層 谷埋土	須恵器　杯	口縁部	③残高3.5	①②灰色(N6/) 断面　灰白色(7.5Y7/1)	0.5～2mmφの長石含む	
30	包含層 谷埋土	須恵器　杯	体部		①②灰色(N6/) 断面　灰色(N6/)	0.5～1mmφの長石含む	外面墨書
31	包含層 谷埋土	須恵器　皿	口縁部	③残高1.45	①灰白色(N8/～N7/) ②断面　灰白色(N8/)	0.32mmφの砂粒含む	
32	包含層 谷埋土	須恵器　高坏	裾部	②裾部径(9.2) ③残高0.6	①灰白色(N7/) ②灰色(N6/) 断面　灰白色(N8/)	0.1mmφの長石含む	
33	包含層 谷埋土	須恵器　高杯	坏 ～脚部	③残高5.2	①黄灰色(2.5Y6/1) ②灰白色(2.5Y7/1) 断面　灰白色(2.5Y8/2)	0.5～1mmφの長石含む	焼成不良
34	包含層 谷埋土	須恵器　高杯	脚部	③残高3.25	①灰白色(N7/) ②灰白色(N7/)～灰色(N4/) 断面　灰白色(5Y7/1)	1～2mmφの長石含む	
35	包含層 谷埋土	須恵器　横瓶	腹部		①灰白色(N7/) ②灰白色(N7/)～灰色(N6/) 断面　灰白色(5Y8/2)	0.5～2mmφの長石含む	
36	包含層 谷埋土	須恵器　壺	口縁 ～頸部	①(13.2) ③残高3.2	①②断面　灰白色(N8/)	0.5～1mmφの長石含む	
37	包含層 谷埋土	須恵器　器種不明		③残高2.5	①②断面 灰白色(7.5Y8/1)	0.5～4mmφの長石含む	YD2014-1 NO.242と 同一個体か
38	包含層 谷埋土	土師器　高台付坏	底部	②(8.4) ③残高1.9	①灰白色(2.5Y8/2) ②浅黄橙色(10YR8/3) 断面　浅黄橙色(10YR8/3)	0.5～2mmφの長石含む	
39	包含層 谷埋土	土師器　高台付坏	底部	②(5.8) ③残高1.95	①②断面 灰白色(2.5Y8/2)	0.5～4mmφの長石・石英含む	
40	包含層 谷埋土	土師器　高台付坏	底部	②(6.9) ③残高1.4	①②断面 浅黄色(2.5Y8/3)	0.5～1mmφの長石・チャート含む	
41	包含層 谷埋土	土師器　高台付坏	底部	③残高1.9	①②断面 灰白色(2.5Y8/2)	0.5～1mmφの長石・石英含む	
42	包含層 谷埋土	土師器　坏	体部 ～底部	②(5.4) ③残高1.3	①にぶい黄色(2.5Y6/3) ～暗灰黄色(2.5Y5/2) ②浅黄色(2.5Y7/3) 断面　灰黄色(2.5Y6/2)	0.5～2mmφの長石・石英含む	
43	包含層 谷埋土	土師器　坏	口縁部	③残高2.05	①②断面 灰白色(2.5Y8/2)	0.3mmの砂粒含む	
44	包含層 谷埋土	土師器　高坏	口縁 ～脚部	①(14.2) ③残高7.6	①灰白色(2.5Y8/1) ②灰白色(2.5Y8/2) 断面　灰白色(2.5Y8/1)	0.5～1mmの長石含む	須恵器焼成不良品か

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
45	包含層 谷埋土	土師器　甕	口縁部	③残高3.2	①にぶい黄色(2.5Y6/3) ②黄褐色(2.5Y5/3) 断面　灰黄色(2.5Y6/2)	0.5～3mmφの長石含む	
46	包含層 谷埋土	土師器　甕	口縁部	③残高3.85	①浅黄色(2.5Y7/3) ②断面　浅黄色(2.5Y7/4)	0.5～3mmφの長石含む	
47	包含層 谷埋土	土師器　甕	口縁部	③残高2.35	①にぶい黄色(2.5Y6/3) ②断面　浅黄色(2.5Y7/3)	0.5～4mmφの長石・石英含む	
48	包含層 谷埋土	土師器　甕	口縁部	③残高2.8	①にぶい黄橙色(10YR7/4) ②浅黄色(2.5Y8/3) 断面　灰白色(2.5Y7/1)	0.5～2mmφの長石・石英・チャート・くさり礫含む	
49	包含層 谷埋土	土師器　甕	口縁部	③残高4.3	①②浅黄橙色(10YR8/4) 断面　灰色(N4/)	0.5～2mmφの長石・石英含む	
50	包含層 谷埋土	土師器　甕	口縁部	③残高4.05	①②断面 浅黄色(2.5Y7/3)	0.5～1mmφの長石・チャート含む	
51	包含層 谷埋土	ミンチュア土器　壺	体部 ～底部	②(1.8) ③残高2.65	①浅黄橙色(7.5YR8/4) ②断面　灰白色(2.5Y8/2)	精緻(砂粒をほぼ含まない)	

3．動物医療センター（リニアック室等）新営その他工事（プレハブ撤去）に伴う立会調査

図 16　調査区位置図

写真 54　調査区近景（北東から）

写真 55　本発掘調査時の模様（西から）

調査地区　吉田構内S-19・20区

調査面積　50㎡

調査期間　平成27年4月22日～5月1日

調査担当　横山成己　川島尚宗　山田圭子

調査結果

調査の経緯（図16、写真54・55）

動物医療センターにリニアック室が増築されることを受け、平成26年度に計画地を対象に本発掘調査を実施した[註1]。その結果、検出された埋没谷埋土より墨書土器「□少カ 殿」「田」のほか、製塩土器や轜羽口、多量の木製品が投棄された状態で発見された。

本発掘調査で問題となったのは、動物医療センター西端部に増築されているプレハブ施設（前室・手術室・覚醒室）の存在であった（写真55右上「解体建物」）。工事計画では、この施設を解体ののちリニアック室を建設する予定となっていたが、平成26年度中は施設を講義に使用するため、本発掘調査時に敷地を調査対象とすることができず、平成27年度に工事立会として調査を実施する運びとなった。

【註】

1）横山成己（2019）「動物医療センター（リニアック室等）新営その他工事に伴う本発掘調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成26年度－』，山口

調査の経過（写真56・57）

平成27年度に至り、動物医療センター西端部のプレハブが撤去された4月22日より、約50㎡（7m×7m）を対象範囲として立会調査に着手した。工事施工業者に依頼し、重機にて造成土を除去したところ、増築施設の基礎は浅く、埋没谷が完全に遺存しており、部分的に上位の遺物包含層も残存していることが明らかとなった。翌23日より資料館員3名（横山・川島・山田）にて人力掘削に着手したが、ゴールデンウィーク明けの5月7日よりリニアック室建設工事着工というスケジュールを鑑み、3名での完掘

は不可能と判断し、翌24日より作業員5名を研究補助員として雇用し、作業を行うこととなった。

27日、谷埋土3上層掘削中に多量の木製品を確認した。木簡状の板製品を取り上げ直後に洗浄したところ、明確に文字が確認されたことから、当時人文学部教授であった橋本義則氏に実見調査を依頼した。当資料のその後の調査経緯や成果に関しては、すでに略報に記している[註1]のでここでは省く。以降も谷埋土の掘削を続け、翌28日に掘削を終了し、5月1日に写真撮影・測量等諸記録作業を行い、立会調査を終了した。

【註】

1）横山成己（2018）「吉田遺跡出土「千字文」音義木簡略報」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成25年度－』，山口

遺構（図17・18、写真58～61）

調査区内において、東から西に走る谷筋を検出した。谷の落ち込みは調査区北東端部よりはじまり、南方に緩やかに傾斜したのち、急勾配で谷底に落ち込んでいる。谷の深さは最深部で約1mを測る。緩傾斜部にピット2基を確認しているが、埋土の土質は谷埋土2上層と同一である。その他、谷の緩傾斜部、急傾斜部、谷底に杭を検出しているものの、規則性は見出せない。

基本層序は、平成26年度に実施した本発掘調査と完全に一致しており、谷の堆積土は①谷埋土1（黄灰色(2.5Y4/1)強粘質土に1～2㎜φの白色礫がごく少量混ざる）、②谷埋土2上層（黒褐色(10YR3/1)弱粘質土に0.5～2㎜φの礫が少量混ざる）、③谷埋土3下層（谷埋土2上層と同質・同色であるが0.5～10㎜φの礫が多量に混ざる）、④谷埋土3上層（黒褐色(2.5Y3/2)泥土に5～30㎜φの礫がごく少量混ざる）、⑤谷埋土3下層（黒色(N2/)泥土※有機物腐植土層）、⑥谷埋土4（黒褐色(2.5Y3/2)泥土に灰黄色(2.5Y6/2)強粘質土が混ざる）・谷埋土5（5～100㎜φの砂礫）となっている。このうち、⑥の谷埋土4・5は層が薄く湧水が著しいため厳密な分層は行えなかった。

当調査区と周辺の既往調査区との位置関係を示したのが図18である。平成20年度に実施した動物医療センター改修Ⅲ期工事に伴う本発掘調査第2調査区[註1]（YD2008-5-2）と動物医療センター（リニアック室等）新営その他工事に伴う本発掘調査（YD2014-1）の成果から、谷の最深部幅は約4.5mであることが確認されたが、南東－北西方向であった谷筋が、より上位の当調査区地点ではやや北に振り東南東－西北西方向であることがわかる。なお谷の底面高は、当調査区南東南部からYD2014-1西端部までの約24mの間に、0.65m降下する。

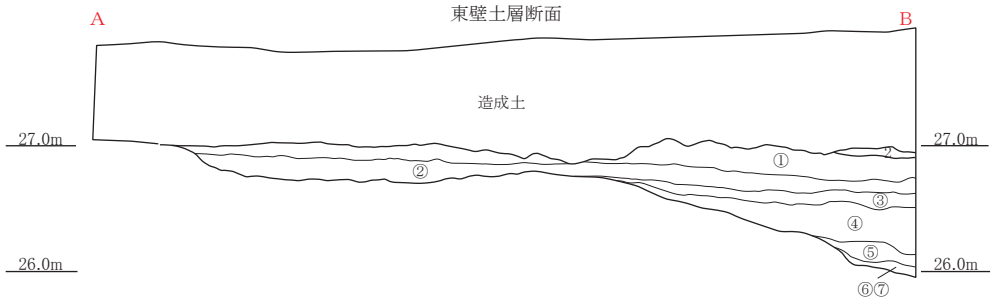
1）横山成己（2012）「農学部附属動物医療センター改修Ⅲ期工事に伴う本発掘調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成20年度－』，山口

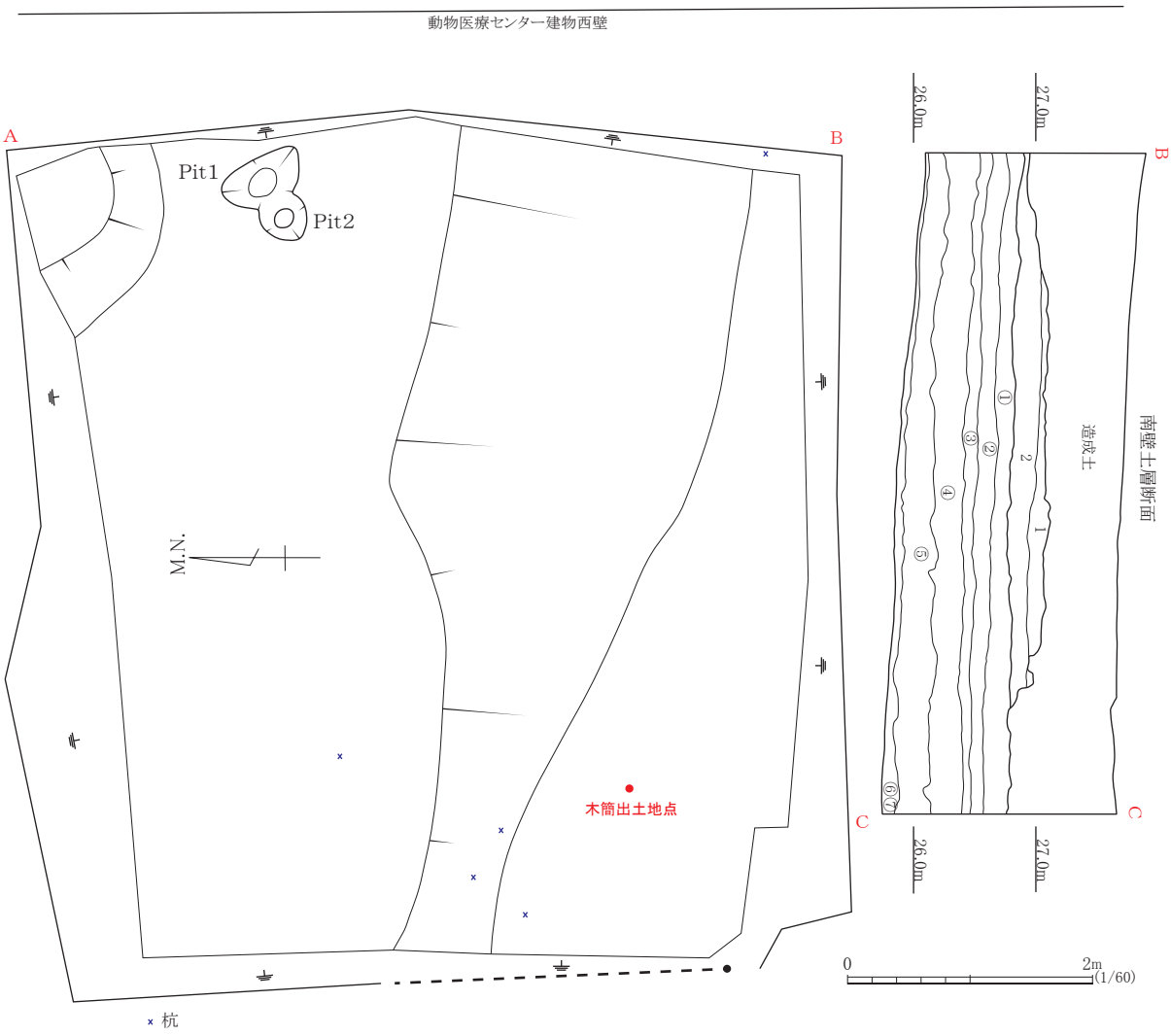
遺物（図20～29、写真62～71、表6・7）

当調査で出土した遺物は、土器類が60×37×8㎝の遺物収納コンテナで8箱分、木製品が60×37×15㎝の遺物収納コンテナで2箱分である。

埋没谷における土器の出土は、谷埋土2上層が最も多く、次いで谷埋土2下層→谷埋土1→谷埋土1→谷埋土3上層→谷埋土3下層の順となっている。最下層である谷埋土4・5からは出土していない。

木製品は大半が音義木簡が出土した谷埋土3上層から出土しており、谷埋土3下層から少量出土しているほかは確認されなかった。自然木が大半と見られるが、木簡以外は図化作業が進行していないことから、次年度刊行予定の年報にて報告することとし、本稿には土器と石器のみ掲載する。





1　包含層1　　黄褐色（2.5Y5/3）粘質土
2　包含層2　　褐灰色（10YR4/1）に褐色（10YR4/4）が混ざる粘質土
① 谷埋土1　　黄灰色（2.5Y4/1）強粘質土に 1 ～ 2 ㎜φの白色礫が極少量混ざる
② 谷埋土2上層　黒褐色（10YR3/1）弱粘質土に 0.5 ～ 2 ㎜φの礫が少量混ざる
③ 谷埋土2下層　谷埋土2上層と同色・同質であるが 0.5 ～ 10 ㎜φの礫が多量に混ざる
④ 谷埋土3上層　黒褐色（2.5Y3/2）泥土に 0.5 ～ 3 ㎝φの礫が極少量混ざる（木製品多量に含む）※木簡出土層
⑤ 谷埋土3下層　黒色（N/2）泥土　※有機物腐植土層
⑥ 谷埋土4　　黒褐色（2.5Y3/2）泥土に灰黄色（2.5Y6/2）強粘質土が混ざる
⑦ 谷埋土5　　0.5 ～ 10 ㎝φの砂礫（水流堆積層）
　　地山　　明黄褐色（2.5Y6/6）シルトに灰色（N/5）シルトが部分的に混ざる

図 17　調査区平面図・断面図

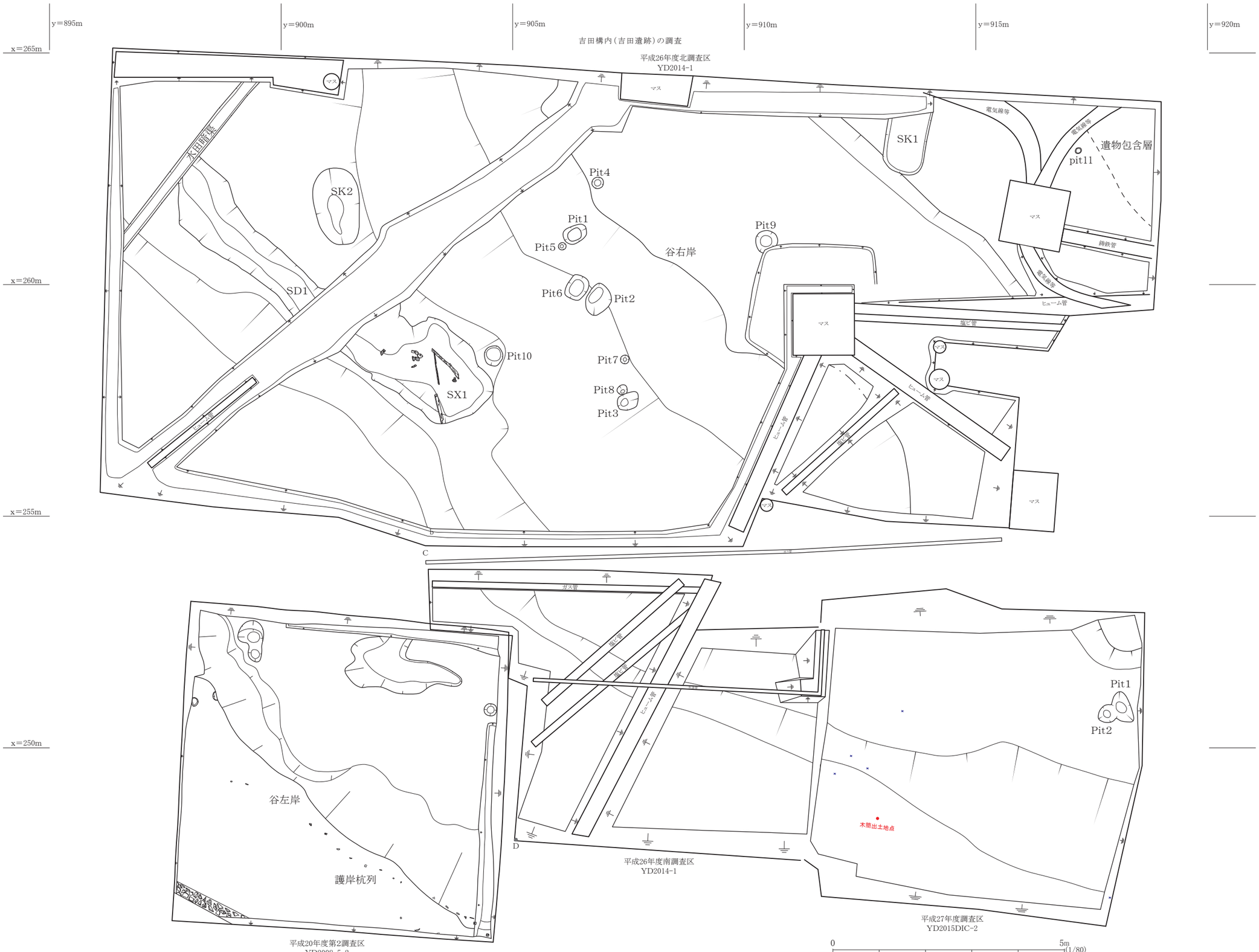


図 18　周辺調査区との位置関係

写真 56　調査風景（南西から）

写真 57　調査風景（西から）

写真 58　完掘状況（北東から）

写真 59　完掘状況（東から）

写真 60　調査区南壁土層断面（北から）

写真 61　調査区東壁土層断面（西から）

谷埋土3下層出土土器（図19、写真62、表6）

本発掘調査同様、小片を含めても少量で、図示できる資料は6点に過ぎない。

1は須恵器高坏の坏－脚柱部片で、脚柱の沈線は中位よりやや上に巡らされているようである。2は坏底部と見られ、外面に直線のヘラ記号が見られる。3は土師器椀の底部片。底部外端に外方に開くやや長めの高台が付く。4・5は無高台の土師器坏底部片。6は大きく外反する土師器甕口縁部片。

谷埋土3上層出土土器（図20、写真62、表6）

谷最深部への廃棄物投棄が本格化する時期に形成された堆積層である。

7～9は須恵器坏蓋。7はボタン状つまみを有しており、扁平なドーム状の天井部から緩やかに内湾して口縁に降下する。8・9も天井部から内湾して口縁に降下する蓋で、8は口縁内端を肥厚させ、9は端部を垂直に下垂させている。

10は須恵器高台付坏の底部片。器壁の厚い底部の外端に外方に開く高台が付く。高台の外端はつまみ出されている。11～14は須恵器坏口縁部片。11はロクロ水引き痕が明瞭に残る。15は坏底部と思われ、外面に「○」状の墨書が見られる。

16～18は須恵器高坏。16は完形復元可能な個体で、脚柱部の沈線はほぼ中位に巡る。吉田遺跡の古代須恵器高坏に見られる特徴の一つである。

19は須恵器甕口縁部片。折損部付近にわずかに沈線と櫛描波状文が残る。20はほぼ直立する須恵器甕口縁部片。

21・22は土師器坏口縁部片。21は口縁がわずかに外反するが、22は直線的に口縁端部に至る。

23・24は土師器皿。23は二重口縁の皿口縁部と見られるが、吉田遺跡では類例を見ない。24は都城系土師器で、内面に暗文が施されている。

25～27は土師器甕。25は「く」字状に口縁を屈曲させており、26・27の内面には指押さえ痕が明瞭に残されている。

谷埋土2下層出土土器（図21・22、写真63・64、表6）

下流域では谷の最深部からあふれて緩傾斜部に堆積するが、当調査区では最深部上位中に堆積がとどまっている。

28～37は須恵器坏蓋。当層の蓋には28～32のようにかえりを有する蓋が目立つ。一方で、谷埋土3上層と同様に天井部から内湾して口縁部に至る34があるものの、屈曲気味に口縁が外方に開き端部を下垂させる33・35、扁平な天井部から水平に口縁に至る36・37など、より後出する資料が含まれる。

38～52は須恵器高台付坏。蓋同様形態的なバリエーションが多く、7世紀後半代から9世紀代の資料が混ざる。

53～58は須恵器の無高台坏。53は完形復元可能な坏で、わずかに丸みを帯びた底部から直立して体部が立ち上がり、口縁は軽く外反する。59は坏底部と思われるが、現状で「V」字状のヘラ記号が残り、既往の調査でも出土している「鳥足ヘラ記号」[註1]の可能性がある。60～67は須恵器坏口縁部片。

68～70は須恵器高坏片。69は皿口縁部の可能性が残る。

71は須恵器長頸壺の頸部片。頸基部に断面三角形の突帯が見られる。豊前地域からの搬入品か。72は須恵器壺口縁－体部片。口縁上端に面を取る。73は須恵器壺の底部片か。74～77は須恵器甕。76・77は頸部片で、沈線で区画された文様帯に櫛描波状文を充填する。

78～84は土師器の坏と皿。84の皿には赤色塗彩が施される。85～87は土師器甕。87は口縁端部を上方に跳ね上げている。88は土師器の把手片。89は黒色土器A類の体部小片。

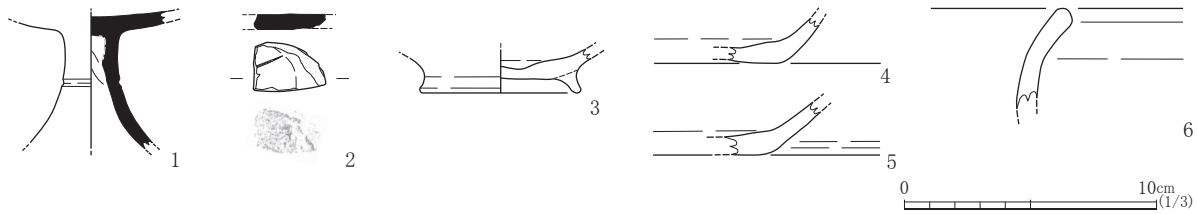


図 19　谷埋土 3 下層出土土器実測図

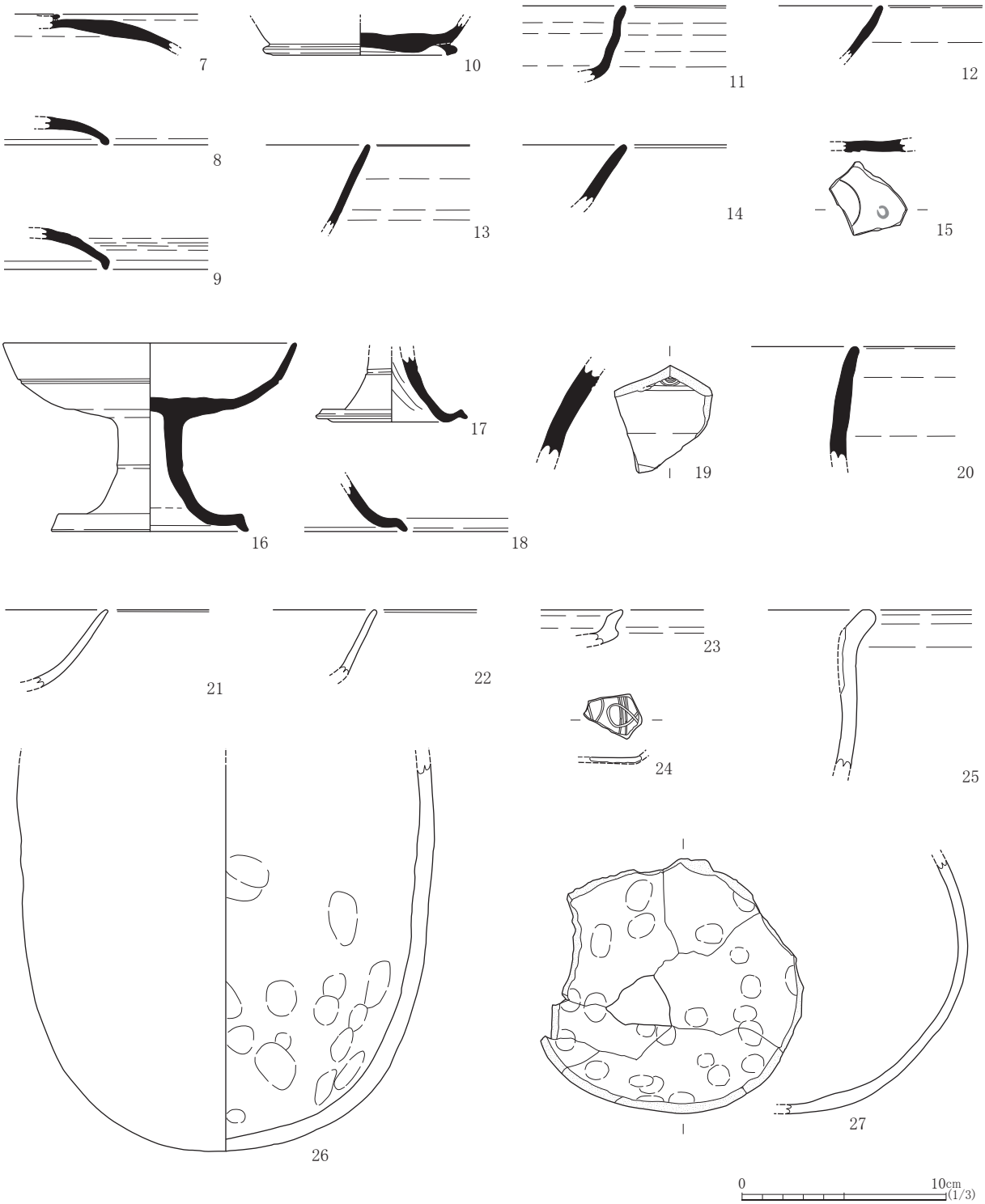


図 20　谷埋土 3 上層出土土器実測図

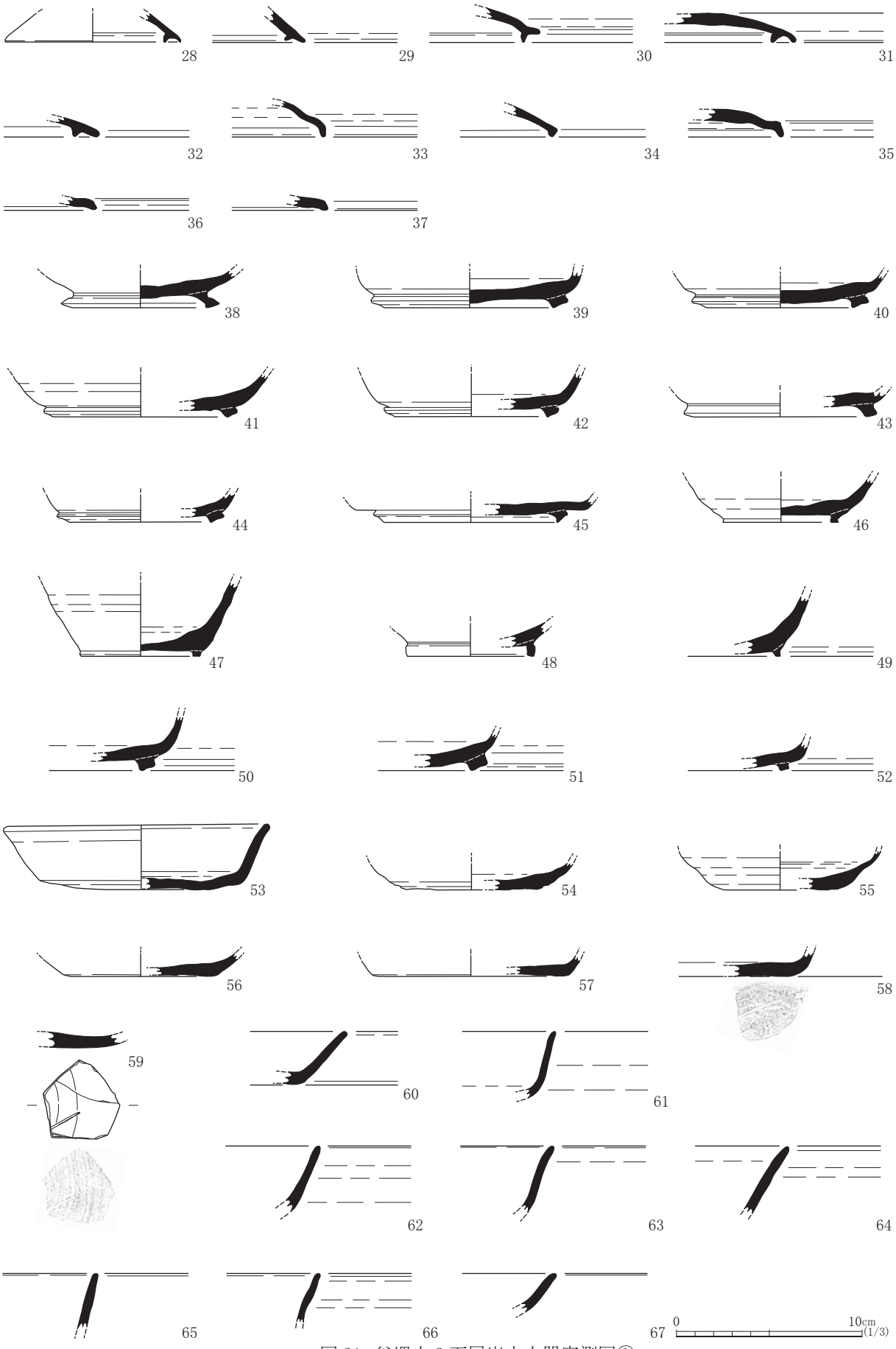


図 21　谷埋土 2 下層出土土器実測図①

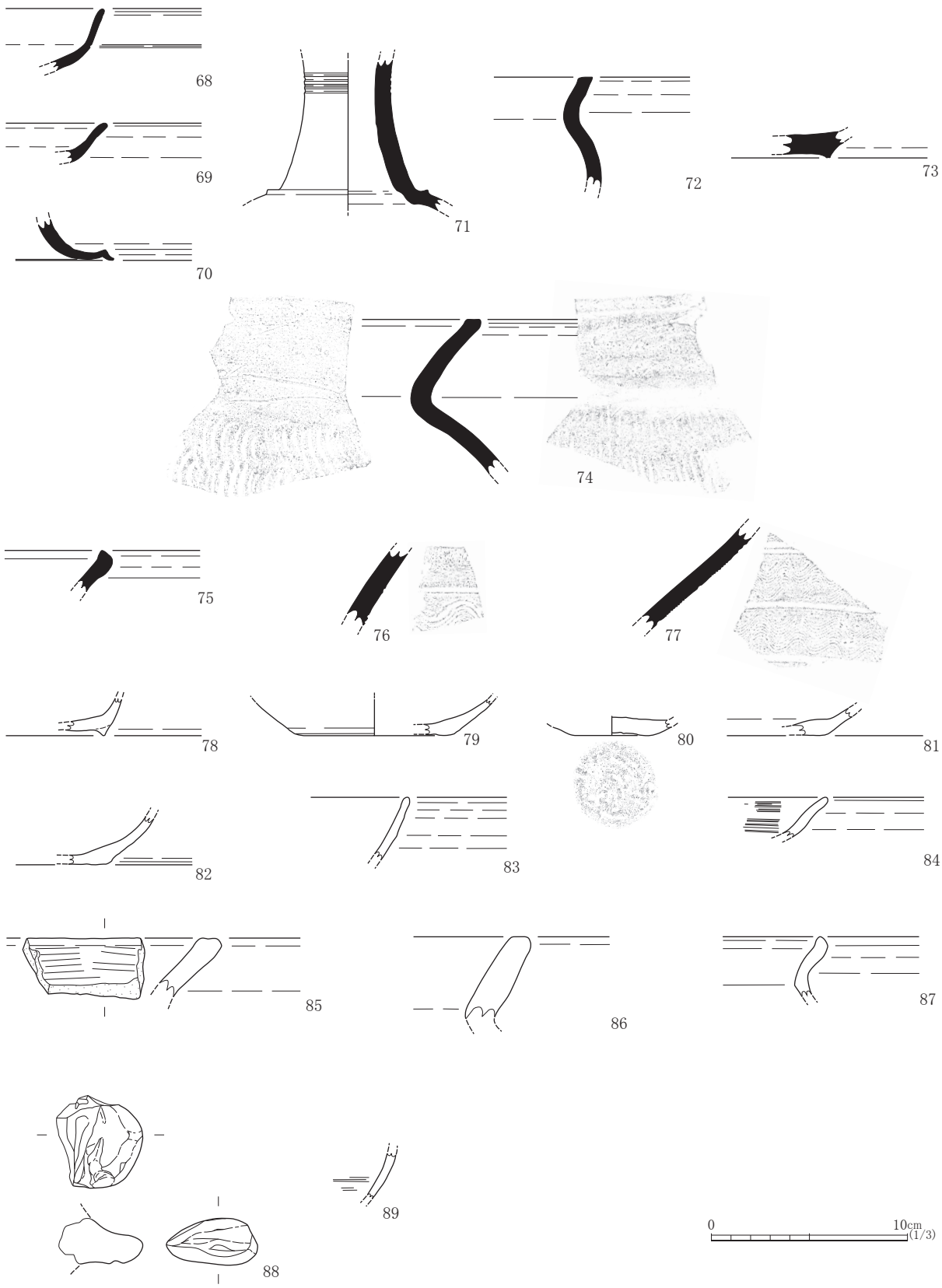


図 22　谷埋土 2 下層出土土器実測図②

谷埋土２上層出土土器（図23～25、写真64～68、表6）

遺物の包含量が増加するが、谷への直接的な投棄の結果ではなく、周域に展開し、その後廃絶した官衙または集落から流入した状況を示している。

90～104は須恵器坏蓋。かえりを有する口縁**96～98**、天井部から内湾気味に降下する口縁**99**、天井－口縁境界に稜を形成し、直線的に降下させる口縁**100**、屈曲気味に外方に開き端部を下垂させる口縁**90・102・103**などバリエーションに富む。

105～119は須恵器高台付坏。蓋同様こちらも形態的なバリエーションが多く、7世紀後半代から9世紀代の資料が混在する。

120～126は無高台の須恵器坏。**120**は完形復元可能な個体で、丸みを帯びた底部から直線的に体部が立ち上がり、口縁をわずかに外反させている。倒置させ高台付坏が載せられ状態で焼成された痕跡を残している。**127～135**は坏口縁部片。**135**の外面には墨書が見られる。

136・137は須恵器皿。**136**は完形復元可能な皿で、吉田遺跡では高台付皿の蓋と目される資料と同形態であるが、復元口径25.2と大型品であることから、ここでは皿としておく。**138～141**は須恵器高坏。

142須恵器高台付壺の底部片。**143**も高台付壺の底部であるが小型品であり、高台基部に6方向から径1～1.5㎜の孔を穿っている。**144**は壺の肩部と見られ、外面に櫛描列点文が施される。**145**は横瓶または平瓶の粘土円盤閉塞部片。**146**は横瓶の閉塞粘土円盤片で、内面に布目が見られる。

147は長頸壺の頸部片。頸の基部と中位に2条の回転沈線が施される。

148～154は須恵器甕。体部外面はいずれも平行叩きが施され、内面はいずれも同心円当て具痕が残る。**152**の外面には沈線と櫛描波状文が見られる。

155は円面硯の脚部片。形態的な特徴、胎土や焼成具合から既出の円面硯とは別個体であり、吉田遺跡では4例目の出土となる。

156～158は緑釉陶器椀の底部片。いずれも釉の乗りが悪く、高台基部などに部分的に緑釉が見られるに過ぎない。**159**は青磁椀の体部片。

160～164は土師器高台付坏の底部片。いずれも底部外端に断面方形または台形の小ぶりな高台が付く。**165・166**は無高台の坏で、**165**には糸切痕が残る。**167・168**は坏口縁部片。**169～174**は土師器椀の底部片。**170**にはわずかに糸切痕が残る。

175・176は土師器皿。**175**は都城系の皿で、内面に暗文が施される。**177**は赤色塗彩が施されており、ここでは高台付皿としておく。

178～180は土師器高坏。**178**は木製模倣とされる大型高坏の脚部片で、八角形に面を取っている。吉田遺跡では初出となる。

181～188は土師器甕口縁部片。口縁が外反または外傾するもの（**181～183・186**）、直立するもの（**184・185**）、内湾するもの（**187・188**）がある。**189・190**は土師器の把手片。

191・192は埋没谷に散見される鞴羽口片。小破片が多いのが特徴と言える。

193は弥生土器高坏口縁部片。谷左岸丘陵地（現農学部附属農場牧草地）に営まれた弥生時代集落に由来すると見られ、同時代の遺物は谷埋土より散発的に出土する。

谷埋土１出土土器（図26・27、写真68～70、表6）

浅い窪地となった谷地に形成された堆積層で、遺物はさらに小片化する。

194～207は須恵器坏蓋。形態的なバリエーションが多いのは谷埋土2上下層と同様である。**208**は天井－口縁境界部に沈線が巡る蓋で、ここでは壺蓋としておく。

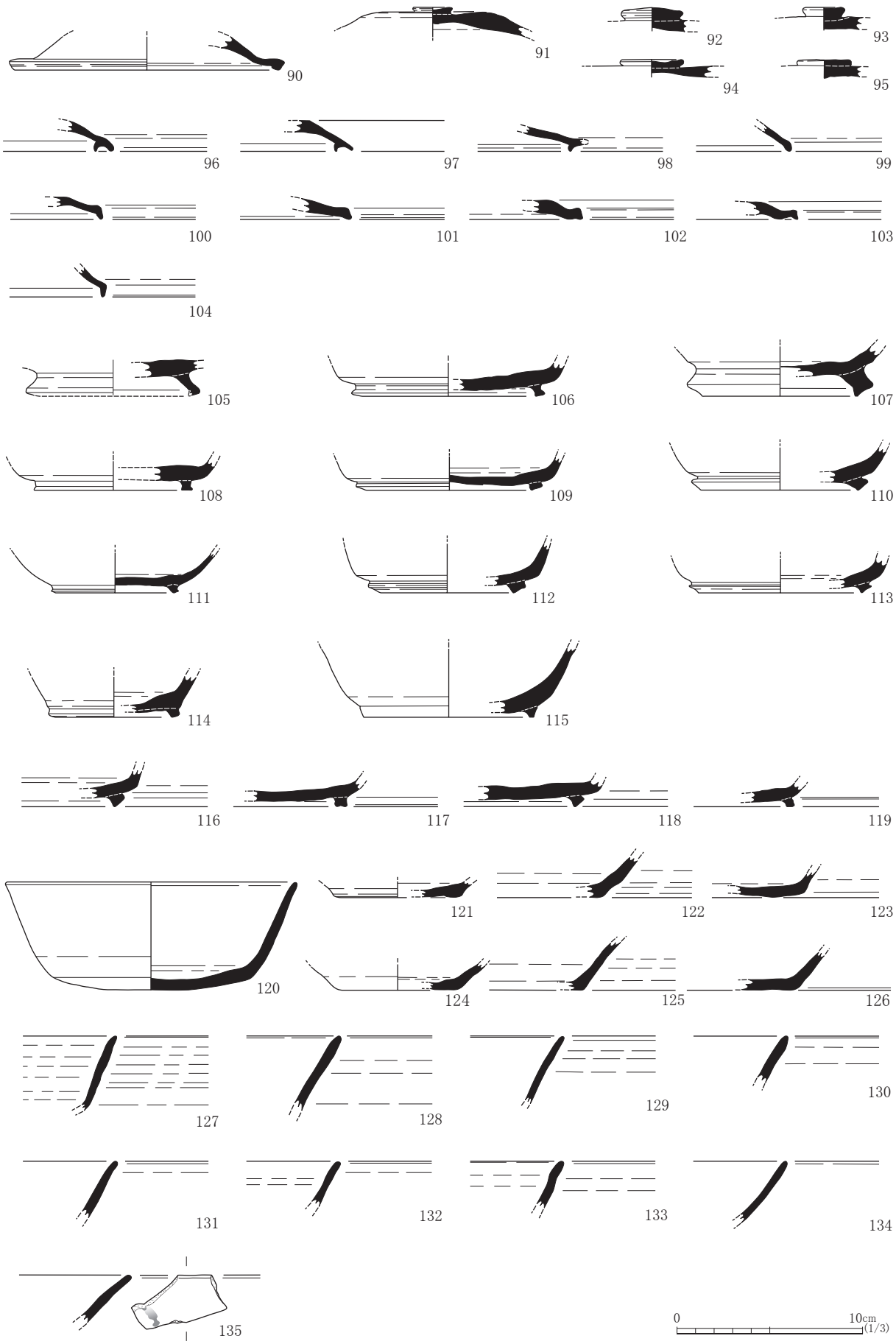


図 23　谷埋土 2 上層出土土器実測図①

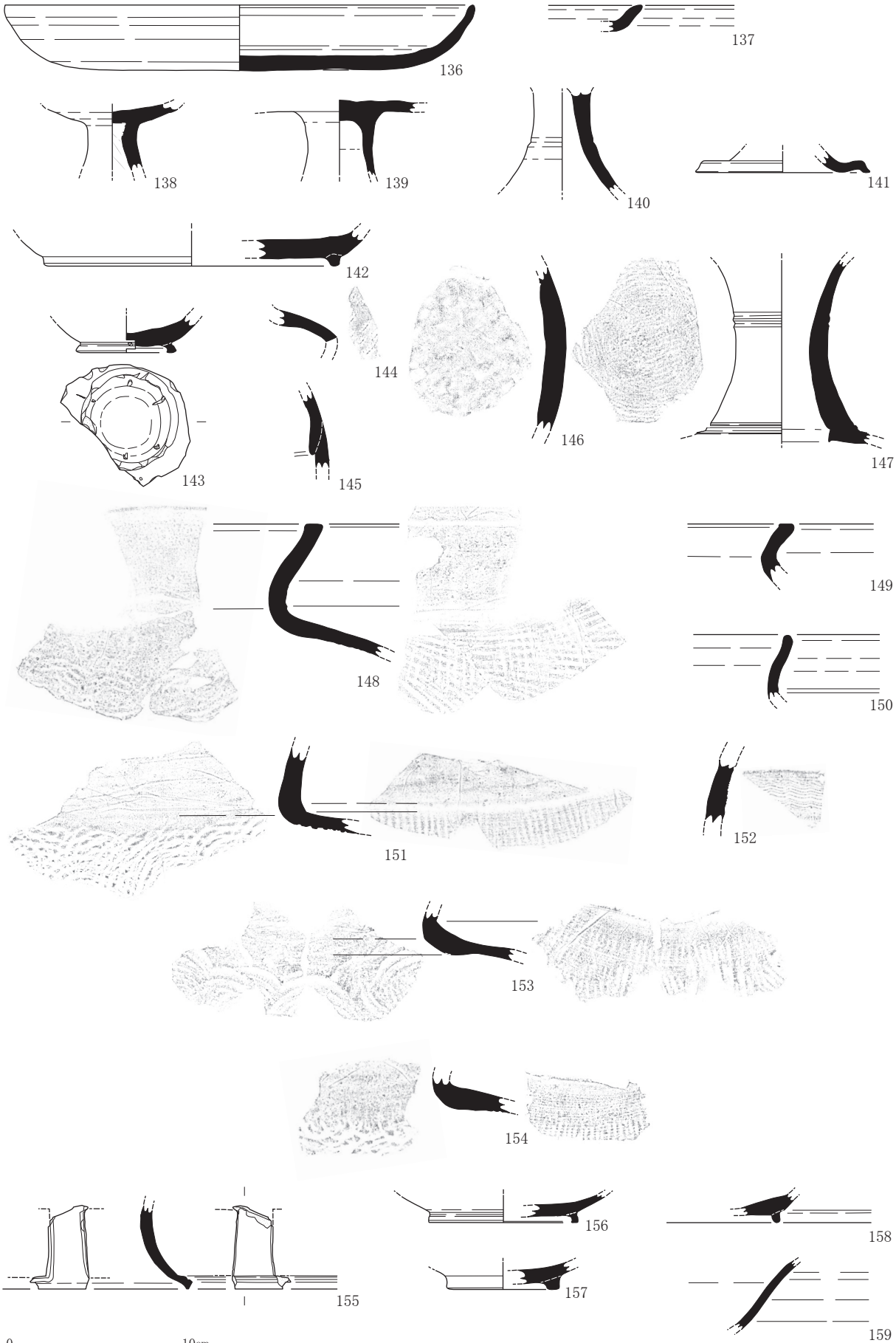


図 24　谷埋土 2 上層出土土器実測図②

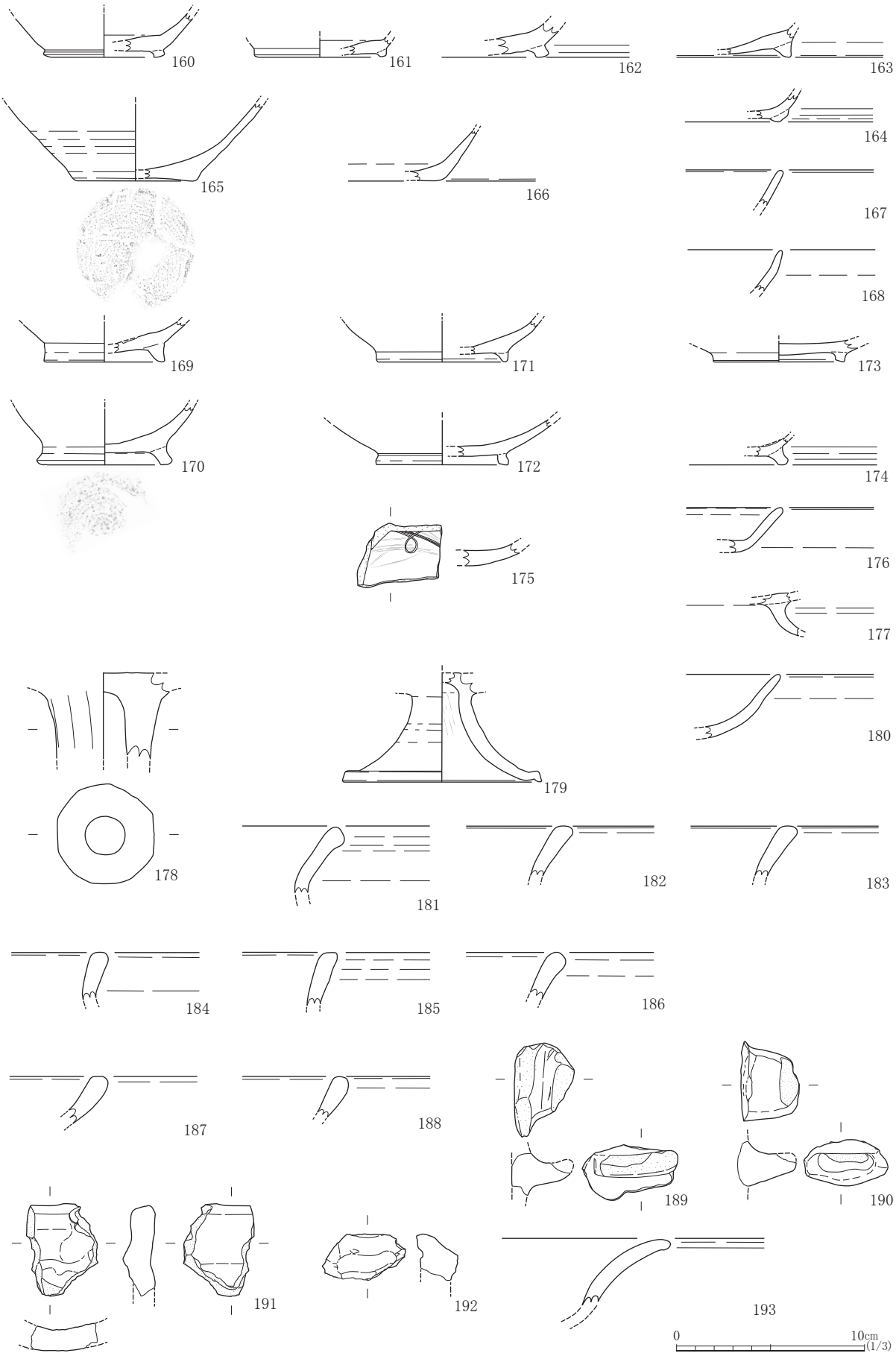


図 25　谷埋土 2 上層出土土器実測図③

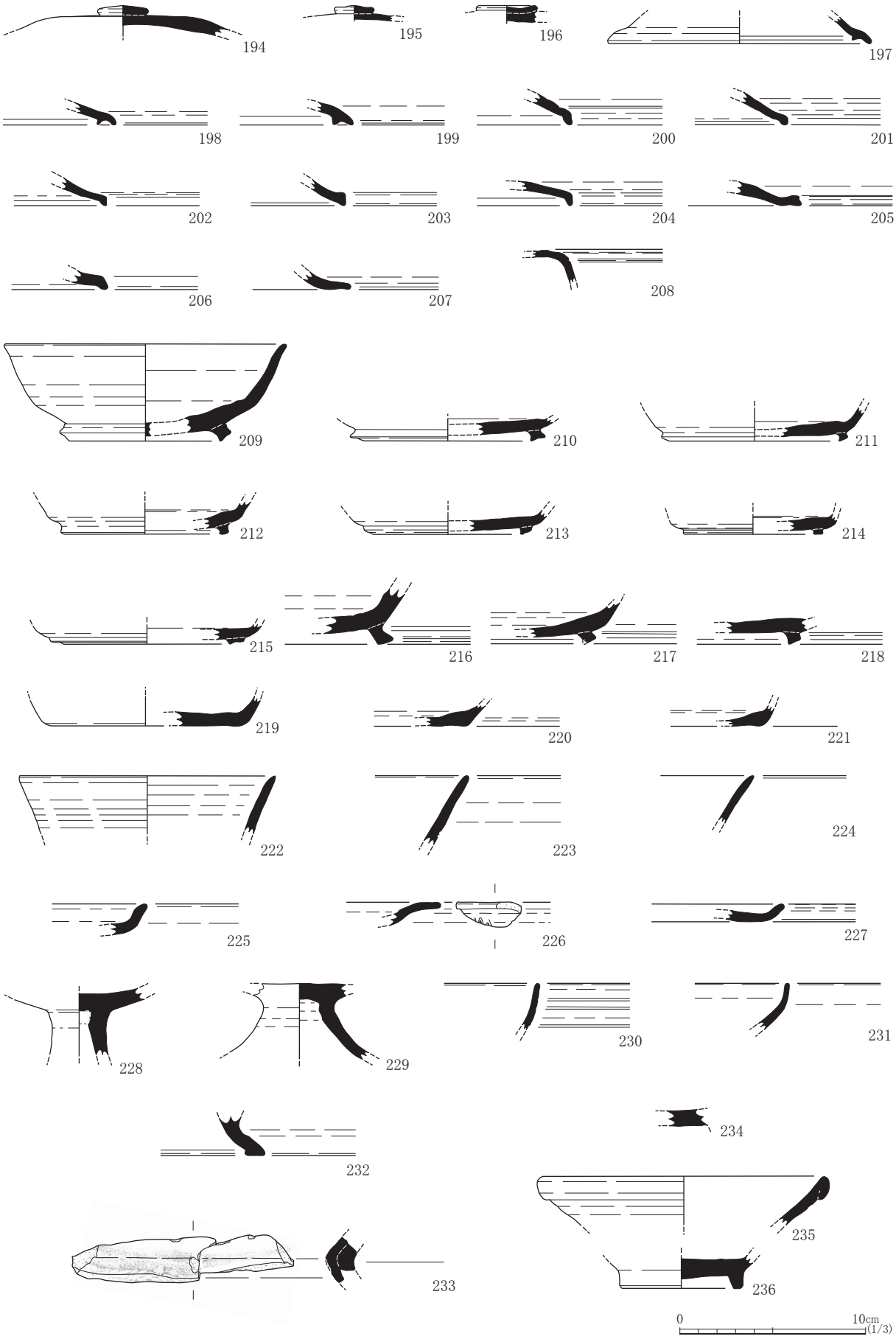


図 26　谷埋土 1 出土土器実測図①

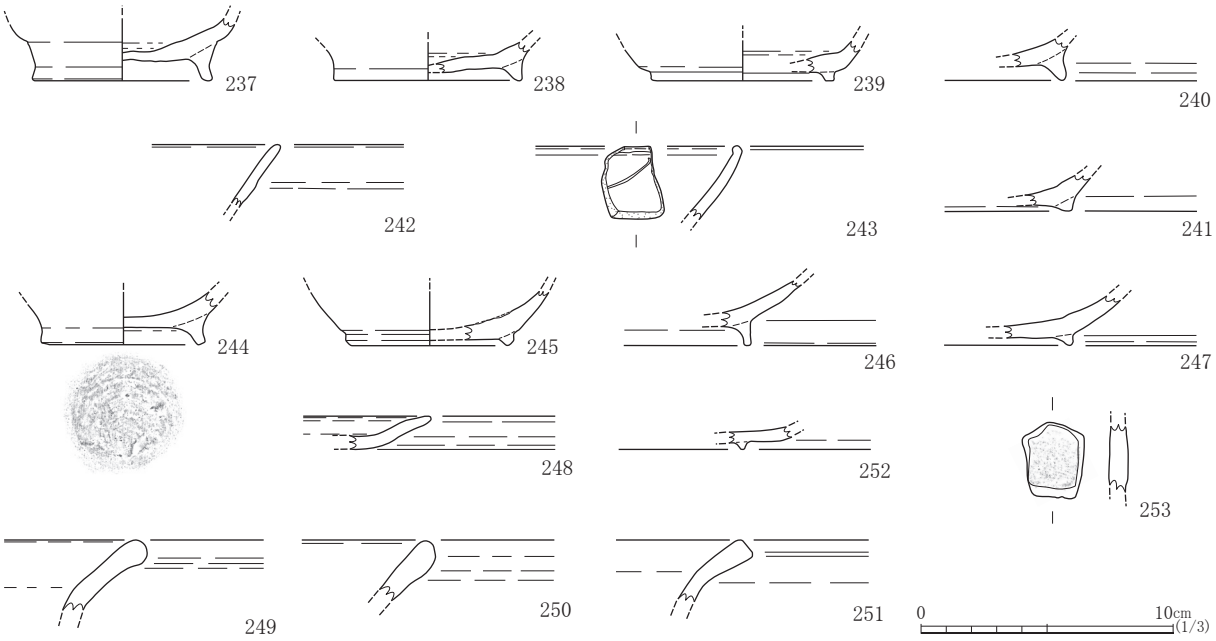


図 27　谷埋土 1 出土土器実測図②

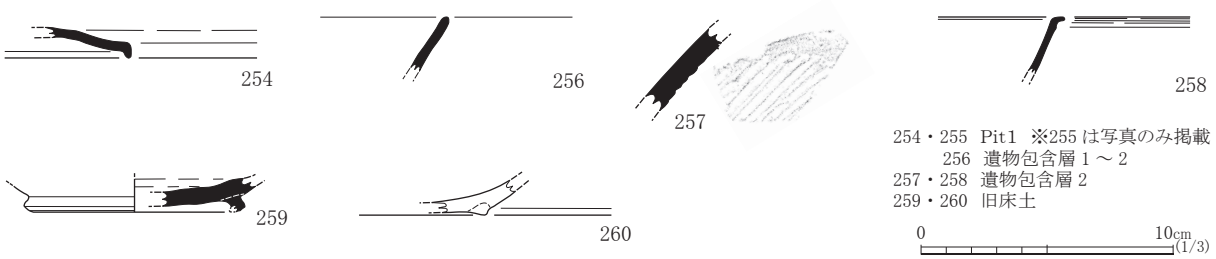


図 28　遺構・遺物包含層ほか出土土器実測図

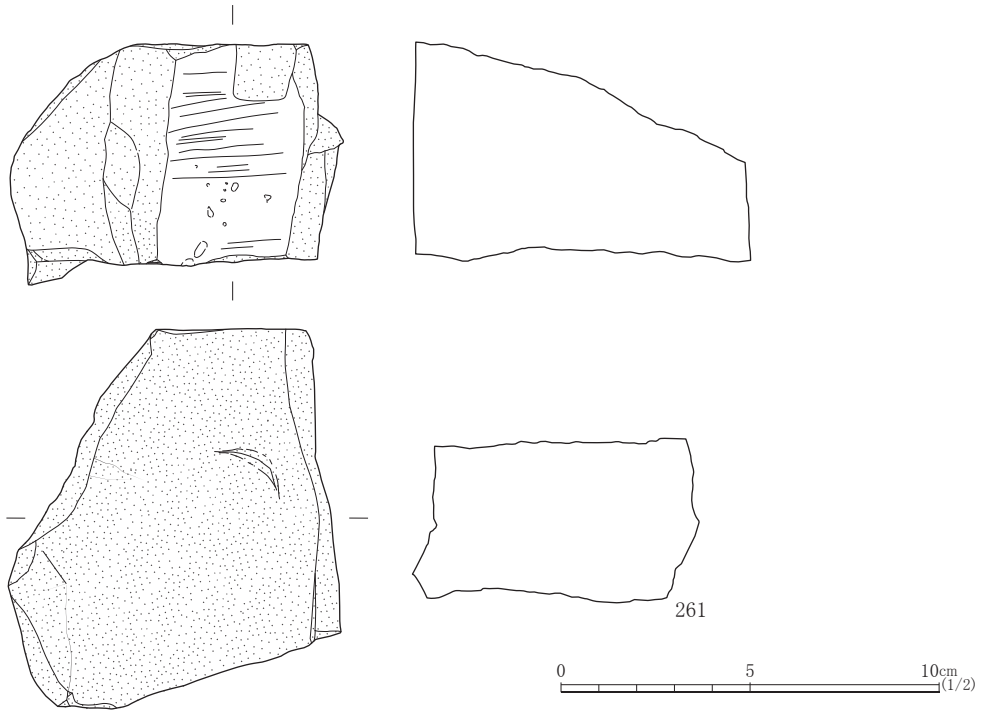


図 29　出土石器実測図

1

2

3

4

5

6

7

8

9

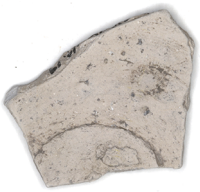
10

11

12

13

14


15

17

18

19

20

21

22

23

24

25

16

26

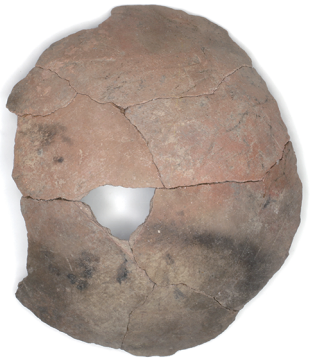

27

写真 62　出土遺物（土器）①

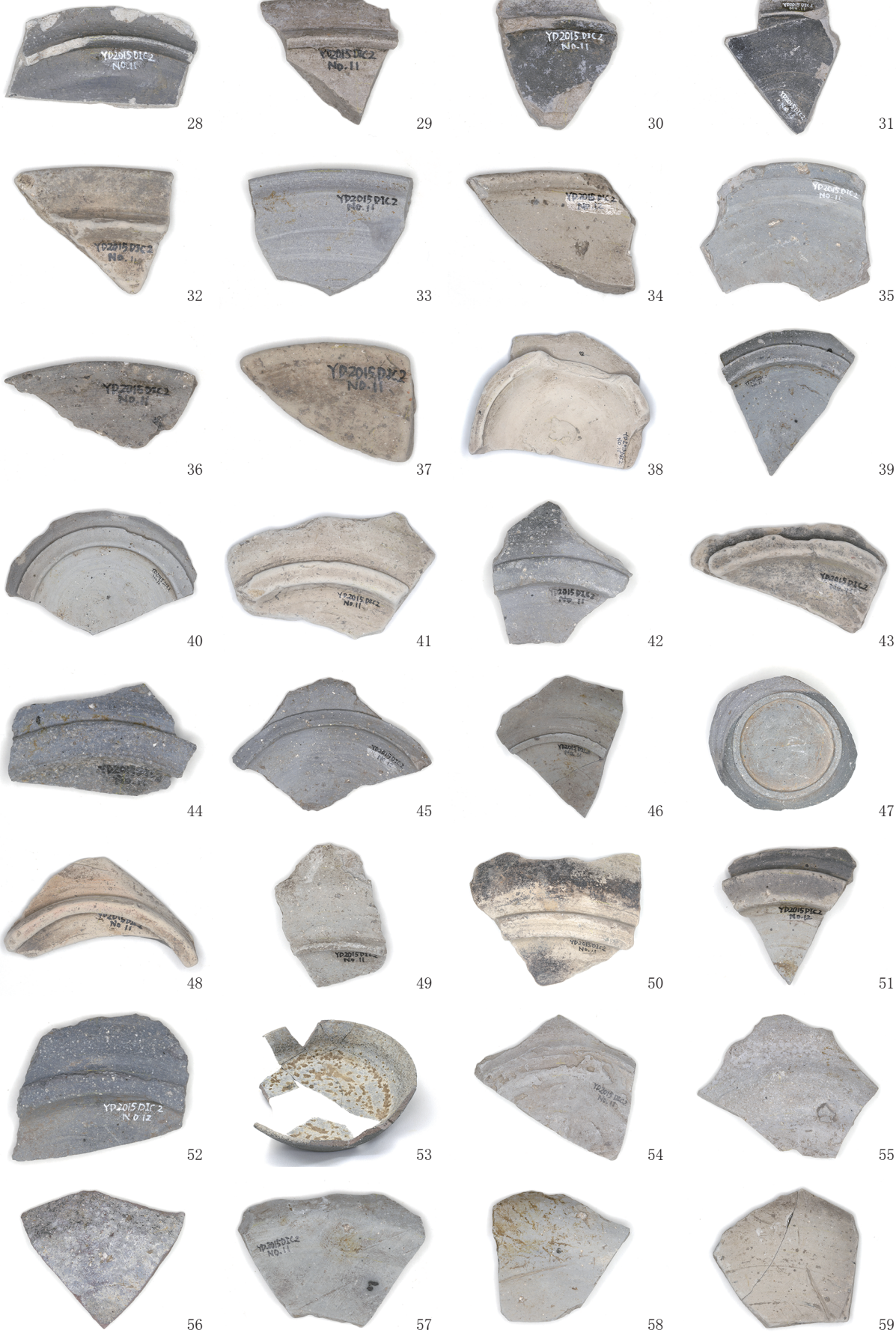


写真 63　出土遺物（土器）②

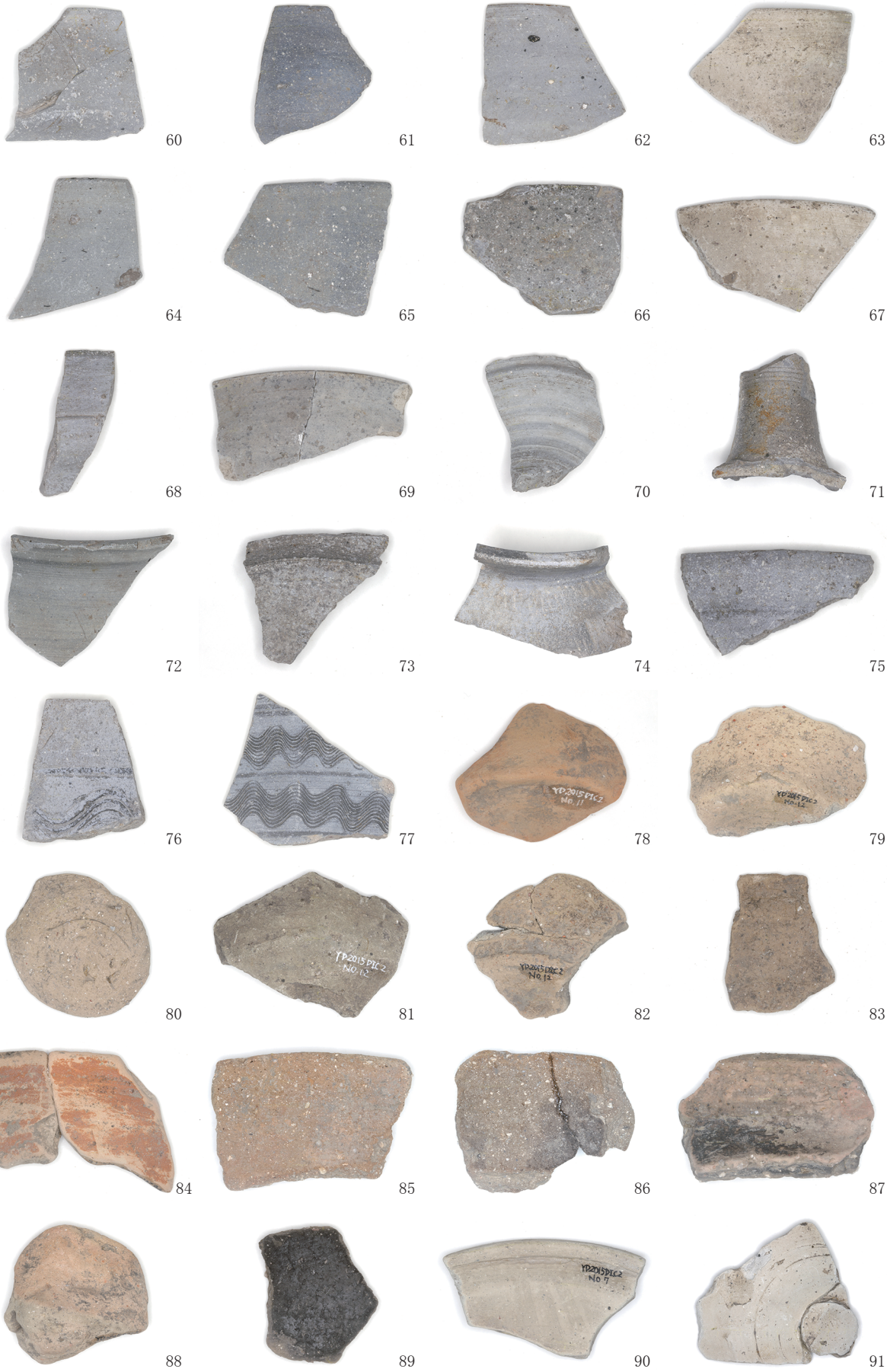
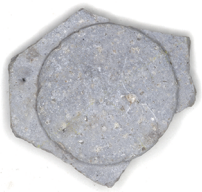


写真 64　出土遺物（土器）③

92

93

94


95

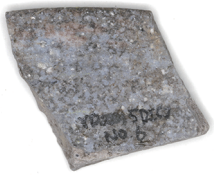
96

97

98

99

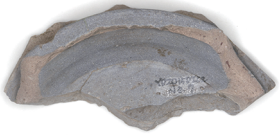
100


101

102

103

104


105

106

107

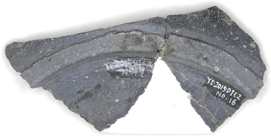
108

109

110

111

112


113

114

115

116

117

118

119

120

121

122

123

写真 65　出土遺物（土器）④

写真 66　出土遺物（土器）⑤

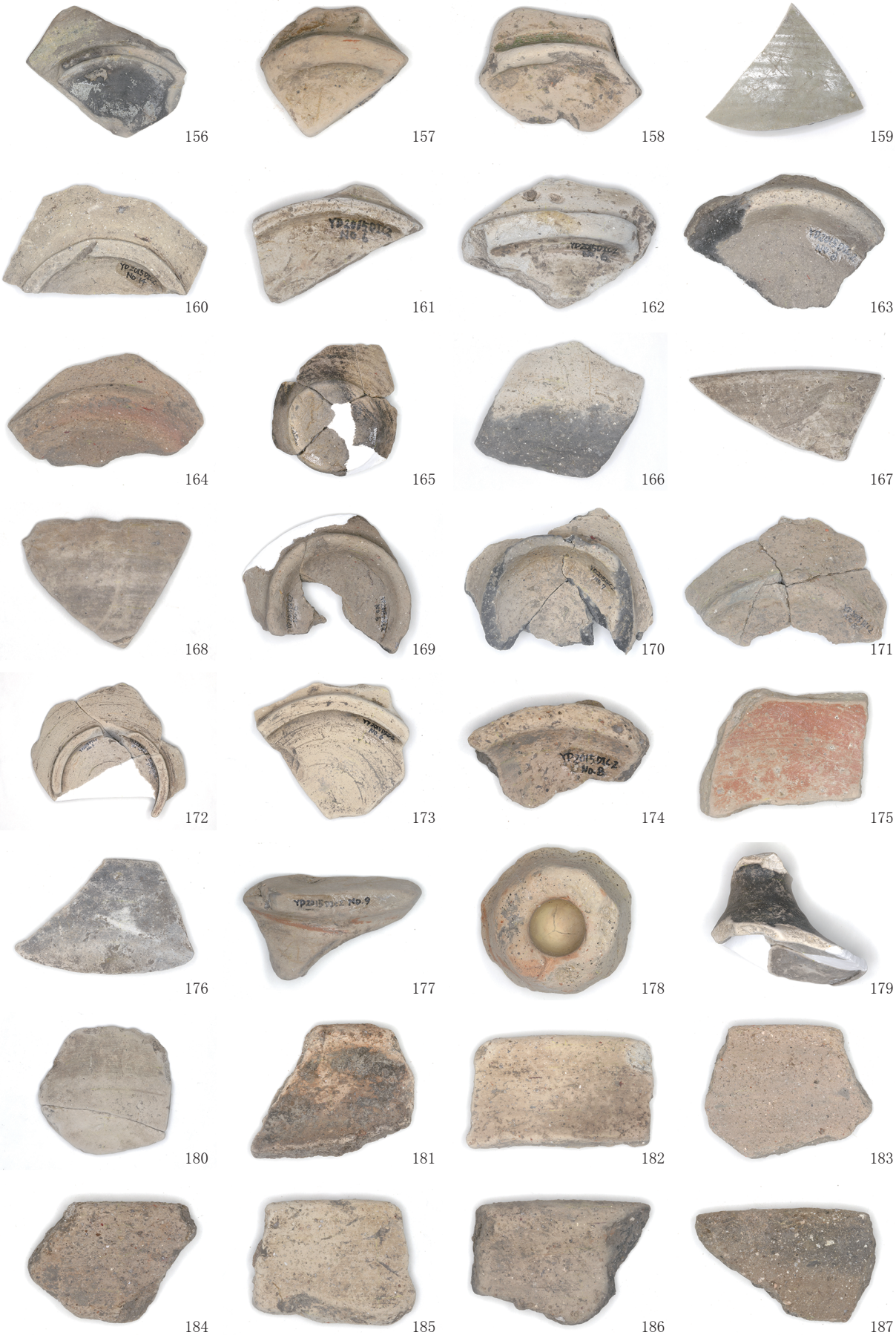


写真 67　出土遺物（土器）⑥

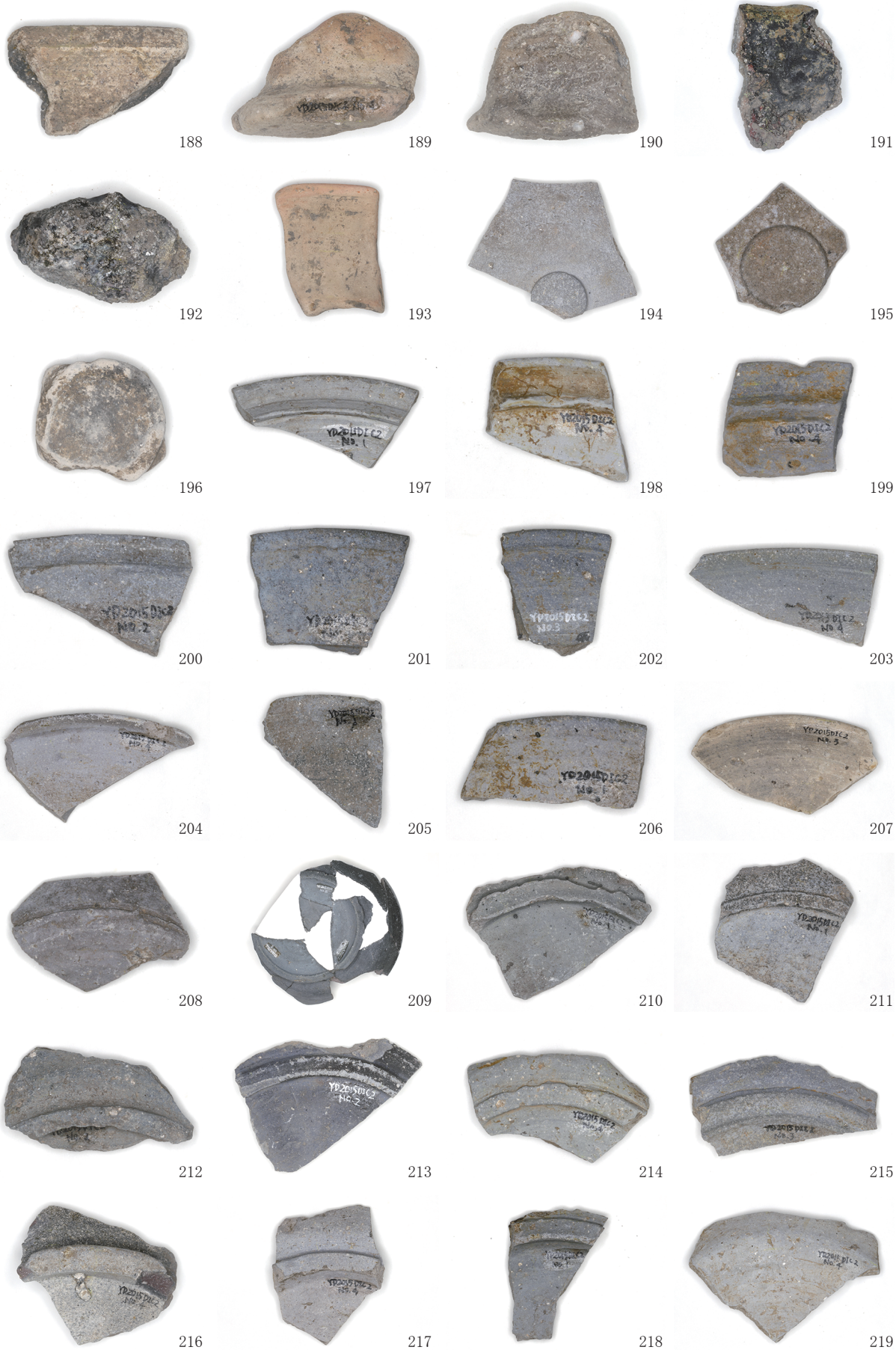


写真 68　出土遺物（土器）⑦

写真 69　出土遺物（土器）⑧

252

253

254

255

256

257

258

259

260

1 ～ 6　谷埋土 3 下層
7 ～ 27　谷埋土 3 上層
28 ～ 89　谷埋土 2 下層
90 ～ 193　谷埋土 2 上層
194 ～ 251　谷埋土 1

254・255　Pit1　※255 は写真のみ掲載
256　遺物包含層 1 ～ 2
257・258　遺物包含層 2
259・260　旧床土

写真 70　出土遺物（土器)⑨

261-1

261-2

261　谷埋土 3 上層

写真 71　出土遺物（石器）

表6 出土遺物(土器)観察表

法量( )は復元値

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
1	谷埋土3 下層	須恵器　高坏	脚部	③残高5.45	①灰白色(7.5Y7/1～N7/) ②灰白色(N7/) 断面　灰白色(7.5Y7/1)	0.5～2mmφの長石含む	
2	谷埋土3 下層	須恵器　坏	底部	③残高0.6	①②断面　灰白色(N7/)	0.5～1mmφの長石含む	底部外面 ヘラ記号
3	谷埋土3 下層	土師器　椀	底部	②(6.0) ③残高1.75	①断面　浅黄色(2.5Y7/3) ②浅黄色(2.5Y8/3)	0.5～1mmφの長石・1～2mmφのくさり礫含む	
4	谷埋土3 下層	土師器　坏	底部	③残高1.8	①②断面　灰白色(2.5Y8/1)	0.5～1mmφの長石含む	
5	谷埋土3 下層	土師器　坏	底部	③残高2.1	①淡黄色(2.5Y8/4)～にぶい黄色(2.5Y6/3) ②灰白色(2.5Y8/2)～明青灰色(5PB7/1) 断面　灰白色(2.5Y8/2)～青灰色(5B5/1)	0.5～1mmφの長石含む	
6	谷埋土3 下層	土師器　甕	口縁部	③残高4.0	①②淡黄色(2.5Y8/3) 断面　灰色(N4/)	0.5～1mmφの長石・石英・くさり礫・チャート含む	
7	谷埋土3 上層	須恵器　坏蓋	天井部	③残高1.8	①②断面　灰白色(N7/)	0.5～2mmφの長石含む	
8	谷埋土3 上層	須恵器　坏蓋	口縁部	③残高1.35	①断面　灰白色(2.5Y7/1) ②灰黄色(2.5Y7/2)	0.5～1mmφの長石含む	焼成不良

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
9	谷埋土3 上層	須恵器　坏蓋	口縁部	③残高2.0	①灰色(N5/) ②灰色(N6/) 断面　灰白色(N7/)		
10	谷埋土3 上層	須恵器　高台付坏	底部	②8.5 ③残高1.55	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/) 断面　灰白色(N8/)	0.5～2mmφの長石含む	
11	谷埋土3 上層	須恵器　坏	口縁部 ～体部	③残高3.6	①灰色(N5/) ②灰色(N6/) 断面　灰白色(N7/)	1mmφの長石含む	
12	谷埋土3 上層	須恵器　坏	口縁部	③残高2.5	①②灰色(N5/) 断面　紫灰色(5RP6/1)	0.5～1mmφの長石含む	
13	谷埋土3 上層	須恵器　坏	口縁部	③残高4.15	①灰色(N5/) ②断面　灰白色(N7/)	0.5mmφの長石含む	
14	谷埋土3 上層	須恵器　坏	口縁部	③残高2.8	①②断面　灰白色(N7/)	1mmφの長石含む	
15	谷埋土3 上層	須恵器　坏	底部	③残高0.65	①断面　灰白色(2.5Y8/2) ②灰色(5Y6/1)	0.5～2mmφの長石含む	底部外面 墨書 焼成やや 不良
16	谷埋土3 上層	須恵器　高坏	口縁部 ～底部	①(14.3) ②(9.7) ③(9.25)	①②灰白色(N7/) 断面　灰白色(2.5Y8/1)	0.5～1mmφの長石含む	
17	谷埋土3 上層	須恵器　高坏	脚部	②(7.4) ③残高3.2	①灰白色(2.5Y7/2)～暗灰色(N3/) ②暗灰色(N3/) 断面　灰白色(N7/)	1mmφの長石含む	
18	谷埋土3 上層	須恵器　高坏	脚部	③残高2.5	①②灰色(N6/) 断面　灰白色(5Y7/1)	1mmφの長石含む	
19	谷埋土3 上層	須恵器　甕	頸部	③残高5.25	①青灰色(5PB6/1) ②灰色(N6/) 断面　灰黄色(2.5Y7/2)	0.5～1mmφの長石・3mmφのチャート含む	
20	谷埋土3 上層	須恵器　甕	口縁部	③残高5.55	①②灰色(N5/) 断面　灰白色(N7/)	0.5～3mmφの長石含む	
21	谷埋土3 上層	土師器　坏	口縁部 ～体部	③残高3.8	①灰黄色(2.5Y6/2) ②灰色(5Y5/1) 断面　灰白色(2.5Y8/1)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	須恵器模倣 土師器
22	谷埋土3 上層	土師器　坏	口縁部	③残高3.2	①灰色(N4/) ②断面　灰白色(2.5Y8/2)	0.5～2mmφの長石含む	須恵器模倣 土師器
23	谷埋土3 上層	土師器　皿	口縁部	③残高1.7	①にぶい黄橙色(10YR7/2) ②にぶい黄橙色(10YR6/3) 断面　灰黄褐色(10YR6/2)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	
24	谷埋土3 上層	土師器　皿	底部	③残高0.35	①断面　にぶい黄橙色(10YR7/3) ②にぶい赤褐色(5YR5/4)	精緻(砂粒をほぼ含まない)	都城系 土師器
25	谷埋土3 上層	土師器　甕	口縁部 ～体部	③残高7.8	①②断面　灰黄褐色(10YR6/2)	0.5～2mmφの長石・石英含む	
26	谷埋土3 上層	土師器　甕	体部 ～底部	③残高18.9	①黒褐色(10YR3/2) ②灰褐色(7.5YR4/2)～黒褐色(7.5YR3/2) 断面　褐灰色(10YR5/1)	0.5～1mmφの長石含む	YD2014-1 №63同一個体か
27	谷埋土3 上層	土師器　甕	体部	③残高12.5	①暗灰黄色(2.5Y4/2)～にぶい橙色(7.5YR6/4) ②黒褐色(10YR3/2) 断面　灰黄褐色(10YR6/2)	0.5～1mmφの長石含む	
28	谷埋土2 下層	須恵器　坏蓋	口縁部	①(9.4) ③残高1.6	①灰色(5Y5/1) ②灰色(N5/) 断面　灰白色(N8/)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	
29	谷埋土2 下層	須恵器　坏蓋	口縁部	③残高3.2	①灰白色(2.5Y7/1～N7/) ②灰白色(2.5Y7/1) 断面　灰白色(2.5Y8/1)	1mmφの長石含む	
30	谷埋土2 下層	須恵器　坏蓋	口縁部	③残高1.9	①断面　灰白色(N7/) ②暗灰色(N3/)	1mmφの長石含む	
31	谷埋土2 下層	須恵器　坏蓋	天井部 ～口縁部	③残高1.55	①灰白色(N8/) ②暗灰色(N3/) 断面　灰白色(N7/)	0.5～1mmφの長石含む	
32	谷埋土2 下層	須恵器　坏蓋	口縁部	③残高1.05	①灰黄色(2.5Y6/2) ②灰黄色(2.5Y7/2) 断面　灰白色(2.5Y8/1)	1mmφの長石含む	焼成不良
33	谷埋土2 下層	須恵器　坏蓋	口縁部	③残高1.95	①②断面　灰白色(N7/)	精緻(砂粒をほぼ含まない)	
34	谷埋土2 下層	須恵器　坏蓋	口縁部	③残高1.65	①灰白色(2.5Y7/1) ②断面　灰黄色(2.5Y7/2)	0.5～1mmφの長石含む	焼成やや 不良

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
35	谷埋土2下層	須恵器　坏蓋	天井部～口縁部	③残高1.5	①②灰色(N6/) 断面　灰白色(N7/)	0.5～3mmφの長石含む	
36	谷埋土2下層	須恵器　坏蓋	口縁部	③残高0.7	①灰黄色(2.5Y6/2) ②黄灰色(2.5Y6/1) 断面　にぶい黄色(2.5Y6/3)	1mmφの長石含む	
37	谷埋土2下層	須恵器　坏蓋	口縁部	③残高0.75	①②断面　灰黄色(2.5Y7/2)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	焼成不良
38	谷埋土2下層	須恵器　高台付坏	底部	②(7.0) ③残高2.0	①断面　灰白色(2.5Y8/2) ②灰黄色(2.5Y7/2)	0.5～3mmφの長石含む	焼成不良
39	谷埋土2下層	須恵器　高台付坏	底部	②(9.0) ③残高1.9	①青灰色(5B6/1) ②灰色(N6/) 断面　灰白色(N7/)	0.5～3mmφの長石含む	
40	谷埋土2下層	須恵器　高台付坏	底部	②(7.7) ③残高1.8	①灰白色(N7/)～灰色(N5/) ②断面　灰白色(N7/)	0.5～2mmφの長石含む	
41	谷埋土2下層	須恵器　高台付坏	底部	②(9.0) ③残高2.3	①②灰黄色(2.5Y7/2) 断面　灰白色(2.5Y8/1)	0.5～1mmφの長石含む	焼成不良
42	谷埋土2下層	須恵器　高台付坏	底部	②(8.2) ③残高2.35	①灰色(N6/) ②断面　灰白色(N7/)	0.5mmφの長石含む	
43	谷埋土2下層	須恵器　高台付坏	底部	②(9.3) ③残高1.35	①灰白色(5Y7/1)～灰色(N4/) ②灰色(10Y4/1) 断面　灰白色(2.5Y8/1)	0.5～1mmφの長石含む	焼成不良
44	谷埋土2下層	須恵器　高台付坏	底部	②(7.6) ③残高1.5	①②青灰色(5B5/1) 断面　灰色(N6/)	0.5～1mmφの長石含む	
45	谷埋土2下層	須恵器　高台付坏	底部	②(9.3) ③残高1.3	①②灰色(N6/) 断面　灰白色(N7/)	0.5～2mmφの長石含む	
46	谷埋土2下層	須恵器　高台付坏	底部	②(6.2) ③残高2.35	①灰色(5Y6/1) ②灰色(7.5Y6/1) 断面　灰色(N6/)	0.5mmφの長石含む	
47	谷埋土2下層	須恵器　高台付坏	体部～底部	②6.2 ③残高4.0	①灰色(N6/)～青灰色(10BG6/1) ②青灰色(10BG6/1) 断面　灰色(N6/)	0.5～3mmφの長石・石英含む	
48	谷埋土2下層	須恵器　高台付坏	底部	②(6.8) ③残高1.8	①灰白色(10YR8/2) ②灰黄色(2.5Y7/2) 断面　灰白色(2.5Y8/1)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	緑釉陶器の可能性あり 焼成不良
49	谷埋土2下層	須恵器　高台付坏	体部～底部	③残高3.25	①②灰白色(5Y7/1) 断面　灰白色(N8/)	0.5～2mmφの長石含む	
50	谷埋土2下層	須恵器　高台付坏	底部	③残高2.85	①②灰白色(2.5Y8/2)～暗灰色(N3/) 断面　灰白色(2.5Y8/2)	1mmφの長石含む	焼成不良
51	谷埋土2下層	須恵器　高台付坏	底部	③残高1.95	①灰白色(N8/)～灰色(N5/) ②断面　灰白色(N7/)	0.5～1mmφの長石含む	
52	谷埋土2下層	須恵器　高台付坏	底部	③残高1.55	①②断面　青灰色(5B5/1)	0.5～1mmφの長石含む	
53	谷埋土2下層	須恵器　坏	口縁部～底部	①(14.0) ②(11.0) ③3.55	①灰色(N4/) ②灰白色(N7/) 断面　灰褐色(5YR5/2)	0.5～1mmφの長石含む	
54	谷埋土2下層	須恵器　坏	底部	②(7.0) ③残高1.45	①灰白色(N7/) ②断面　灰白色(2.5Y7/1)	0.5～4mmφの長石含む	
55	谷埋土2下層	須恵器　坏	底部	②(7.4) ③残高2.1	①②断面　灰白色(N7/)	1mmφの長石含む	
56	谷埋土2下層	須恵器　坏	底部	②(8.4) ③残高1.25	①灰白色(N7/) ②灰色(N6/) 断面　にぶい褐色(10YR5/3)	0.5～2mmφの長石含む	
57	谷埋土2下層	須恵器　坏	底部	②(10.6) ③残高1.15	①②断面　灰白色(N7/)	0.5mmφの長石含む	
58	谷埋土2下層	須恵器　坏	底部	③残高1.25	①②断面　灰白色(N7/)	0.5～3mmφの長石含む	底部外面ヘラ記号
59	谷埋土2下層	須恵器　坏	底部	③残高0.9	①②灰黄色(2.5Y7/2) 断面　灰白色(2.5Y7/1)	0.5～1mmφの長石含む	焼成やや不良 底部外面ヘラ記号
60	谷埋土2下層	須恵器　坏	口縁部～底部	③残高2.9	①灰色(N6/) ②断面　灰白色(N7/)	0.5～2mmφの長石含む	
61	谷埋土2下層	須恵器　坏	口縁部～体部	③残高3.6	①灰色(N5/) ②灰色(N6/) 断面　灰黄褐色(10YR6/2)	0.5～3mmφの長石含む	
62	谷埋土2下層	須恵器　坏	口縁部	③残高3.55	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	0.5～1mmφの長石含む	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
63	谷埋土2下層	須恵器　坏	口縁部～体部	③残高3.6	①②断面　灰黄色(2.5Y7/2)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	焼成不良
64	谷埋土2下層	須恵器　坏	口縁部	③残高3.65	①②断面　灰白色(N7/)	0.5～1mmφの長石含む	
65	谷埋土2下層	須恵器　坏	口縁部	③残高2.95	①灰色(N5/) ②断面　灰色(N6/)	0.5～2mmφの長石含む	
66	谷埋土2下層	須恵器　坏	口縁部	③残高2.6	①灰色(7.5Y6/1) ②断面　灰白色(7.5Y7/1)	0.5～2mmφの長石含む	
67	谷埋土2下層	須恵器　坏	口縁部	③残高2.1	①②断面　灰黄色(2.5Y7/2)	0.5～1mmφの長石含む	焼成やや不良
68	谷埋土2下層	須恵器　高坏	口縁部	③残高3.25	①灰白色(N7/) ②灰色(5Y6/1)～灰白色(N7/) 断面　灰白色(7.5Y7/1)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	
69	谷埋土2下層	須恵器　高坏	口縁部	③残高2.0	①明青灰色(5PB7/1) ②断面　浅黄色(2.5Y7/3)	0.5～1mmφの長石含む	焼成不良
70	谷埋土2下層	須恵器　高坏	脚部	③残高2.1	①②断面　灰白色(N7/)	0.5～1mmφの長石含む	
71	谷埋土2下層	須恵器　長頸壺	頸部	③残高7.7	①灰色(5Y6/1) ②灰白色(N7/) 断面　灰白色(5Y7/2)	1mmφの長石含む	
72	谷埋土2下層	須恵器　壺	口縁部～体部	③残高5.6	①青灰色(5B6/1) ②灰白色(7.5Y7/1)～(N7/) 断面　灰白色(7.5Y7/1)	0.5～1mmφの長石含む	
73	谷埋土2下層	須恵器　壺	底部	③残高1.85	①灰白色(5Y7/1) ②灰白色(N7/) 断面　灰色(N6/)	0.5～1mmφの長石含む	
74	谷埋土2下層	須恵器　甕	口縁部～頸部	③残高7.9	①②灰色(N6/) 断面　灰白色(N7/)	0.5～2mmφの長石含む	
75	谷埋土2下層	須恵器　甕	口縁部	③残高2.1	①灰色(N6/) ②断面　灰白色(N7/)	0.5～2mmφの長石含む	
76	谷埋土2下層	須恵器　甕	頸部	③残高3.8	①②灰白色(N7/) 断面　灰白色(5Y7/2)	0.5～1mmφの長石含む	
77	谷埋土2下層	須恵器　甕	頸部	③残高5.15	①②灰色(N6/) 断面　灰黄色(2.5Y7/2)	0.5～1mmφの長石含む	
78	谷埋土2下層	土師器　高台付坏	底部	③残高1.9	①②断面　橙色(7.5YR6/6)	精緻(砂粒をほぼ含まない)	
79	谷埋土2下層	土師器　坏	底部	②(8.2) ③残高1.85	①にぶい黄橙色(10YR7/4) ②にぶい黄褐色(10YR5/3) 断面　灰色(N4/)	0.5～3mmφの長石・0.5～1mmφのくさり礫・チャート含む	
80	谷埋土2下層	土師器　坏	底部	②4.2 ③残高0.95	①断面　にぶい黄橙色(10YR7/4) ②にぶい黄橙色(10YR6/3)	0.5～2mmφの長石・1mmφのくさり礫含む	底部糸切
81	谷埋土2下層	土師器　坏	底部	③残高1.4	①②断面　灰黄色(2.5Y6/2)	0.5～2mmφの長石含む	
82	谷埋土2下層	土師器　坏	底部	③残高2.5	①にぶい黄橙色(10YR7/4) ②灰黄褐色(10YR5/2) 断面　黄灰色(2.5Y5/1)	0.5～2mmφの長石・0.5～1mmφのくさり礫含む	
83	谷埋土2下層	土師器　坏	口縁部	③残高3.2	①にぶい黄橙色(10YR6/3) ②にぶい黄橙色(10YR6/4) ～灰黄褐色(10YR5/2) 断面　黄灰色(2.5Y5/1	0.5～1mmφの長石含む	遺物番号82と同一個体か
84	谷埋土2下層	土師器　皿	口縁部	③残高2.2	①明赤褐色(5YR5/6) ②にぶい赤褐色(5YR5/4) 断面　にぶい橙色(10YR7/4)	精緻(砂粒をほぼ含まない)	都城系土師器
85	谷埋土2下層	土師器　甕	口縁部	③残高3.0	①②断面　にぶい褐色(7.5YR5/4)	0.5～3mmφの長石・石英含む	
86	谷埋土2下層	土師器　甕	口縁部	③残高4.2	①断面　にぶい黄褐色(10YR4/3) ②にぶい黄褐色(10YR5/3)	0.5～5mmφの長石・石英含む	
87	谷埋土2下層	土師器　甕	口縁部	③残高3.05	①黒色(10YR2/1)～にぶい褐色(7.5YR6/3) ②にぶい黄橙色(10YR6/3) 断面　暗灰色(N3/)	0.5～3mmφの長石・石英・0.5～2mmφのくさり礫含む	
88	谷埋土2下層	土師器	把手	③残高2.35	①にぶい橙色(7.5YR7/4) 断面　にぶい黄橙色(10YR7/2)	0.5～1mmφの長石・くさり礫含む	
89	谷埋土2下層	黒色土器　椀か	体部	③残高2.45	①断面　暗灰黄色(2.5Y4/2) ②黒色(N2/)	0.5～1mmφの長石含む	内黒

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
90	谷埋土2上層	須恵器　坏蓋	口縁部	①(14.2) ③残高1.8	①断面　灰白色(2.5Y7/1) ②灰黄色(2.5Y7/2)	0.5mmφの長石含む	焼成やや不良
91	谷埋土2上層	須恵器　坏蓋	天井部	③残高1.6	①断面　灰白色(2.5Y8/2) ②灰黄色(2.5Y7/2)	1mmφの長石含む	焼成不良
92	谷埋土2上層	須恵器　坏蓋	撮部	③残高1.8	①黄灰色(2.5Y5/1) ②灰色(N6/) 断面　灰白色(2.5Y7/1)	0.5～3mmφの長石含む	
93	谷埋土2上層	須恵器　坏蓋	撮部	③残高1.25	①②灰白色(N7/) 断面　灰白色(N8/)	0.5～2mmφの長石含む	
94	谷埋土2上層	須恵器　坏蓋	撮部	③残高0.95	①②灰色(N6/) 断面　灰白色(N7/)	1mmφの長石含む	
95	谷埋土2上層	須恵器　坏蓋	撮部	③残高1.0	①②灰白色(N7/) 断面　灰白色(2.5Y7/1)	0.5～2mmφの長石含む	
96	谷埋土2上層	須恵器　坏蓋	口縁部	③残高1.65	①②断面　灰白色(N7/)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	
97	谷埋土2上層	須恵器　坏蓋	口縁部	③残高1.65	①灰白色(N7/) ②灰色(N4/) 断面　灰白色(N8/)	0.5mmφの長石含む	
98	谷埋土2上層	須恵器　坏蓋	口縁部	③残高1.3	①②灰白色(N7/) 断面　灰白色(10Y8/1)	精緻(砂粒をほぼ含まない)	
99	谷埋土2上層	須恵器　坏蓋	口縁部	③残高1.4	①②断面　灰白色(N7/)	1mmφの長石含む	
100	谷埋土2上層	須恵器　坏蓋	口縁部	③残高1.2	①灰白色(N7/) ②断面　灰白色(7.5Y7/1)	1mmφの長石含む	
101	谷埋土2上層	須恵器　坏蓋	口縁部	③残高1.1	①灰色(N5/)～灰白色(5Y7/1) ②明青灰色(10BG7/1) 断面　灰白色(2.5Y7/1)	1mmφの長石含む	
102	谷埋土2上層	須恵器　坏蓋	口縁部	③残高1.05	①断面　青灰色(5B6/1) ②青灰色(5B5/1)	0.5～1mmφの長石含む	
103	谷埋土2上層	須恵器　坏蓋	口縁部	③残高0.95	①灰白色(N7/) ②青灰色(5B6/1) 断面　黄灰色(2.5Y6/1)	0.5～1mmφの長石含む	
104	谷埋土2上層	須恵器　坏蓋か	口縁部	③残高1.6	①灰白色(5Y7/2～N7/) ②灰色(N6/) 断面　灰白色(5Y7/1)	精緻(砂粒をほぼ含まない)	
105	谷埋土2上層	須恵器　高台付坏	底部	②(8.2) ③残高1.95	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/) 断面　にぶい黄橙色(10YR7/3)～灰白色(N7/)	0.5～1mmφの長石含む	
106	谷埋土2上層	須恵器　高台付坏	底部	②(9.4) ③残高1.8	①断面　灰色(N6/) ②灰色(10Y6/1)	0.5～2mmφの長石含む	
107	谷埋土2上層	須恵器　高台付坏	底部	②(8.4) ③残高2.7	①黄灰色(2.5Y6/1) ②灰白色(N7/) 断面　灰色(5Y6/1)	0.5～3mmφの長石含む	
108	谷埋土2上層	須恵器　高台付坏	底部	②(8.5) ③残高1.55	①青灰色(5B6/1) ②灰色(N6/) 断面　赤灰色(5R5/1)	0.5～1mmφの長石含む	
109	谷埋土2上層	須恵器　高台付坏	底部	②(8.8) ③残高1.8	①灰白色(7.5Y7/1～N7/) ②断面　灰色(N6/)	0.5～3mmφの長石含む	
110	谷埋土2上層	須恵器　高台付坏	底部	②(8.4) ③残高2.3	①灰白色(2.5Y8/2)～灰色(N5/) ②灰色(5Y6/1) 断面　淡黄色(2.5Y8/3)	0.5～3mmφの長石含む	焼成やや不良
111	谷埋土2上層	須恵器　高台付坏	底部	②(6.2) ③残高2.15	①灰色(10Y6/1)～灰黄色(2.5Y6/2) ②断面　灰色(5Y6/1)	0.5～2mmφの長石含む	
112	谷埋土2上層(地山直上)	須恵器　高台付坏	底部	②(7.2) ③残高2.65	①灰白色(N8/)～灰色(N5/) ②断面　灰白色(N7/)	0.5～1mmφの長石含む	
113	谷埋土2上層	須恵器　高台付坏	底部	②(8.8) ③残高1.85	①灰色(N4/) ②灰色(N5/) 断面　灰白色(5Y7/1)	0.5～1mmφの長石含む	
114	谷埋土2上層	須恵器　高台付坏	底部	②(6.3) ③残高2.2	①青灰色(5B6/1) ②緑灰色(10G6/1) 断面　灰色(N6/1)	0.5～1mmφの長石含む	
115	谷埋土2上層	須恵器　高台付坏	体部～底部	②(9.2) ③残高3.7	①②断面　灰色(N7/)	0.5～3mmφの長石含む	
116	谷埋土2上層	須恵器　高台付坏	底部	③残高1.95	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/) 断面　灰白色(N8/)	0.5～2mmφの長石含む	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
117	谷埋土2上層(地山直上)	須恵器　高台付坏	底部	③残高1.5	①②灰白色(N7/) 断面　灰白色(7.5Y7/1)	0.5～1mmφの長石含む	
118	谷埋土2上層	須恵器　高台付坏	底部	③残高1.4	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/) 断面　灰白色(5Y7/1)	0.5～4mmφの長石含む	
119	谷埋土2上層	須恵器　高台付坏	底部	③残高1.25	①②断面　青灰色(5B6/1)	0.5～2mmφの長石含む	
120	谷埋土2上層	須恵器　坏	口縁部～底部	①(15.6) ②(10.6) ③5.85	①灰色(N6/) ②断面　灰白色(N7/)	0.5～3mmφの長石含む	
121	谷埋土2上層	須恵器　坏	底部	②(6.7) ③残高0.9	①②灰黄色(2.5Y7/2) 断面　灰白色(2.5Y7/1)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	焼成やや不良
122	谷埋土2上層	須恵器　坏	体部～底部	③残高2.2	①灰白色(5Y8/1)～黄灰色(2.5Y4/1) ②断面　灰黄色(2.5Y7/2)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	焼成不良
123	谷埋土2上層	須恵器　坏	底部	③残高1.4	①灰黄色(2.5Y7/2) ②断面　灰白色(2.5Y8/2)	1mmφの長石含む	焼成やや不良
124	谷埋土2上層	須恵器　坏	底部	②(6.6) ③残高1.45	①断面　灰黄色(2.5Y6/2) ②灰黄色(2.5Y7/2)	0.5～1mmφの長石含む	焼成やや不良
125	谷埋土2上層	須恵器　坏	体部～底部	③残高2.6	①灰白色(10Y7/1) ②断面　黄灰色(2.5Y6/1)	0.5mmφの長石含む	
126	谷埋土2上層(地山直上)	須恵器　坏	底部	③残高2.1	①②灰黄色(2.5Y7/2) 断面　灰白色(N7/)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	焼成やや不良
127	谷埋土2上層	須恵器　坏	口縁部～体部	③残高4.0	①灰白色(2.5Y7/1) ②断面　灰黄色(2.5Y7/2)	0.5～2mmφの長石含む	
128	谷埋土2上層	須恵器　坏	口縁部～体部	③残高4.0	①②断面　灰白色(N7/)	1mmφの長石含む	
129	谷埋土2上層	須恵器　坏	口縁部～体部	③残高3.6	①灰白色(N7/) ②灰色(N6/) 断面　灰白色(2.5Y7/1)	1mmφの長石含む	
130	谷埋土2上層	須恵器　坏	口縁部	③残高2.5	①②灰色(N6/) 断面　明紫色(5P7/1)	0.5mmφの長石含む	
131	谷埋土2上層	須恵器　坏	口縁部～体部	③残高3.05	①灰色(5Y5/1) ②灰色(10Y6/1) 断面　灰白色(N7/)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	
132	谷埋土2上層	須恵器　坏	口縁部	③残高2.45	①②断面　灰白色(N7/)	0.5～2mmφの長石含む	
133	谷埋土2上層	須恵器　坏	口縁部	③残高2.5	①青灰色(5B5/1) ②灰色(N6/) 断面　灰白色(2.5Y7/1)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	
134	谷埋土2上層	須恵器　坏	口縁部～体部	③残高3.3	①灰色(5Y5/1) ②灰色(N6/) 断面　灰色(5Y6/1)	0.5mmφの長石含む	
135	谷埋土2上層	須恵器　坏	口縁部～体部	③残高2.9	①灰色(N6/) ②灰白色(2.5Y7/1) 断面　灰黄色(2.5Y7/2)	0.5～2mmφの長石含む	外面墨書
136	谷埋土2上層	須恵器　皿	底部～口縁部	①(25.2) ③(3.5)	①黄灰色(2.5Y6/1) ②灰白色(7.5Y7/1) 断面　にぶい黄橙色(10YR7/3)	0.5～1mmφの長石含む	焼成やや不良
137	谷埋土2上層	須恵器　皿	口縁部～底部	③残高1.4	①灰色(10Y6/1) ②断面　灰色(N6/)	0.5～1mmφの長石含む	
138	谷埋土2上層(地山直上)	須恵器　高坏	坏底部～脚部	③残高3.55	①浅黄色(2.5Y7/3)～黄灰色(2.5Y6/1) ②断面　灰黄色(2.5Y7/2)	0.5～6mmφの長石含む	焼成不良
139	谷埋土2上層	須恵器　高坏	脚部	③残高4.05	①青灰色(5B5/1) ②灰色(N6/) 断面　灰白色(2.5Y7/1)	0.5～2mmφの長石含む	
140	谷埋土2上層	須恵器　高坏	脚部	③残高5.3	①灰色(5Y5/) ②灰色(N5/) 断面　灰白色(2.5Y8/1)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	焼成やや不良
141	谷埋土2上層	須恵器　高坏	脚部	②(9.4) ③残高1.15	①②断面　灰白色(N7/)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	
142	谷埋土2上層(地山直上)	須恵器　壺	底部	②(15.9) ③残高1.9	①断面　灰白色(7.5Y8/1) ②灰白色(5Y7/2)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	焼成不良

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
143	谷埋土2上層	須恵器　壺	底部	②(4.4) ③残高2.0	①灰色(N6/～N5/) ②断面　灰色(N6/)	0.5～2mmφの長石含む	高台に刺突痕
144	谷埋土2上層	須恵器　壺	肩部	③残高1.7	①②断面　灰色(N6/)	0.5～1mmφの長石含む	
145	谷埋土2上層	須恵器　横瓶	体部	③残高1.4	①褐灰色(10YR6/1)～灰オリーブ色(7.5Y4/2) ②灰色(N5/) 断面　灰褐色(7.5YR5/2)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	外面自然釉付着
146	谷埋土2上層(地山直上)	須恵器　横瓶	体部	③残高8.8	①灰白色(N7/)～灰色(N4/) ②灰白色(7.5Y8/1)～灰色(N6/) 断面　灰白色(7.5Y8/1)	0.5～1mmφの長石含む	
147	谷埋土2上層	須恵器　長頸壺	頸部	③残高9.9	①灰色(N6/～N5/) ②灰白色(N8/～N7/) 断面　灰白色(2.5Y8/1)～青灰色(5B6/1)	1mmφの長石含む	
148	谷埋土2上層	須恵器　甕	口縁部～頸部	③残高7.1	①②灰色(N6/) 断面　灰白色(2.5Y7/2)	0.5～2mmφの長石含む	
149	谷埋土2上層	須恵器　甕	口縁部	③残高3.1	①灰色(N6/～N4/) ②断面　灰色(N6/)	0.5～1mmφの長石含む	
150	谷埋土2上層	須恵器　壺	口縁部	③残高3.45	①②断面　灰色(N5/)	0.5～1mmφの長石含む	
151	谷埋土2上層	須恵器　甕	頸部	③残高4.6	①②灰色(N6/) 断面　灰黄色(2.5Y7/2)	1mmφの長石含む	
152	谷埋土2上層	須恵器　甕	頸部	③残高2.1	①灰白色(N8/) ②黄灰色(2.5Y4/1) 断面　灰黄色(2.5Y7/2)	0.5～1mmφの長石含む	
153	谷埋土2上層	須恵器　甕	頸部	③残高2.65	①青灰色(5B6/1) ②断面　明青灰色(5B7/1)	0.5～3mmφの長石含む	
154	谷埋土2上層	須恵器　甕	頸部～肩部	③残高1.9	①②灰白色(N7/) 断面　灰白色(5Y7/2)	0.5～2mmφの長石含む	
155	谷埋土2上層	須恵器　円面硯	脚部	③残高4.45	①灰色(N4/) ②灰色(N6/) 断面　灰色(N5/)	1mmφの長石含む	
156	谷埋土2上層(地山直上)	緑釉陶器　椀	底部	②(8.0) ③残高1.5	①黄灰色(2.5Y5/1)～浅黄色(7.5Y7/3)～暗灰色(N3/) ②灰色(5Y4/1) ③にぶい黄橙色(10YR7/2)	精緻(砂粒をほぼ含まない)	
157	谷埋土2上層	緑釉陶器椀	底部	②(6.0) ③残高1.5	緑釉①オリーブ灰色(10Y6/2) ②灰オリーブ色(7.5Y4/2) 素地①浅黄橙色(10YR6/2) ②にぶい黄橙色(10YR7/3)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	
158	谷埋土2上層	緑釉陶器　椀	底部	③残高1.55	緑釉①②灰オリーブ色(10Y6/2) 素地①②　灰白色(10YR8/2)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	
159	谷埋土2上層(地山直上)	青磁　椀	体部	③残高3.7	①②灰オリーブ色(7.5Y6/2) 断面　灰白色(N8/)	精緻(砂粒をほぼ含まない)	
160	谷埋土2上層	土師器　高台付坏	底部	②(4.3) ③残高2.4	①断面　浅黄色(2.5Y7/3) ②にぶい黄色(2.5Y6/3)	0.5～3mmφの長石含む	
161	谷埋土2上層	土師器　高台付坏	底部	②(6.4) ③残高1.05	①断面　灰白色(2.5Y8/2) ②　灰黄色(2.5Y7/2)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	
162	谷埋土2上層	土師器　高台付坏	底部	③残高1.8	①断面　灰白色(2.5Y8/1) ②灰黄色(2.5Y7/2)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	
163	谷埋土2上層	土師器　高台付坏	底部	③残高1.5	①灰黄色(2.5Y6/2) ②断面　黒色(N2/)	0.5～1mmφの長石・0.5mmφのくさり礫含む	
164	谷埋土2上層	土師器　高台付坏	底部	③残高1.4	①浅黄色(2.5Y7/3) ②にぶい黄色(2.5Y6/3) 断面　黄灰色(2.5Y6/1)	0.5～1mmφの長石含む	
165	谷埋土2上層	土師器　坏	底部	②6.3 ③残高4.1	①浅黄色(2.5Y7/3)～灰黄色(2.5Y6/2) ②浅黄橙色(10YR8/3)～灰黄色(2.5Y6/2) 断面　暗灰色(N3/)	0.5～1mmφの長石含む	底部糸切
166	谷埋土2上層	土師器　坏	体部～底部	③残高2.65	①灰白色(2.5Y8/2)～灰色(5Y5/1) ②断面　灰白色(2.5Y8/2)～灰色(5Y4/1)	0.5～1mmφの長石・石英含む	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
167	谷埋土2上層	土師器　坏	口縁部	③残高1.9	①灰白色(2.5Y7/1) ②断面　灰黄色(2.5Y7/2)	0.5～1mmφの長石含む	
168	谷埋土2上層	土師器　坏	口縁部	③残高2.2	①灰黄色(2.5Y7/2) ②灰白色(2.5Y7/1) 断面　灰白色(2.5Y8/1)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	
169	谷埋土2上層	土師器　椀	底部	②6.4 ③残高2.15	①②にぶい黄色(2.5Y6/3) 断面　灰黄色(2.5Y5/1)	0.5～2mmφの長石含む 0.5mmφのくさり礫含む	
170	谷埋土2上層	土師器　椀	体部～底部	②(6.0) ③残高3.0	①灰黄色(2.5Y7/2) ②淡黄色(2.5Y8/3) 断面　暗灰色(N3/)	0.5～2mmφの長石・0.5～1mmφのくさり礫含む	底部糸切
171	谷埋土2上層	土師器　椀	底部	②(6.8) ③残高2.2	①にぶい黄橙色(10YR6/3) ②断面　にぶい黄橙色(10YR7/3)	0.5～3mmφの長石・5mmφの石英・0.5～1mmφのくさり礫含む	
172	谷埋土2上層	土師器　椀	底部	②(7.0) ③残高2.4	①灰白色(2.5Y8/2) ②灰黄色(2.5Y7/2) 断面　灰白色(2.5Y8/1)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	
173	谷埋土2上層	土師器　椀	底部	②(7.0) ③残高1.15	①②断面　淡黄色(2.5Y8/3)	精緻(砂粒をほぼ含まない)	緑釉陶器の可能性あり
174	谷埋土2上層	土師器　椀	底部	③残高1.4	①②浅黄色(2.5Y7/3) 断面　灰色(N4/)	0.5～3mmφの長石・1mmφの石英・くさり礫含む	
175	谷埋土2上層	土師器　皿	底部	③残高1.2	①浅黄色(2.5Y7/3) ②明赤褐色(2.5Y5/6) 断面　灰黄色(2.5Y7/2)	0.5mmφの長石含む	都城系土師器
176	谷埋土2上層	土師器　皿	口縁部～底部	③残高2.4	①黄灰色(2.5Y6/1) ②断面　にぶい黄橙色(10YR7/2)	0.5～1mmφの長石含む	
177	谷埋土2上層(地山直上)	土師器　高台付皿	底部	③残高2.3	①明赤褐色(5YR5/6)～浅黄色(2.5Y7/3) ②明赤褐色(5YR5/6)～灰黄色(2.5Y7/2) 断面　灰黄色(2.5Y7/2)～灰色(5Y4/1)	精緻(砂粒をほぼ含まない)	赤色塗彩
178	谷埋土2上層	土師器　高坏	脚部	③残高4.6	①にぶい黄橙色(10YR7/3) ②浅黄色(2.5Y7/3)～灰黄色(2.5Y7/2) 断面　灰黄色(2.5Y7/2)	0.5～1mmφの長石・くさり礫含む	
179	谷埋土2上層	土師器　高坏	脚部	②(10.4) ③残高5.8	①暗灰色(N3/)～灰白色(2.5Y8/1) ②黄灰色(2.5Y6/1) 断面　灰白色(2.5Y8/1)	0.5mmφの長石含む	
180	谷埋土2上層	土師器　高坏	口縁部	③残高3.4	①断面　灰白色(2.5Y8/2) ②灰黄色(2.5Y7/2)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	
181	谷埋土2上層	土師器　甕	口縁部	③残高3.55	①にぶい黄橙色(10YR6/3)～にぶい橙色(7.5YR7/4) ②にぶい黄褐色(10YR5/3) 断面　にぶい黄橙色(10YR7/3)	0.5～2mmφの長石・石英・くさり礫含む	
182	谷埋土2上層	土師器　甕	口縁部	③残高2.65	①②浅黄色(2.5Y7/3) 断面　灰色(5Y5/1)	0.5～3mmφの長石・0.5～1mmφの石英・くさり礫含む	
183	谷埋土2上層	土師器　甕	口縁部	③残高3.55	①にぶい黄橙色(10YR7/2) ②にぶい黄橙色(10YR7/3) 断面　黄灰色(2.5Y6/1)	0.5～1mmφの長石・石英・くさり礫含む	
184	谷埋土2上層	土師器　甕	口縁部	③残高1.55	①灰黄褐色(10YR6/2) ②にぶい黄橙色(10YR7/2) 断面　褐灰色(10YR6/1)	0.5～1mmφの長石・石英・くさり礫含む	
185	谷埋土2上層	土師器　甕	口縁部	③残高2.75	①浅黄色(2.5Y7/3) ②淡黄色(2.5Y8/3) 断面　灰白色(2.5Y7/1)	0.5～2mmφの長石含む 0.5～1mmφのくさり礫含む 8mmφのチャート含む	
186	谷埋土2上層	土師器　甕	口縁部	③残高2.45	①にぶい黄橙色(10YR7/2) ②灰黄色(2.5Y6/2) 断面　黄灰色(2.5Y6/1)	0.5～1mmφの長石含む	
187	谷埋土2上層	土師器　甕	口縁部	③残高2.5	①にぶい黄褐色(10YR5/3) ②黄褐色(2.5Y5/3) 断面　黄灰色(2.5Y4/1)	0.5～3mmφの長石含む	
188	谷埋土2上層	土師器　甕	口縁部	③残高2.15	①②浅黄橙色(10YR8/3) 断面　灰色(N4/)	0.5～1mmφの長石含む	
189	谷埋土2上層	土師器	把手	③残高2.95	①にぶい黄橙色(10YR7/3)～にぶい橙色(7.5YR7/4) ②断面　にぶい黄橙色(10YR7/2)	0.5～1mmφの長石含む	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
190	谷埋土2 上層	土師器	把手	③残高2.45	①②灰黄褐色(10YR6/1)～ 褐灰色(10YR5/1) 断面　褐灰色(10YR5/1)	0.5～4mmφの長石・石英含む	
191	谷埋土2 上層	鞴　羽口		残長4.85 残幅3.7 残厚1.7 重量23.40g	①橙色(7.5YR6/6) ～灰色(5Y5/1) ②黒色(N2/) 断面　青灰色(5B6/1)	0.5～3mmφの長石含む	
192	谷埋土2 上層	鞴　羽口		残長2.45 残幅4.35 残厚2.2 重量16.42g	①灰色(7.5Y6/1) ～青灰色(5B5/1) ②黒色(N2/) 断面　灰色(7.5Y6/1)	0.5～1mmφの長石含む	
193	谷埋土2 上層	弥生土器　高坏	口縁部	③残高4.85	①にぶい黄橙色(10YR7/3) ②断面　にぶい黄橙色 (10YR7/2)	0.5～1mmφの長石含む	
194	谷埋土1	須恵器　坏蓋	天井部	③残高1.75	①②断面　灰白色(N7/)	1～2mmφの長石含む	
195	谷埋土1	須恵器　坏蓋	撮部	③残高0.85	①黄灰色(2.5Y6/2) ②断面　灰白色(N7/)	0.3mmφの砂粒含む	
196	谷埋土1	須恵器　坏蓋	撮部	③残高0.85	①②断面　灰白色(2.5Y8/2)	0.5mmφの長石含む	焼成不良
197	谷埋土1	須恵器　坏蓋	口縁部	①(14.0) ③残高1.45	①②断面　灰白色(N7/)	0.5～1mmφの長石含む	
198	谷埋土1	須恵器　坏蓋	口縁部	③残高1.2	①②断面　灰白色(N7/)	0.5～1mmφの長石含む	
199	谷埋土1	須恵器　坏蓋	口縁部	③残高1.2	①②灰色(N6/) 断面　灰色(N5/)	0.5～1mmφの長石含む	
200	谷埋土1	須恵器　坏蓋	口縁部	③残高1.7	①②灰色(N6/) 断面　灰黄色(2.5Y7/2)	0.5～1mmφの長石含む	
201	谷埋土1	須恵器　坏蓋	口縁部	③残高1.75	①青灰色(5B6/1) ②断面　明青灰色(5B7/1)	0.5～2mmφの長石含む	
202	谷埋土1	須恵器　坏蓋	口縁部	③残高1.5	①②灰色(N6/) 断面　灰黄褐色(10YR5/2) ～暗灰色(N3/)	1mmφの長石含む	
203	谷埋土1	須恵器　坏蓋	脚部	③残高1.4	①灰白色(N7/) ②灰色(N6/) 断面　黄灰色(2.5Y7/2)	0.5mmφの長石含む	
204	谷埋土1	須恵器　坏蓋	口縁部	③残高1.3	①黄灰色(2.5Y6/1)～灰白色(N8/) ②断面　灰白色(N7/)	1mmφの長石含む	
205	谷埋土1	須恵器　坏蓋	口縁部	③残高1.3	①②断面　灰色(N6/)	0.5～2mmφの長石含む	
206	谷埋土1	須恵器　高坏	脚部	③残高1.05	①灰色(N6/) ②断面　灰白色(N7/)	0.5～2mmφの長石含む	
207	谷埋土1	須恵器　坏蓋か	脚部	③残高1.05	①にぶい黄橙色(10YR7/2) ②灰白色(10R7/1) 断面　灰白色(2.5Y8/1)	0.5～2mmφの長石含む	焼成やや不良
208	谷埋土1	須恵器　壺蓋	天井部	③残高1.75	①灰白色(N7/)～灰色(N6/) ②断面　灰色(N6/)	0.5～3mmφの長石含む	
209	谷埋土1	須恵器　高台付坏	口縁部 ～底部	①(15.0) ②(8.2) ③5.25	①暗青灰色(5B3/1)～ (5B4/1) ②灰色(N5/) 断面　褐灰色(10YR6/1)	1～5mmφの長石含む	全体焼け歪み
210	谷埋土1	須恵器　高台付坏	底部	②(9.0) ③残高1.2	①灰色(10Y6/1) ②断面　灰白色(5Y7/1)	1mmφの長石含む	
211	谷埋土1	須恵器　高台付坏	底部	②(8.1) ②残高8.1	①灰白色(N7/) ②灰色(N5/) 断面　灰色(N6/)	1mmφの長石含む	
212	谷埋土1	須恵器　高台付坏	底部	②(8.0) ③残高1.7	①断面　青灰色(10BG6/1) ②青灰色(5BG6/1)	0.5～2mmφの長石含む	
213	谷埋土1	須恵器　高台付坏	底部	②(7.8) ③残高1.3	①②灰色(N5/) 断面　黄灰色(2.5Y6/1)	0.5～1mmφの長石含む	
214	谷埋土1	須恵器　高台付坏	底部	③残高1.1	①②断面　灰白色(N7/)	0.5～3mmφの長石含む	
215	谷埋土1	須恵器　高台付坏	底部	②(9.0) ③残高1.1	①②灰色(N6/) 断面　灰黄色(2.5Y7/2)	0.5mmφの長石含む	
216	谷埋土1	須恵器　高台付坏	底部	③残高3.0	①青灰色(5B5/1)～灰白色(N7/) ②灰白色(N7/) 断面　灰黄褐色(10YR5/2)	0.5～2mmφの長石含む	
217	谷埋土1	須恵器　高台付坏	底部	③残高2.2	①②灰白色(N7/) 断面　灰白色(2.5Y7/1)	0.5～1mmφの長石含む	
218	谷埋土1	須恵器　高台付坏	底部	③残高1.4	①②断面　灰色(N6/)	0.5～1mmφの長石含む	
219	谷埋土1	須恵器　坏	底部	②(10.0) ③残高1.65	①断面　灰白色(N7/) ②灰白色(5Y7/1)	0.5～2mmφの長石含む	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
220	谷埋土1	須恵器　坏	底部	③残高1.1	①黄灰色(2.5Y6/1) ②灰黄色(2.5Y7/2) 断面　灰白色(2.5Y7/1)	0.5mmφの長石含む	
221	谷埋土1	須恵器　坏	底部	③残高1.1	①灰白色(N7/) ②灰色(N6/) 断面　灰色(7.5Y7/1)	1mmφの長石含む	
222	谷埋土1	須恵器　坏	口縁部	①(13.7) ③残高3.15	①②灰白色(N7/) 断面　灰白色(5Y7/2)	0.5～1mmφの長石含む	
223	谷埋土1	須恵器　坏	口縁部	③残高3.75	①灰黄色(2.5Y7/2) ②断面　浅黄色(2.5Y7/3)	0.5～1mmφの長石含む	焼成やや不良
224	谷埋土1	須恵器　坏	口縁部	③残高2.55	①灰白色(N7/) ②断面　灰色(N6/)	0.5mmφの長石含む	
225	谷埋土1	須恵器　皿	口縁部～底部	③残高1.75	①②断面　灰色(N6/)	0.5～1mmφの長石含む	
226	谷埋土1	須恵器　皿	口縁部	③残高1.25	①②断面　青灰色(5B6/1)	0.5～1mmφの長石含む	
227	谷埋土1	須恵器　皿	口縁部～底部	③1.0	①灰黄色(2.5Y7/2) ②灰白色(2.5Y8/2) 断面　にぶい黄橙色(10YR7/3)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	焼成やや不良
228	谷埋土1	須恵器　高坏	脚部	③残高3.6	①断面　灰白色(2.5Y8/1) ②灰白色(2.5Y8/1)～(7.5Y7/1)	0.5～1mmφの長石含む	焼成やや不良
229	谷埋土1	須恵器　高坏	脚部	③残高	①暗青灰色(5B4/1)～灰色(7.5Y6/1) ②灰白色(N7/)～灰白色(2.5Y7/1) 断面　灰白色(N7/)	0.5～2mmφの長石含む	
230	谷埋土1	須恵器　高坏	口縁部	③残高2.55	①②断面　灰白色(2.5Y7/1)	1～2mmφの長石含む	
231	谷埋土1	須恵器　高坏	口縁部	③残高2.5	①灰白色(5Y7/1)～灰色(5Y6/1) ②断面　灰白色(N7/)	0.5～1mmφの長石含む	
232	谷埋土1	須恵器　壺	高台	③残高2.1	①②灰白色(2.5Y8/2) 断面　灰白色(2.5Y8/1)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	焼成不良
233	谷埋土1	須恵器　甕	頸部	③残高2.55	①灰色(N5/) ②灰色(N4/) 断面　灰色(N6/)～にぶい黄橙色(10YR7/2)	1mmφの長石含む	
234	谷埋土1	緑釉陶器　椀か	底部	③残高0.95	①暗オリーブ色(5Y4/3) ②オリーブ褐色(2.5Y4/3) 断面　浅黄色(2.5Y7/3)	精緻(砂粒をほぼ含まない)	
235	谷埋土1	白磁　椀	口縁部	①(15.0) ③残高2.65	①②灰白色(7.5Y7/2) 断面　灰白色(N8/)	精緻(砂粒をほぼ含まない)	
236	谷埋土1	白磁　椀	底部	②(6.6) ③残高1.8	①②灰白色(2.5GY8/1) 断面　灰白色(N8/)	精緻(砂粒をほぼ含まない)	
237	谷埋土1	土師器　高台付坏	底部	②(6.2) ③残高2.5	①暗灰黄色(2.5Y5/2) ②灰黄色(2.5Y7/2) 断面　暗青灰色(5B4/1)	0.5～1mmφの長石・くさり礫・チャート含む	
238	谷埋土1	土師器　高台付坏	底部	②(7.4) ③残高1.5	①にぶい黄橙色(10YR6/3) ②断面　にぶい黄橙色(10YR7/4)	0.5～4mmφの長石・0.5～1mmφのくさり礫含む	
239	谷埋土1	土師器　高台付坏	底部	①(7.2) ③残高1.6	①②断面　灰黄色(2.5Y7/2)	0.5～1mmφの長石含む	
240	谷埋土1	土師器　高台付坏	底部	③残高1.65	①②浅黄色(2.5Y8/3) 断面　灰色(N4/)	0.5～1mmφの長石含む	
241	谷埋土1	土師器　高台付坏	底部	③残高1.4	①②浅黄色(2.5Y7/3) 断面　暗灰色(N3/)	0.5～1mmφの長石・くさり礫・チャート含む	
242	谷埋土1	土師器　坏	口縁部	③残高2.5	①②断面　灰白色(2.5Y8/2)	0.5～1mmφの長石含む	
243	谷埋土1	土師器　坏	口縁部	③残高2.9	①浅黄橙色(10YR8/3) ②橙色(5YR6/6) 断面　浅黄橙色(10YR8/3)	0.5～1mmφの長石含む	都城系土師器赤色塗彩
244	谷埋土1	土師器　椀	底部	②5.9 ③残高2.1	①にぶい黄橙色(10YR7/3) ②にぶい黄橙色(10YR6/3) 断面　灰色(N4/)	0.5～1mmφの長石・0.5～3mmφのくさり礫含む	底部糸切
245	谷埋土1	土師器　椀	底部	①(6.2) ③残高2.15	①にぶい橙色(7.5Y6/4) ②浅黄色(2.5Y7/3) 断面　淡黄色(2.5Y8/3)	0.5mmφの長石・くさり礫含む	
246	谷埋土1	土師器　椀	底部	③残高2.05	①②断面　にぶい黄橙色	0.5～2mmφの長石・くさり礫・チャート含む	
247	谷埋土1	土師器　椀	底部	③残高1.95	①②断面　浅黄色(2.5Y8/3)	0.5～1mmφの長石含む	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
248	谷埋土1	土師器　皿	口縁部～底部	③残高1.3	①②断面　浅黄色(2.5Y7/3)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	
249	谷埋土1	土師器　甕	口縁部	③残高2.8	①にぶい黄色(2.5Y6/3)～灰色(5Y4/1) ②灰黄色(2.5Y7/2) 断面　灰色(5Y4/1)	0.5～1mmφの長石・石英含む	
250	谷埋土1	土師器　甕	口縁部	③残高2.4	①②断面　浅黄色(2.5Y7/3)	0.5～1mmφの長石・チャート含む	
251	谷埋土1	土師器　甕	口縁部	③残高2.45	①浅黄橙色(10YR8/3) ②灰白色(10YR8/2) 断面　黄灰色(2.5Y6/1)	0.5～5mmφの長石・1mmφの石英含む	
252	谷埋土1	瓦器　椀	底部	③残高0.9	①黄灰色(2.5Y6/1) ②暗灰色(N3/) 断面　灰白色(2.5Y8/1)	精緻(砂粒をほぼ含まない)	
253	谷埋土1	製塩土器	体部	③残高3.0	①断面　にぶい橙色(7.5YR7/4) ②浅黄色(10YR8/3)	0.5～5mmφの長石含む	六連式 内面布目
254	Pit1	須恵器　坏蓋	口縁部	③残高1.2	①②灰色(N6/) 断面　灰白色(N7/)	0.5～2mmφの長石含む	
255	Pit1	緑釉陶器	体部				
256	包含層	須恵器　坏	口縁部	③残高2.15	①②断面　灰白色(N7/)	0.5mmφの長石含む	
257	包含層2	須恵器　甕	口縁部	③残高3.3	①青灰色(5B5/1) ②灰黄色(2.5Y6/2) 断面　灰白色(N7/)	0.5mmφの長石・石英含む	
258	包含層2	白磁　椀	口縁部	③残高2.25	①②灰白色(2.5GY8/1) 断面　灰白色(10Y8/1)	精緻(砂粒をほぼ含まない)	
259	旧床土	須恵器　高台付坏	底部	②(7.5) ③残高1.3	①青灰色(5B5/1) ②明青灰色(5B7/1) 断面　にぶい黄褐色(10YR5/3)	0.5～2mmφの長石含む	
260	旧床土	土師器　椀	底部	③残高1.4	①②断面　灰白色(2.5Y8/2)	1mmφの長石含む	

表7　出土遺物(石器)観察表

法量(　)は残存値

遺物番号	遺構・層位	器種	法量(cm) ①長さ②幅③厚④重量(g)	石材	備考
261	谷埋土3上層	砥石	①(10.0)　②(8.8)　③(5.6)　④(600.4)	凝灰岩	

209～218は須恵器高台付坏。209は完形復元可能な資料で、丸底気味の底部からやや内湾して体部が立ち上がり、口縁を軽く外反させる。やや大ぶりの高台は断面方形であり、内端で接地する。

219～221は無高台の須恵器坏底部片で、222～224は坏口縁部片。

225～227は須恵器皿の口縁部片。228・229は須恵器高坏の坏底－脚部片で、230・231は口縁部片。

222は須恵器壺の高台片で、233は須恵器甕の頸部片。内面にわずかに同心円当て具痕が残る。

234は緑釉陶器椀の底部片。内外面とも釉の乗りが良好で、外面は部分的に赤く発色している。

235・236は白磁の口縁部片と底部片。235は玉縁口縁で、釉薬の発色から両者は別個体と見られる。

237～241は土師器高台付坏の底部片で、242・243は坏の口縁部片。243は都城系土師器で、赤色塗彩が施され、口縁端部を内側に折り込んでいる。244～247は土師器椀の底部片。244には糸切痕が残る。248は土師器皿。249～251は土師器甕口縁部片。

252は瓦器椀の底部片と見られる。253は六連式製塩土器の体部片で、内面に布目が明瞭に残る。

遺構・遺物包含層ほか出土土器(図28、写真70、表6)

254・255はPit1出土の須恵器坏蓋片と緑釉陶器片(写真のみ掲載)であるが、Pit1埋土の土質は谷埋土2上層と同一である。256～258は遺物包含層出土資料で、256は須恵器坏口縁部片、257は須恵器甕の頸部片で、外面には斜線文が施されている。258は白磁椀の口縁部で、端部を外側に折り返してい

る。**259・260**は旧床土出土の須恵器高台付坏と土師器椀の底部片。

出土石器（図29、写真71、表7）

261は凝灰岩製の砥石で、1面のみを使用している。1側面を中心に黒色化しており、被熱を受けた可能性がある。重量は600.9gを量る。

【註】

1）横山成己（2019）「動物医療センター（リニアック室等）新営その他工事に伴う本発掘調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成26年度－』，山口　29頁4～9行参照

小結

当調査は、実働わずか8日間の調査であったが、埋没谷に対し人力掘削を行うことで層位ごとに遺物を取り上げることができた。木製品の公開は次年度年報に繰り越すが、土器および石器は可能な限り図化を行い、本書に示した遺物は261点に上る。その一方で、資料の公開に関し注意していただきたい点がある。

動物医療センター周域ではこれまでに複数回発掘調査を実施している[註1]ものの、出土した遺物に対し、特徴的な資料や一部の大型須恵器・土師器などをのぞき、各調査をまたぐ資料の接合検討を行っていない。各調査区は互いに近接している（図18）こと、小片資料が圧倒的多数であることから、同一個体を複数回図示している可能性が高い。

現に、平成10年度に実施した総合研究棟新営に伴う発掘調査にて出土した円面硯（註1田畑（2017）Fig.18の56）と平成28年度に実施した実習棟（動物病理解剖施設）新営その他工事に伴う本発掘調査[註2]にて出土した円面硯が接合していることから[註3]、各調査をまたぐ再度の接合検討が必要であることは言を俟たないが、人的・時間的限界により実現できていないことをまずはお詫びしたい。古代の吉田遺跡に関し、本報告を行う際にはこの課題に取り組む所存である。

末筆になるが、調査に従事していただいた右田次男、福永良彦、山本保孝、内田敏夫、田中好市の各氏には、急な依頼にかかわらず全面的なご協力を得た。記して謝意を表したい。

【註】

1）田畑直彦（2004）「平成7・10～14年度山口大学構内遺跡の概要」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報ⅩⅥ・ⅩⅦ』，山口

田畑直彦（2017）「吉田構内総合研究棟新営に伴う発掘調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡遺跡調査研究年報ⅩⅩ』，山口

横山成己（2007）「吉田遺跡第Ⅱ地区の調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成17年度－』，山口

横山成己（2010）「農学部附属家畜病院改修工事に伴う本発掘調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成18年度－』，山口

横山成己（2012）「農学部附属動物医療センター改修Ⅲ期工事に伴う本発掘調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成18年度－』，山口

横山成己（2019）「動物医療センター（リニアック室等）新営その他工事に伴う本発掘調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成26年度－』，山口

2）調査成果は令和2年度末に刊行予定の年報に収録する。

3）その一方で、本書掲載の土師器甕（26）と類似する動物医療センター改修Ⅲ期工事第2調査区出土の土師器甕（横山（2012）の151頁38）は接合しないことが判明している。

4．動物医療センター（リニアック室等）新営その他工事（外灯設置）に伴う立会調査

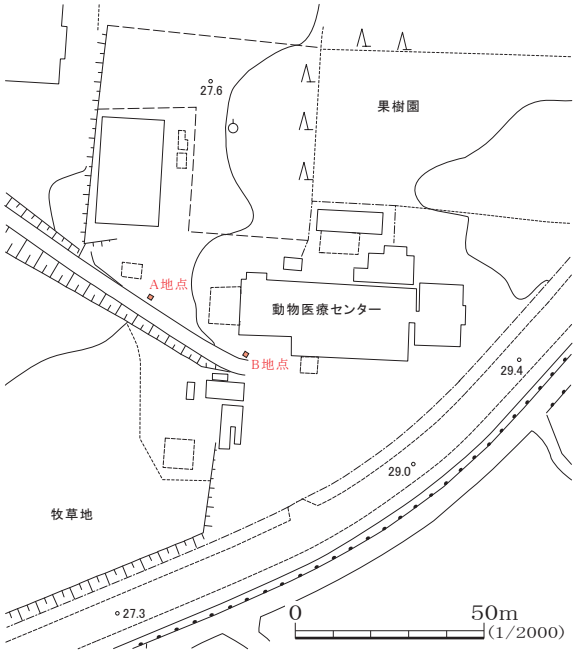


図 30　調査区位置図

写真 72　A地点土層断面（北西から）

写真 73　B地点土層断面（東から）

調査地区　吉田構内S-20区

調査面積　2㎡

調査期間　平成27年9月28日

調査担当　横山成己

調査結果

動物医療センターにリニアック室が増築されることに伴い、新たに外灯が2箇所（西側：A地点、東側：B地点）に設置されることとなった。外灯基礎の掘削深度が1mを超えることから、工事時に立会調査を実施することとなった。

A地点は平成20年度に実施した動物医療センター改修Ⅲ期工事に伴う本発掘調査第2調査区[註1]に近接する。現地表下0.8mが造成土であり、直下が明黄褐色（2.5Y6/6）の地山であったが、調査区南東隅に地山を切り込む落ち込みが検出された（図31、写真72）。埋土は黒褐色（10YR3/1）弱粘質土で、遺構の一部と見られるが、埋没谷の左岸の可能性もある。

B地点は柱根が遺存する大型掘立柱建物跡が検出された動物医療センター改修Ⅰ期工事に伴う本発掘調査区[註2]と動物医療センター（リニアック室等）新営その他工事（プレハブ撤去）に伴う立会調査区（本書所収）の中間に位置している。重機掘削時に、現地表下0.7mで遺物包含層と見られる堆積土が確認されたため、予定掘削深度まで人力で掘削した。造成土以下は厚み0.2mの黄褐色（2.5Y5/3）粘質土（遺物包含層1）、厚み0.2mの褐灰色（10YR 4/1）粘質土（遺物包含層2）となっており、部分的にさらに下位の黄灰色（2.5Y4/1）強粘質土（谷埋土1）が露出していたが、これは掘削時に確認できず、断面精査時に確認した（図31、写真73）。

B地点の遺物包含層2もしくは谷埋土1から須恵器7点、土師器3点が出土したが、図示可能な遺物は1点のみである（図32、写真74、表8）。**1**はB地点から出土した須恵器甕口縁部片で、口縁の内外端部を欠失している。

当調査は、1㎡2箇所という狭小範囲で実施した

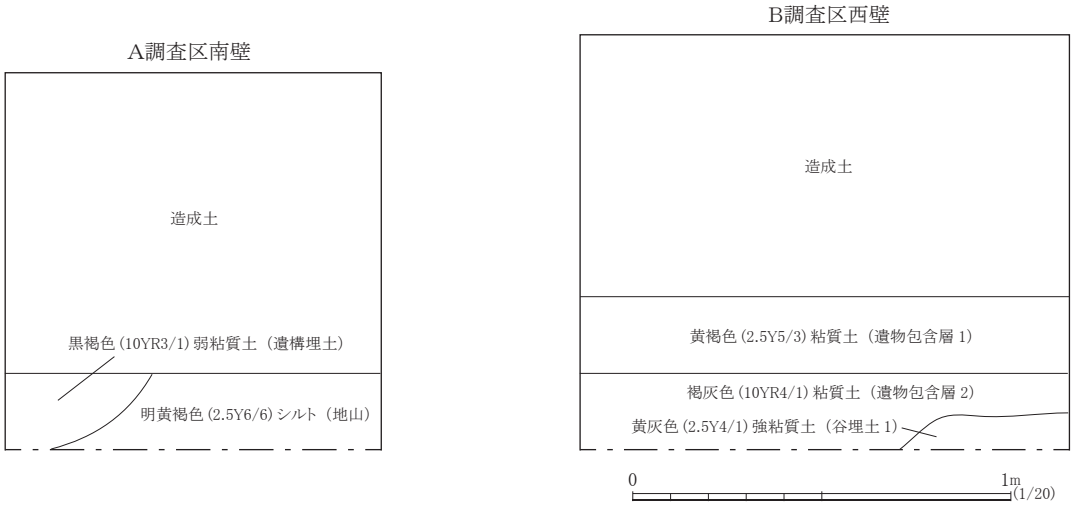


図 31　A･B調査区土層断面柱状図

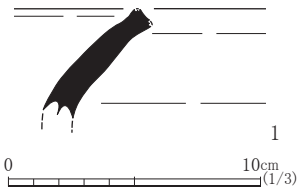
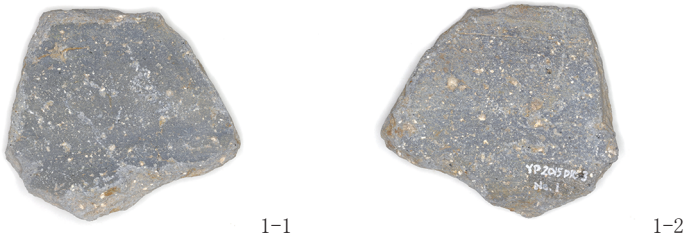


図 32　出土土器実測図



1-1　　1-2

写真 74　出土遺物（土器）

表 8 出土遺物（土器）観察表

法量（ ）は復元値

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量（cm）①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
1	遺物包含層～谷埋土1	須恵器　甕	口縁部	③残高4.35	①②断面　青灰色（5B5/1）	0.5～3mmφの長石含む	

ものであるが、本学造成時の盛土下には良好に遺物包含層や遺構が埋存することが裏付けられた。当該年度は共同獣医学部が欧州獣医学教育国際認証を取得するための施設拡充計画が進められ、動物医療センター周域で小規模工事が多発した。当館は動物医療センター周域のみならず地下の掘削を伴うあらゆる工事計画に対し、原因部局に対しては計画地の必然性を確認しており、開発部局には工法の確認および工法変更の可能性を検討してもらっており、全学をあげて埋蔵文化財保護のため協力いただいているが、この度のような施設拡充計画においては、教育研究施設の配置変更にも限界があることから、いずれも工事立会を実施することとなり、その全てで埋蔵文化財の遺存を確認した。当地周辺が吉田遺跡の最重要埋蔵文化財保護地域であることに変わりなく、今後とも各方面の協力を得ながら慎重な保護活動を実施していきたい。

【註】

1）横山成己（2012）「農学部附属動物医療センター改修Ⅲ期工事に伴う本発掘調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成20年度－』，山口

2）横山成己（2010）「農学部附属家畜病院改修Ⅰ期工事に伴う本発掘調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成18年度－』，山口

5．動物医療センター外灯設置工事に伴う立会調査

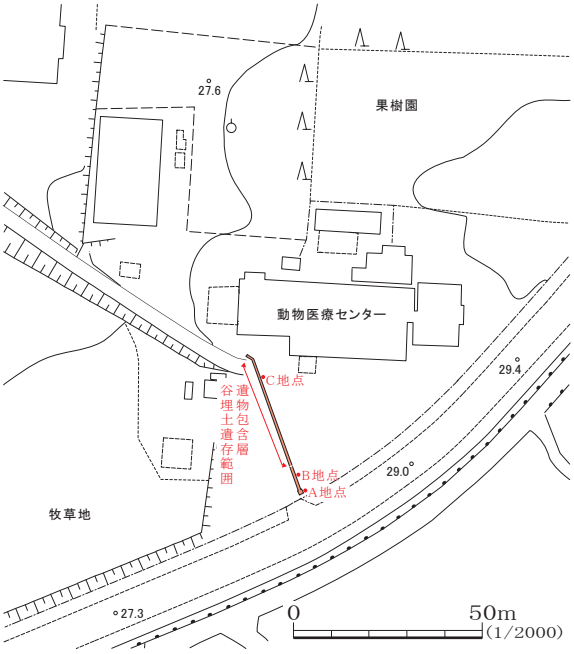


図 33　調査区位置図

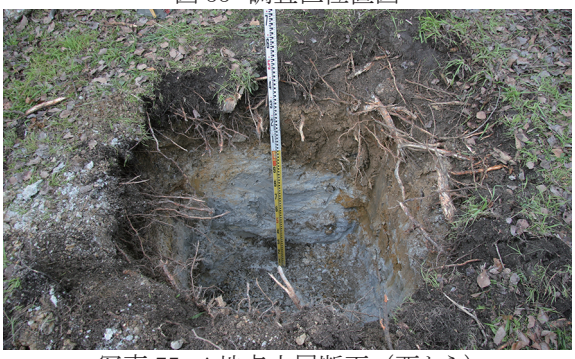


写真 75　A地点土層断面（西から）

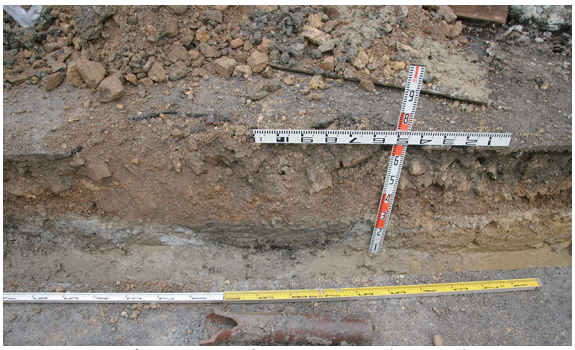


写真 76　B地点土層断面（西から）

写真 77　C地点土層断面（南東から）

調査地区　吉田構内S-20区

調査面積　22㎡

調査期間　平成28年1月23・31日、2月10日

調査担当　横山成己

調査結果

当事業計画に関しては、平成21年度第13回埋蔵文化財資料館専門委員会（平成22年3月23日開催）に提出されて以来、予算の都合上計画が実現化していなかったが、当該年度に動物医療センター（リニアック室等）新営その他工事が実施されるにあわせ着手されることとなった。

工事は動物医療センター（リニアック室等）新営その他工事（外灯設置）にて設置された東側外灯（前頁図30のB地点）から電気線を引き込み、動物医療センター南側ゲートの東に新たに外灯を設置するもので（図33）、工事掘削時に立会調査を実施する運びとなった。

工事は新設外灯の基礎掘削から行われ、電気線の埋設掘削は南から北に向かって進行した。基礎掘削部であるA地点では、0.2mの表土直下が地山であり、埋蔵文化財は確認されなかった（図34、写真75）。

管路の掘削ではA地点より造成土直下が浅黄橙色（10YR8/4）シルトまたは灰白色（N8/）シルトの地山である状況が続き、外灯より北に約5mのB地点にて、現地表下0.45mの深度で地山を掘り込む幅0.8mで深さ0.25m以上の土壙を確認した（図34、写真76）。埋土の土質は黒褐色（10YR3/1）粘質土であった。

A地点より6.5m以北からは、造成土直下に褐灰色（10YR4/1）粘質土（遺物包含層2）または削平により黄灰色（2.5Y4/1）強粘質土（谷埋土1）が露出する状況が続いた。C地点では、現地表下0.45mにて同様な状況が見られた（図34、写真77）。

出土した遺物はいずれも遺物包含層2または谷埋土1からのもので、須恵器7点、土師器12点、陶

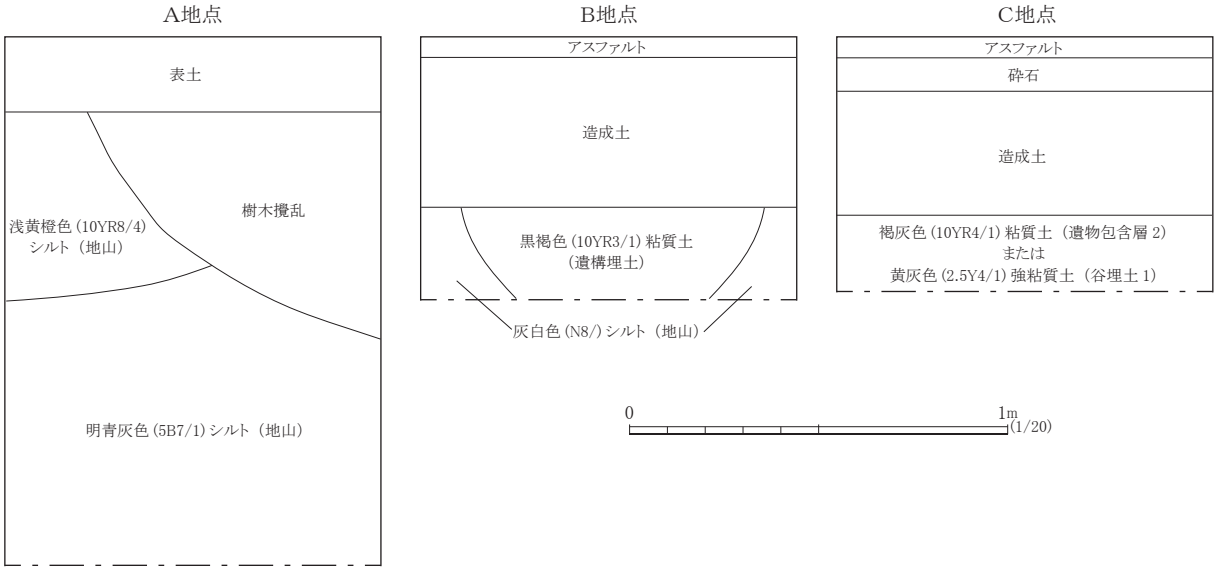


図 34　A～C地点土層断面柱状図

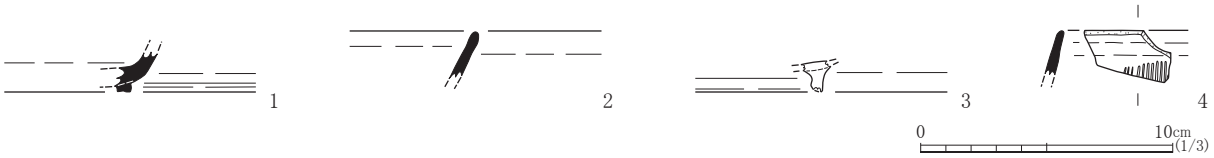


図 35　出土土器実測図

写真 78　出土遺物（土器）

表 9 出土遺物（土器）観察表

法量（ ）は復元値

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量（cm）①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
1	遺物包含層2～谷埋土1	須恵器　高台付坏	底部	③残高1.55	①青灰色（5B5/1） ②青灰色（5B6/1） 灰白色（N7/）	0.5～1mm φの長石含む	
2	遺物包含層2～谷埋土1	須恵器　坏	口縁部	③残高1.90	①灰黄色（2.5Y7/2） ②断面　灰白色（2.5Y7/1）	0.1～0.3mm φの砂粒含む	焼成やや不良
3	遺物包含層2～谷埋土1	土師器　高台付坏	底部	③残高1.25	①②断面　橙色（7.5YR6/6）	0.1～0.3mm φの砂粒含む	
4	遺物包含層2～谷埋土1	青磁　椀	口縁部	③残高2.1	①②オリーブ灰色（2.5GY6/1） 断面　灰白色（N8/）	精緻（砂粒をほぼ含まない）	

器2点、瓦1点である。図示可能な資料は4点に過ぎない（図35、写真78、表9）。

山口市教育委員会により実施された市道問田神郷線送水管埋設工事に伴う発掘調査では、ゲートの東方約10m地点で埋没谷と見られる落ち込みが確認され、古代の須恵器類とともに製塩土器が出土している[註1]。当調査では動物医療センターからゲート間の地下の様相の一端を知ることができた。

【註】

1）縄田潔（1991）「吉田遺跡」，山口市教育委員会・山口市文化財センター（編）『吉田遺跡　障子岳南（山水園）遺跡』山口市埋蔵文化財調査報告書第40集，山口

6．共同獣医学部解剖実習棟前動物体焼却炉設置工事に伴う立会調査

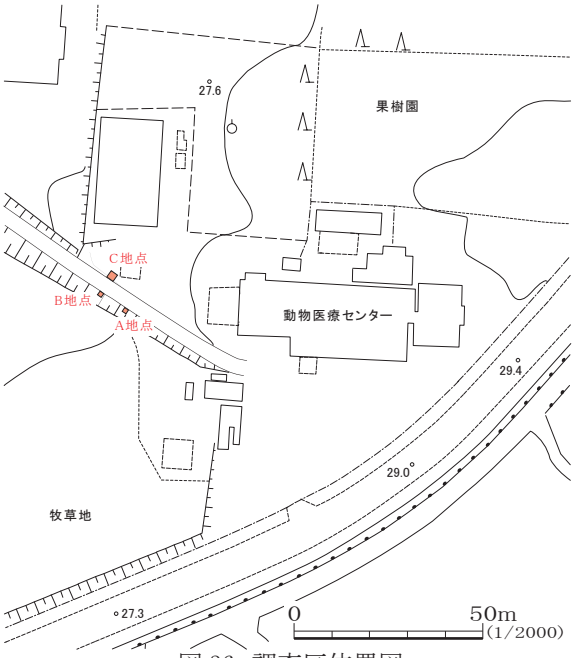


図 36　調査区位置図

写真 79　A地点土層断面（北東から）

写真 80　B地点土層断面（北東から）

写真 81　C地点土層断面（南西から）

調査地区　吉田構内R-19・20、S-20区

調査面積　10.75㎡

調査期間　平成28年1月14・18日

調査担当　横山成己

調査結果

当事業計画も、共同獣医学部が欧州獣医学教育国際認証を取得するための施設拡充のための工事である。計画当初は焼却炉を設置するために解剖実習棟前の既設枠場を解体するため浅く掘削する予定となっており、解剖実習棟新営に伴う発掘調査では古代の埋没谷とともに総柱掘立柱建物跡など遺構が密に分布する[註1]ことが明らかとなっていたことから、工事掘削時に立会調査を実施する運びとなっていたが、計画が具体化する過程で本体工事では掘削が行われず、工事に使用するクレーン車のアウトリガー接地の支障となる周辺３箇所（A～C地点）に対し掘削が行われることが判明したため、調査対象地が変更となった（図36）。

古代埋没谷の南西に南東－北西方向にのびる丘陵は、現在農学部附属農場の牧草地として活用されているが、本学吉田地区統合移転開始期の昭和41年（1966）に小野忠熙氏により吉田遺跡第Ⅱ地区と命名され、小野氏と本学学生による発掘調査が実施され、ピットや溝などの遺構が密に分布することが明らかとなっている。遺構と出土遺物の対応関係が明らかではないが、古代から中世にかけては確実に集落が営まれていたようで、弥生土器も一定量存在することから、当地への定住生活はさらに遡る可能性を有している[註2]。

工事では、丘陵の北東法面2箇所（A・B地点）に1.2m×1.2mの規模で、A地点では深度0.9m、B地点では深度1.1mの掘削が行われた。同地は遺物包含層の形成が予想されたが、いずれも表土直下が浅黄橙色(10YR8/4)シルトの地山であり、B地点の地山には、埋没谷の下層に混ざる角礫が多く含まれることを確認したが、遺構は検出されなかった（図37、写真79・80）。

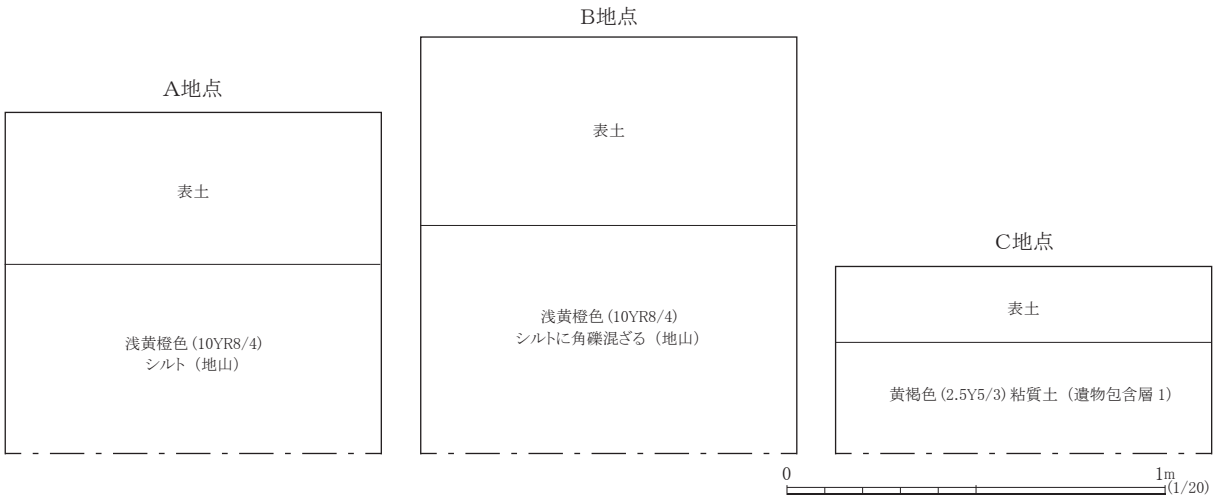


図 37　A～C地点土層断面柱状図

一方、旧枠場の南西隣に2m×2mの範囲で設定されたC地点では、古代埋没谷の存在が予測されたが、掘削深度が0.5mにおさまったことから、黄褐色（2.5Y5/3）粘質土（遺物包含層1）を確認するにとどまった（図37、写真81）。遺物包含層は人力により掘削したが、遺物は出土しなかった。

牧草地の北東部に関しては、小野氏により「馬小屋の建設中に地下から結晶片岩の板石や埴輪の破片とみられる遺物が掘り出され、古墳の内部主体の存在が予想されるに至ったので、工事を中止し、そのまま保護してある。なお、この地は、大学移転前棚田が拓かれていて勾玉を採集したことがあるといわれ、水田化以前に古墳の封土があった疑いがある」と報告されている[註3]。地元住民により採集された勾玉は現在山口市歴史民俗資料館に寄贈されており、その後本学文化会考古学部学生により実際に円筒埴輪が採取されている[註4]ことから、当地に古墳時代後期の古墳が存在したことは確実視されている。当地における近い将来の開発予定は存在しないと聞き及ぶが、学部が増加し、開発が構内縁辺にまで及んでいる昨今の状況を見ると、安心はできないものと思われる。関係部局と密に連携し、開発計画を注視する必要があろう。

【註】

1）田畑直彦（2004）「平成7・10～14年度山口大学構内遺跡の概要」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報ⅩⅥ・ⅩⅦ』，山口

2）横山成己（2007）「吉田遺跡第Ⅱ地区の調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成17年度－』，山口

3）小野忠熙（1976）『山口大学構内　吉田遺跡発掘調査概報』，山口大学吉田遺跡調査団（編），山口

4）吉田寛（1986）「吉田遺跡採集の円筒埴輪について」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅳ』，山口

7. 共同獣医学部枠場設置工事に伴う立会調査

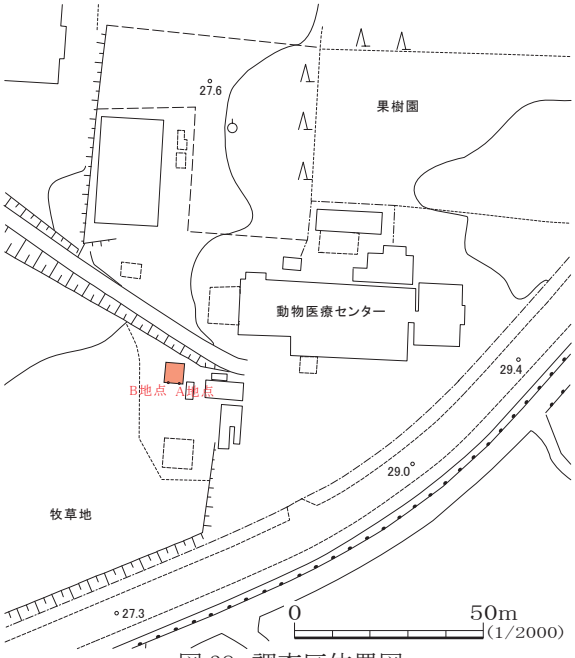


図 38　調査区位置図

写真 82　A地点土層断面（北から）

写真 83　B地点土層断面（北から）

調査地区　吉田構内R・S－20区

調査面積　25㎡

調査期間　平成28年2月15・16日

調査担当　横山成己

調査結果

前頁に記したように、解剖実習棟前の既設枠場を撤去し、新たに動物体焼却炉を設置したことから、動物医療センター周域に新規に枠場が必要となった。

新規枠場が牧草地の北東隅、前述した古墳推定地付近に計画されたことを受け、基礎掘削工事時に立会調査を実施することとなった。

工事業者に現地で工法を確認したところ、計画地が南から北に傾斜していることから、ベタ基礎設置のための掘削は南半部にとどまるとのことであった。掘削を進めたところ、造成土を抜ける掘削は南東隅（A地点）と南西隅（B地点）に設けられる1.2m×1.2m、深度0.8mの支柱基礎部分に限定されることが判明した（図38）。

A・B両地点とも、表土および造成土下に旧耕土と旧床土が存在し、下位に薄く灰黄色（2.5Y6/2）粘質土の遺物包含層が遺存しており、その下位が明黄褐色（2.5Y6/6）シルトの地山であることが判明した（図39、写真82・83）。遺物包含層からは、図化不能であるが須恵器の小片1点が出土している。

遺物包含層の確認によって、周辺域に遺構が遺存する可能性がより高まった。新規枠場の周囲には建築年不明の馬小屋や倉庫などが乱立しているが、みだりな解体など行わないよう注意を促したい。

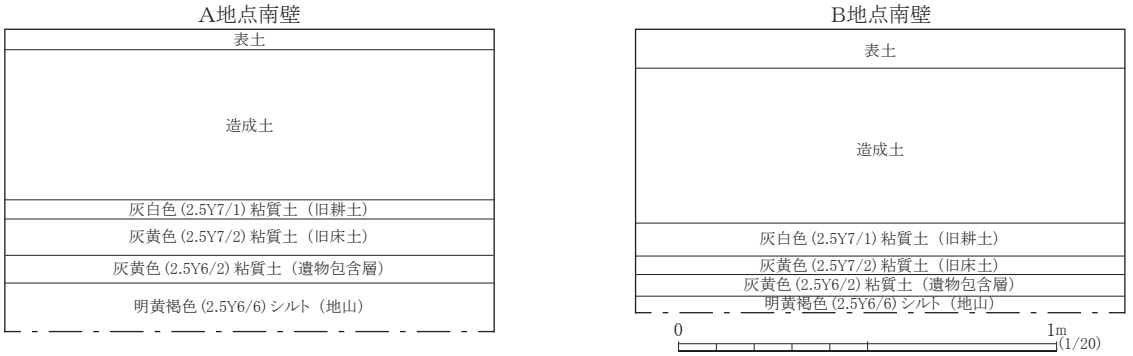


図 39　A・B地点土層断面柱状図

8．共同獣医学部カーポート設置工事に伴う立会調査

調査地区　吉田構内N－17区

調査面積　3㎡

調査期間　平成27年7月25日

調査担当　横山成己

調査結果

共同獣医学部および農学部校舎の玄関横に、身体障害者用カーポートが設置されることとなった。

昭和41年（1966）に開始された本学吉田地区への統合移転は、下関市長府からの農学部（農学科・獣医学科）の移転に始まる。農学部（獣医学部）校舎および附属農場関連施設の建設時には、埋蔵文化財保護対応がとられていなかったため、地下の様相は不明瞭のまま現在に至っていることから、農学部敷地にて計画された土地の掘削を伴う工事においては、小規模なものでも工事立会を実施し、地下情報を取得する方針としている。

当工事も工事面積が狭小であり、深度も支柱基礎部2箇所（A・B地点）で最深0.55mであったことから、掘削は造成土内にとどまった。

吉田構内中心部は学部校舎等で過密となっており、大規模工事が実施される可能性は低いことから、今後も小規模工事での地下情報の取得が重要となってくる。無駄足を踏むことも多いと思われるが、継続的に調査を行いたい。

図 40　調査区位置図

写真 84　A地点土層断面（西から）

写真 85　B地点土層断面（西から）

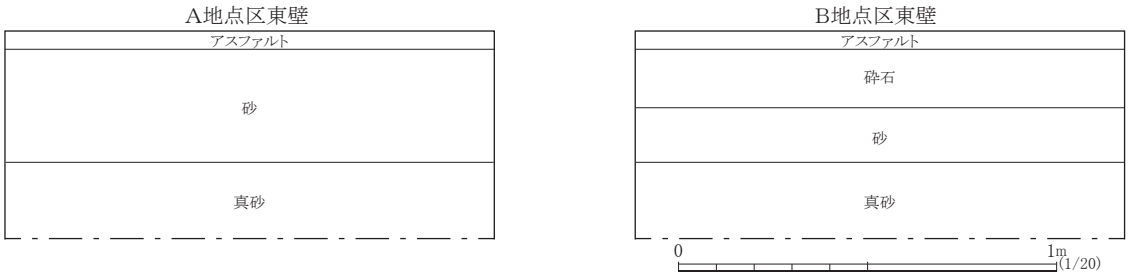


図 41　A・B地点土層断面柱状図

9．農学部附属農場水田排水路工事に伴う立会調査

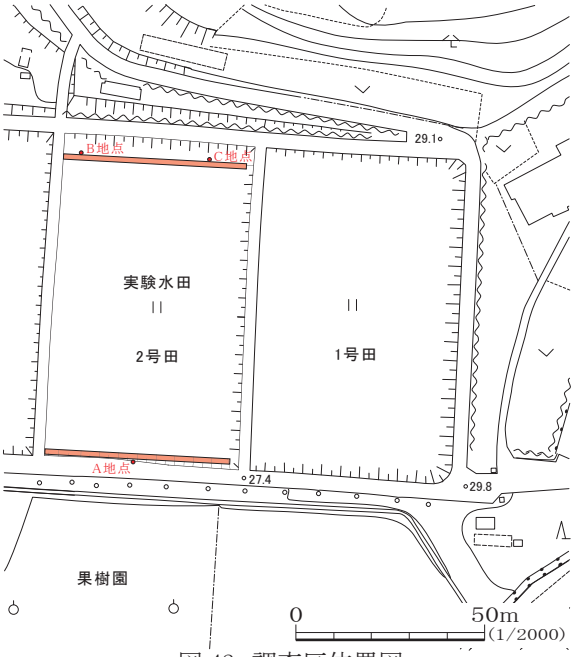


図 42　調査区位置図

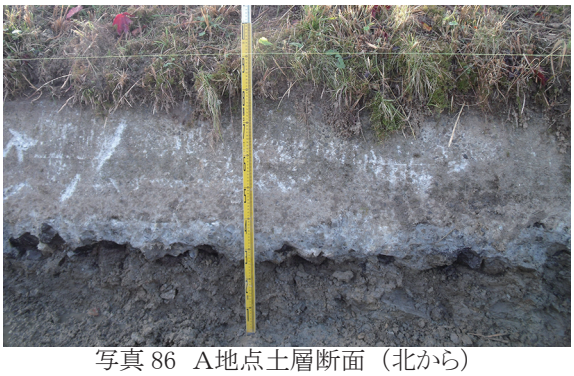


写真 86　A地点土層断面（北から）

写真 87　B地点土層断面（南から）

写真 88　C地点土層断面（南西から）

調査地区　吉田構内T・U－15・17区

調査面積　100㎡

調査期間　平成27年11月６日

調査担当　横山成己

調査結果

平成26年度に続き[註1]、平成27年度も農学部附属農場実験水田に排水路工事が計画された。実験水田においては、平成９年から10年にかけて実施した分布調査において、１号田の主に北半部で40点の遺物が採取されており、７世紀代の須恵器が報告されている[註2]。平成21年度には１号田から５号田の北側、５号田の西側と中央に排水用暗渠を設置する工事が実施され、立会調査を行った結果、西端の５号田において遺物包含層および河川跡を確認し、古代の遺物が包含されていることを確認した[註3]。

当該年度の工事は、２号田の南北に東西方向の排水路を設けるという計画であり（図42）、掘削深度から地山を掘り抜くことが確実視されたため、平成27年度第３回埋蔵文化財資料館専門委員会（平成27年８月18日開催）にて保護対応が諮られ、立会調査を実施する運びとなった。

調査の結果、南側排水路（A地点）は耕土直下が地山であり、水田構築時に旧地形を大きく削平していることが明らかとなった（図43、写真86）。

一方の北側排水路に関しては、水田の北を東から西にのびる丘陵の南縁辺部にあたることから、こちらも大きく削平を受けているものと予想されたが、B地点、C地点の２箇所において、明黄褐色（2.5Y6/6）に灰色（N5/）が混ざるシルトの地山を掘り込む溝状遺構を検出した（図43、写真87・88）。溝状遺構は、丘陵方向と直交し南北方向に走っている。遺物が確認されなかったため所属時期は不明であるが、B地点検出の溝状遺構埋土には有機物が多量に含まれていることから、用水路または暗渠として使用されたものと推測される。

農学部附属農場実験水田周辺は、古代の遺構や遺物が散見されるとともに、江戸時代中期（18世

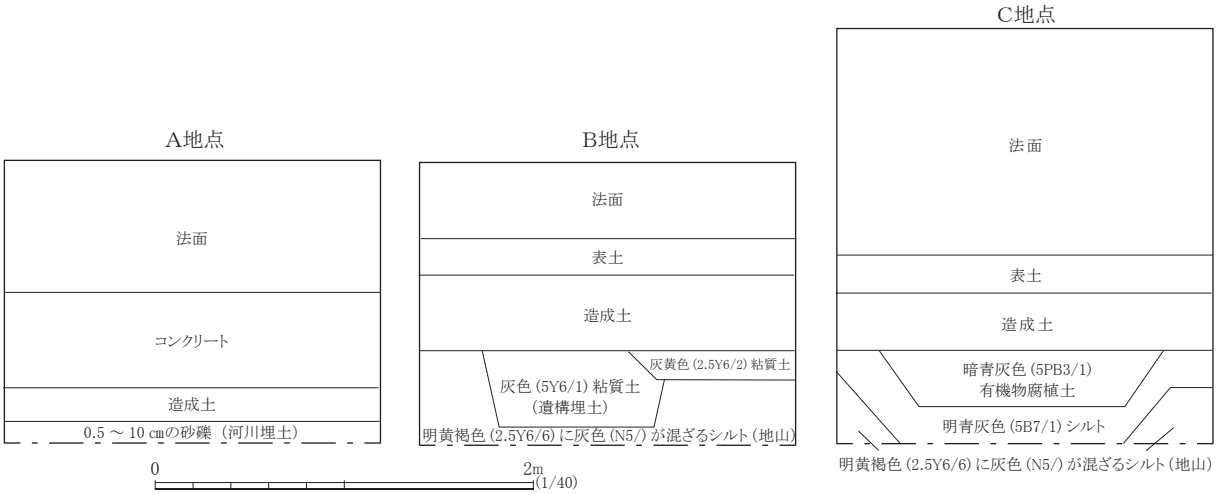


図 43　A～C地点土層断面柱状図

紀前半）の絵図に集落および水田が描かれている[註4]ことから、近世の遺構や遺物が遺存する可能性が極めて高い地域である。しかしながら、前頁でも述べたとおりに、本学の吉田地区統合移転順序の事情により、農学部附属農場敷地の地下の様相は不明と言わざるを得ない。小規模工事に対しても、今後とも慎重な埋蔵文化財保護対応が必要である。

【註】

1）横山成己（2019）「農学部附属農場水田排水路工事に伴う立会調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成26年度－』，山口

2）田畑直彦（2004）「吉田構内農学部附属農場の分布調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報ⅩⅥ、ⅩⅦ』，山口

3）横山成己（2013）「農学部附属農場水田暗渠排水工事に伴う立会調査査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報-平成21年度-』，山口

4）享保12年（1727）から宝暦3年（1753）にかけて萩藩により作成された「地下上申絵図　吉田村清図」（山口県文書館所蔵）による。

10. 理学部駐輪場屋根新設工事に伴う立会調査

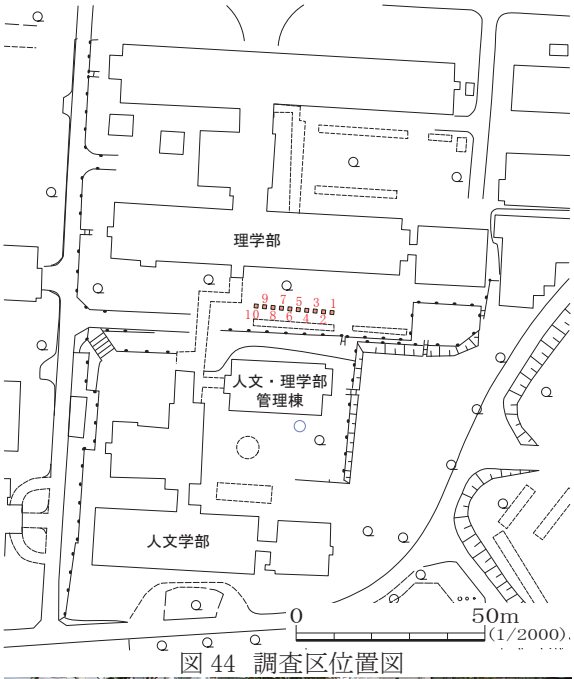


図 44　調査区位置図

写真 89　工事風景（南西から）

写真 90　9調査区土層断面（南から）

9調査区北壁

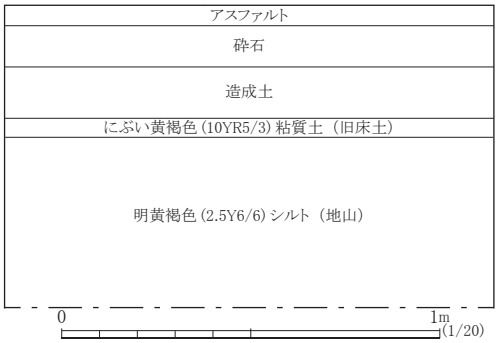


図 45　9調査区土層断面柱状図

調査地区　吉田構内N－20区

調査面積　16㎡

調査期間　平成28年3月22日

調査担当　横山成己

調査結果

本学吉田キャンパスでは、平成21年（2009）時点で、各学部・大学院に在籍する学生約6,600名に対し、駐輪場収容台数は5,790台となっていた[註1]。自転車通学生が在学生の約7割にあたる4,600名であることから、十分に駐輪できる計算であったが、駐輪マナーの悪化（道路など駐輪場以外への駐輪）が指摘され続け、その原因の一つとして、駐輪場に屋根がないことが指摘されていた[註2]。

平成27年度末に至り、理学部より駐輪場屋根の新設工事計画が提出された。工事に対する埋蔵文化財保護対応に関し、2月1日から第8回埋蔵文化財資料館専門委員会がメール審議にて開催され、審議の結果工事立会を実施する運びとなった。

土地の掘削は10箇所に設けられる支柱基礎部（東から1～10調査区）で（図44、写真89）、各所1.25m×1.25mの範囲で深さ0.8mまで行われた。

調査の結果、東半部（1～6調査区）は造成土直下が明黄褐色（2.5Y6/6）シルトの地山で、大学造成時に大きく削平を受けていることが判明した。7調査区以西は、造成土と地山の間に旧床土と見られるにぶい黄褐色（10YR5/3）粘質土が存在しており、わずかに埋蔵文化財が遺存する可能性を残しているが、本学移転以前の耕地化に伴い、ある程度地山の削平を受けているものと推測される。

【註】

1）松本治（2009）「吉田キャンパスの駐輪環境について」，山口大学総合科学センター排水処理施設（編）『山口大学環境保全』NO.25，山口

2）葛崎偉（2011）「吉田キャンパスの駐輪状況について」，山口大学総合科学センター排水処理施設（編）『山口大学環境保全』NO.27，山口

11. 図書館周辺雨水排水整備工事に伴う立会調査

調査地区　吉田構内N－16区

調査面積　35㎡

調査期間　平成27年9月18・19日

調査担当　横山成己

調査結果

埋蔵文化財資料館西側を走る構内周回道路と東門から西に延びる道路が交差する地点は、北と東の高所から雨水が集中する位置にあたり、排水機能が低下していることから、大雨時には歩行困難な状態となることが多かった。

この状況を改善するため、施設環境部より図書館周辺雨水排水整備工事計画が提出されたことを受け、平成27年度第1回埋蔵文化財資料館専門委員会（平成17年6月16日開催）にて埋蔵文化財保護対応が諮られた。

平成24年（2012）に工事計画地（図46）西側で実施した総合図書館3号館増築に伴う本発掘調査では、現地表下0.95mで弥生時代から鎌倉時代にかけての遺物を多量に包含する埋没河川が確認されており[註1]、当工事の掘削最深度が1.5mを予定されていることから、立会調査の実施が承認された。

調査の結果、周回道路の地下は厚く造成されており、部分的に著しく攪乱を受けていることが判明した（図47、写真91・92）。なお、断面模式図を作成した範囲以南は、雨水管布設の掘削深度が浅くなるため、調査対象から省いた。

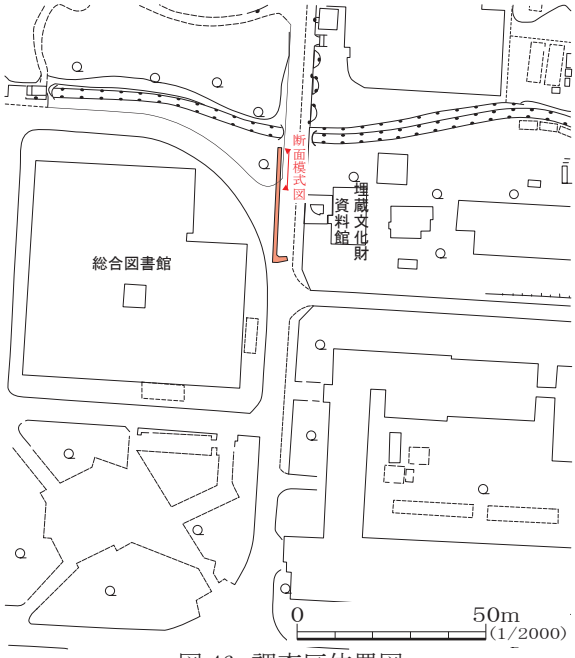


図 46　調査区位置図

写真 91　A地点土層断面（南西から）

写真 92　B地点土層断面（西から）

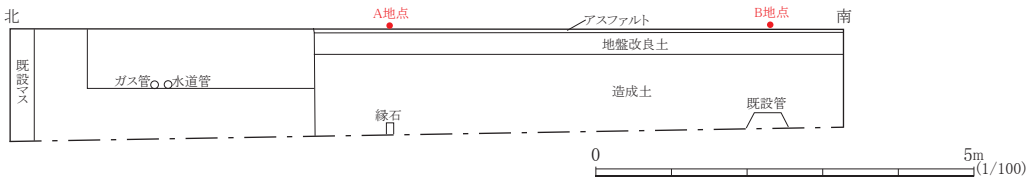


図 47　土層断面模式図

【註】

1）横山成己（2016）「図書館改修工事及び環境整備（図書館周辺道路迂回）工事に伴う本発掘調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成24年度－』，山口

12. 総合研究棟横小路バリカー設置工事に伴う立会調査

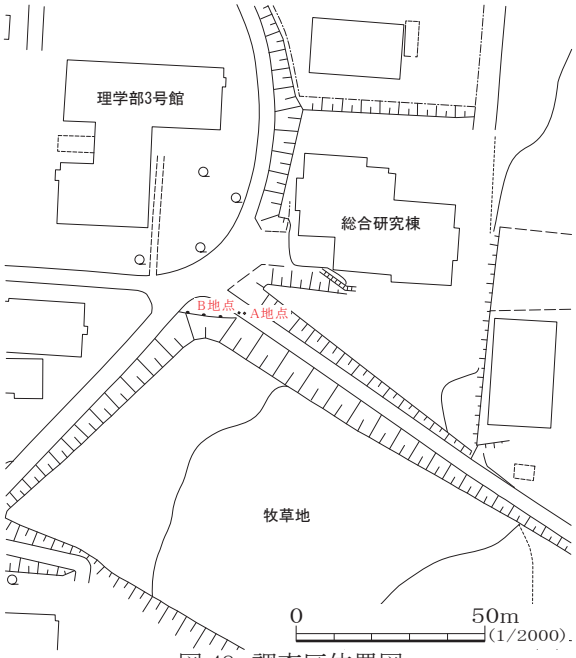


図 48　調査区位置図

写真 93　A地点土層断面（西から）

写真 94　B地点土層断面（西から）

調査地区　吉田構内Q－18・19区

調査面積　0.25㎡

調査期間　平成28年1月22日

調査担当　横山成己

調査結果

平成27年度に、吉田構内南東部の総合研究棟南側小路と理学部3号館西側道路の交差点にて、自動車と自転車による交通事故が発生した。総合研究棟南側小路は動物医療センターから西に急な下り坂となっており、交差点前では見通しも悪いことから、以前より危険性が指摘されていた。

事故の発生を受け、11月に施設環境部より小路の交差地点前にバリカーを設置する工事計画が提出された（図48）。工事に対する埋蔵文化財保護対応に関し、11月30日から第6回埋蔵文化財資料館専門委員会がメール審議にて開催され、審議の結果、工事立会を実施する運びとなった[註1]。

掘削はバリカー基礎2箇所（A・B地点）に対し、0.35m×0.35mの規模で、0.35mの深さまで行われ、調査の結果いずれも造成土や既設管砂巻きの中でとどまることを確認した（図49、写真93・94）

【註】

1）当地については、平成12年（2000）に架空電線取り外し埋設工事に伴う立会調査が実施されていた。掘削深度30～60㎝での工事であったが、平成27年度当時は調査報告が未刊行であり詳細が不明確であったことから、慎重を期した。

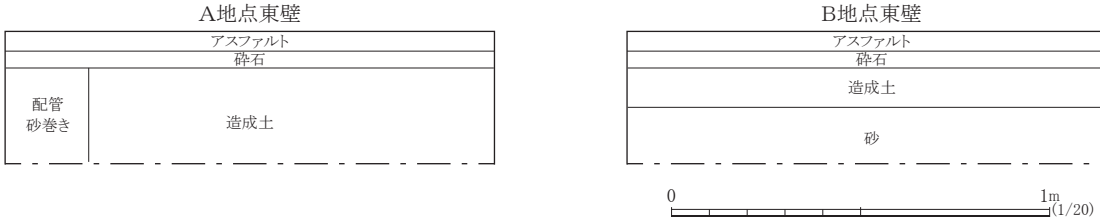


図 49　A・B地点土層断面柱状図

13. 総合研究棟北側喫煙所新設工事に伴う立会調査

調査地区　吉田構内Q－17・18区

調査面積　4.5㎡

調査期間　平成28年2月15日

調査担当　川島尚宗　横山成己

調査結果

平成27年12月に至り、学術研究部より総合研究棟敷地内喫煙所新設の事業計画が提出された。12月８日から第7回埋蔵文化財資料館専門委員会がメール審議にて開催され、審議の結果、工事は小規模なものであるが、総合研究棟敷地では既往の調査により古代の埋没谷や遺構が検出されている[註1]ことを重視し、工事立会を実施する運びとなった。

支柱の基礎掘削は4箇所（A～D地点）で行われた（図50）が、いずれも造成土内にとどまり埋蔵文化財に支障は生じなかった（図51、写真95・96）。

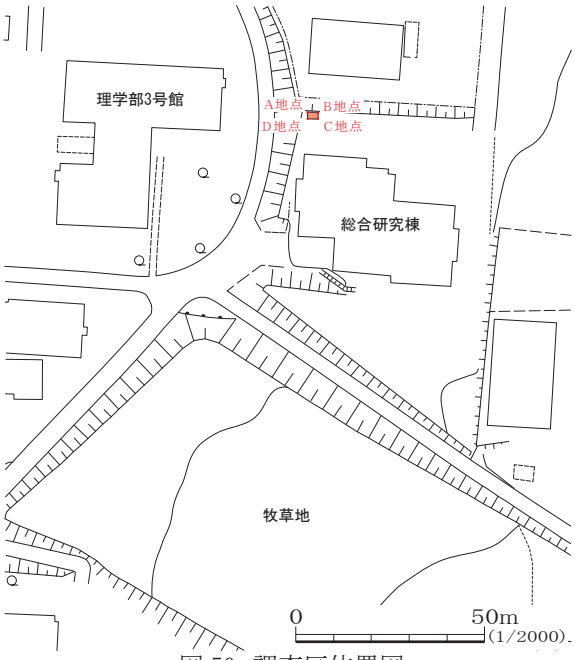


図 50　調査区位置図

【註】

1)田畑直彦(2017)「吉田構内総合研究棟新営に伴う発掘調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡遺跡調査研究年報ＸＸ』，山口

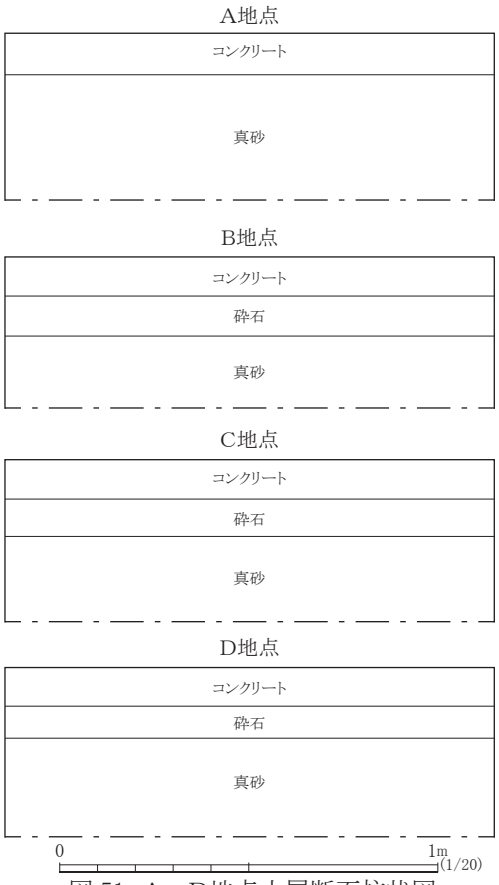


図 51　A～D地点土層断面柱状図

写真 95　A地点土層断面（南から）

写真 96　B地点土層断面（南から）

14. 陸上競技場横遊歩道標識設置工事に伴う立会調査

調査地区　吉田構内E－20、H－18区　　**調査面積**　2㎡

調査期間　平成27年10月28日　　**調査担当**　横山成己

調査結果

夏季休業前に、施設環境部より陸上競技場南東側遊歩道に歩行者用道路標識を設置する事業計画が提出されたことを受け、平成27年度第3回埋蔵文化財資料館専門委員会（8月18日開催）にて埋蔵文化財保護対応が審議された。工事は遊歩道北東・南西端部に標識を設置するもので（図52）、掘削は平面規模1m×1m、深度約1mであった。陸上競技場と遊歩道には約0.8mの高低差があり、遊歩道側に盛土が施されているが、陸上競技場南部での既往調査では、現地表下0.1m強の深度で先史時代のものと見られる溝など遺構が複数確認されている[註1]ことから、工事立会にて対応することが承認された。実際の工事はA地点が0.6m、B地点が0.65mの掘削にとどまったため、支障は生じなかった（写真97・98）。

【註】

1）田畑直彦（2016）「陸上競技場トラック排水溝改修工事に伴う立会調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成24年度－』，山口

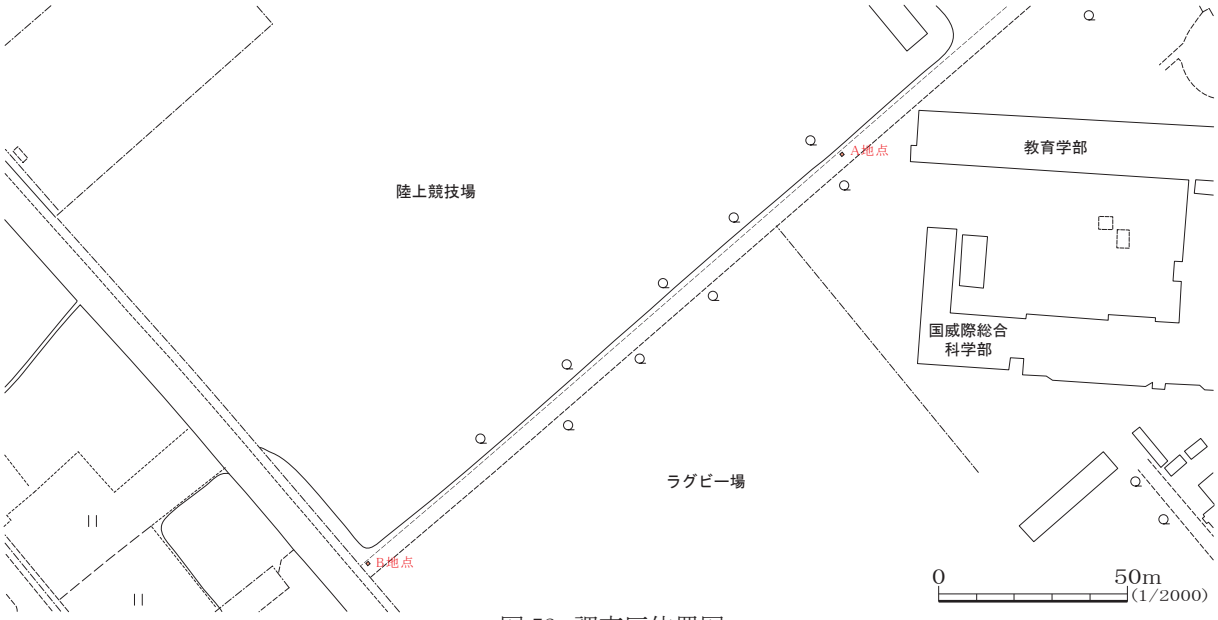


図 52　調査区位置図

写真 97　A地点土層断面（北東から）

写真 98　B地点土層断面（北東から）

15. 正門前樹木植樹工事に伴う立会調査

調査地区　吉田構内I－12区

調査面積　5㎡

調査期間　平成27年11月４日

調査担当　横山成己

調査結果

本学は平成27年（2015）をもって創基200周年を迎えたそうである。その記念事業として、吉田構内正門前に全長9mクリスマスツリー（モミの木）を植樹する計画が施設環境部より提出された（図53）。

平成27年度第1回埋蔵文化財資料館専門委員会（平成27年6月16日開催）にて対応が審議され、工事掘削が現地表下1mを超える可能性が高いとのことから、立会調査の実施が承認された。

人と人、地域と大学が繋がるきっかけとなり、新たなコミュニティの場を形成することを目的として、12月１日にはクリスマスツリー電飾点灯式が開催されることが決定されたことから、植樹工事は11月４日に行われた。

工事は既存のケヤキの撤去に始まり、現地表下1.1mまで掘削が行われたが、地山が露出することはなかったことから、記録を作成後、調査を終了した（図54、写真99・100）。

図 53　調査区位置図

写真 99　工事風景（北西から）

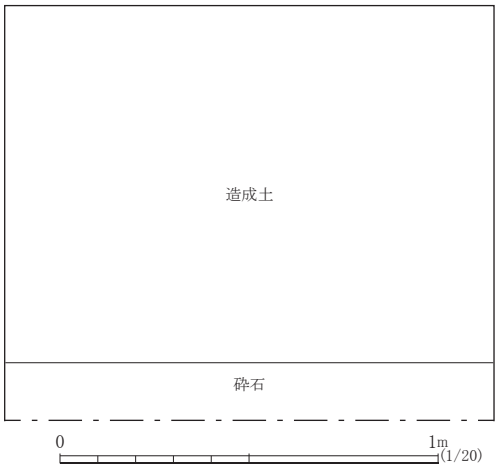


図 54　土層断面柱状図

写真 100　土層断面（西から）

15. 事務局前樹木移設工事に伴う立会調査

図 55　調査区位置図

写真 101　A地点土層断面（西から）

写真 102　B地点土層断面（西から）

調査地区　吉田構内K－15、I－16

調査面積　約14．5㎡

調査期間　平成27年7月18日

調査担当　田畑直彦

調査結果

共通教育講義棟A棟（A地点）の樹木（カイヅカイブキ）1本を事務局前の庭園（B地点）に移設することに伴い（図55）、立会調査を実施した。

A地点では直径約4mの範囲を現地表下約83㎝まで掘削が行われたが、全て造成土の範囲内であった（写真101）。B地点では、平面形1.3m×1.8mの範囲を現地表下47㎝で掘削が行われたが、全て造成土の範囲内であった（写真102）。

以上の結果、埋蔵文化財に支障はなかった。しかし、B地点から約25m南側に位置する水銀灯新営に伴う発掘調査A区[註1]では、現地表下約86㎝で遺物包含層、以下約92㎝の地山面で古墳時代の溝状遺構が検出されている。B地点周辺では弥生～古墳時代の遺構・遺物が存在する可能性が高く、埋蔵文化財の保護に注意が必要である。

【註】

1）河村吉行（1991）「第2章　吉田水銀灯新営に伴う発掘調査」山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅸ』,山口